

山口県立美術館年報

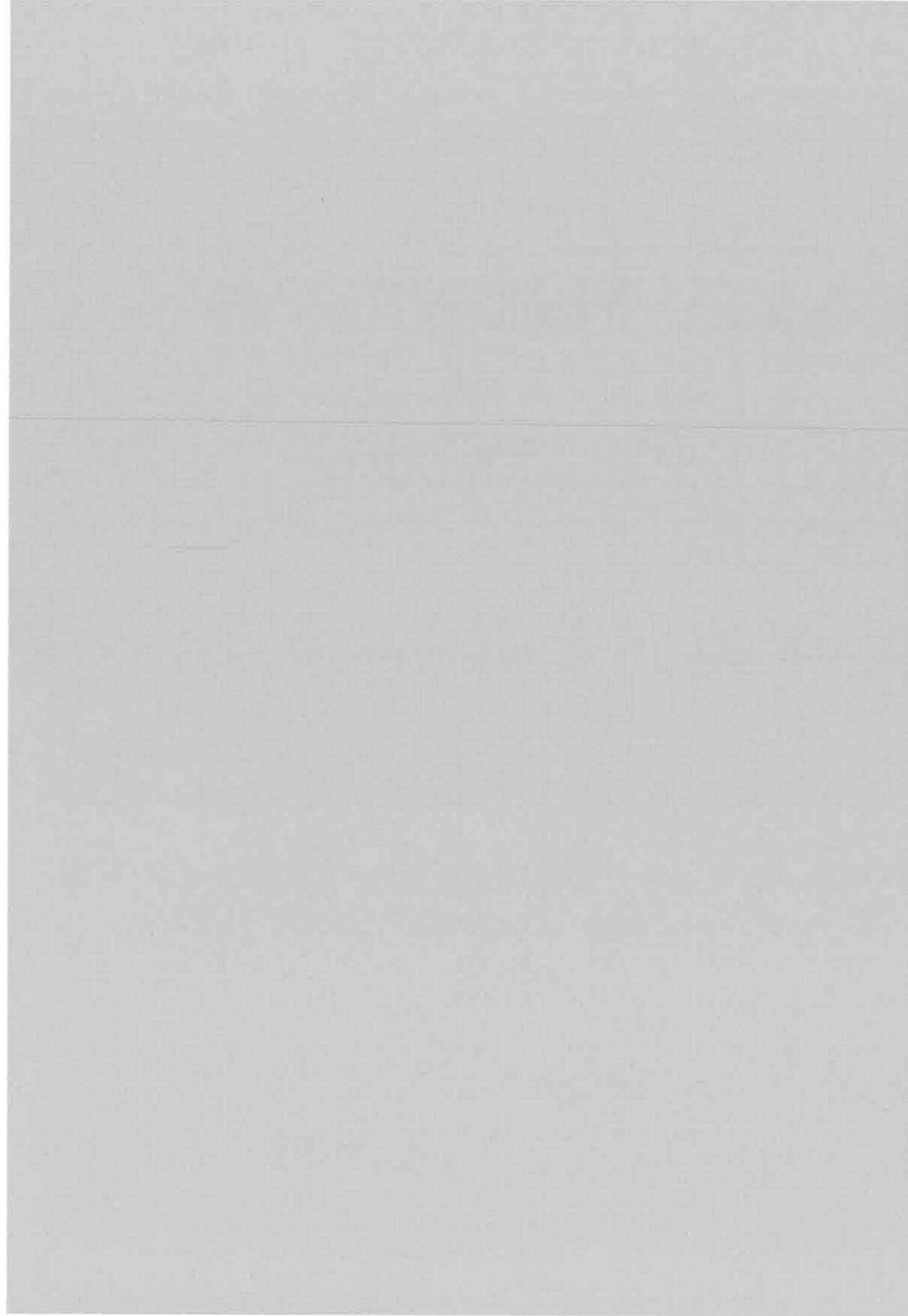
平成25～26年度

ANNUAL REPORT

2013 ~ 2014

YAMAGUCHI PREFECTURAL ART MUSEUM





山口県立美術館年報

平成25～26年度

ANNUAL REPORT
2013 ~ 2014
YAMAGUCHI PREFECTURAL ART MUSEUM

目 次

山口県立美術館概要	3
1) 事業	
I. 展覧会事業	
(1) 特別展	6
(2) 山口県美術展覧会	53
(3) コレクション展	57
II. 教育普及事業	
(1) やまぐちこども美術館事業	78
(2) 学校連携	80
(3) HEART (ミュージアムタウン・ヤマグチ)	85
(4) 雪舟ウィーク	90
(5) 美術館ボランティア	92
(6) 県立美術館メンバーズクラブ	94
(7) 博物館実習	95
(8) その他の事業	97
III. 調査研究事業	
雪舟研究会	102
IV. 収集管理保存事業	
(1) 館藏品寄託品貸出利用状況	106
(2) コレクション	107
(3) 作品修理・修復	112
(4) 美術図書	114
2) 入館者数一覧	116
3) 組織等	122

山口県立美術館概要

所在地 山口市亀山町3番1号
敷地面積 11,618.330平方メートル

1. 当初建物

建物面積 4,077.168平方メートル
建物延面積 5,477.880平方メートル
構造 鉄筋コンクリート造 / 地下1階・地上2階 / 一部鉄骨造
工期 1977（昭和52）年8月 - 1979（昭和54）年3月
設計 鬼頭梓建築設計事務所
施工 鹿島建設株式会社 / 日本電設工業株式会社 / 株式会社 大気社 / 塩田工業株式会社
総工費 1,700,000,000円

2. 喫茶室新築

建築延面積 66.16平方メートル
構造 壁式鉄筋コンクリート造 平屋建
工期 1987（昭和62）年1月 - 3月
総工費 25,552,000円

3. 収蔵庫等増築

建築延面積 1,188平方メートル
構造 鉄筋コンクリート造 2階建（地下1階）
施設概要 収蔵庫、備品収納庫、作業室、図書室、資料室等
工期 1987（昭和62）年12月 - 1989（平成元）年1月
総工費 604,853,000円

4. 空気調和設備等改修工事

工期 2005（平成17）年7月 - 2006（平成18）年3月
総工費 436,755,000円

5. 美術館改修工事

改修施設概要 展示室、ロビー、収蔵庫、トラックヤード、中庭、喫茶室、講座室
工期 2011（平成23）年11月 - 2012（平成24）年3月
総工費 699,915,000円

展覧会事業

特別展

館の調査研究にもとづくユニークな自主企画展や新聞社および他館との共催展を開催し、古今東西の多様な美術文化を紹介する。

山口県美術展覧会

山口県における総合的美術文化の普及と振興をはかるために、幅広く作品を公募。審査の後、その優秀なるものを展示、紹介する。

コレクション展（常設展）

当館の館蔵品寄託品（コレクション）を中心として、本県の美術文化の歴史や郷土が生んだ代表的作家の全体像などをわかりやすく展示する。

教育普及事業

学校連携

児童生徒、教員が美術文化にふれあい、ともに学ぶ場としての美術館の普及をはかる。

HEART（ミュージアムタウン・ヤマグチ）

県美術展覧会の開催に合わせて、近隣の山口市商店街連合会とも協働し、アート・イベント（HEART）を開催。様々な視点から現在の美術に接する場を県民に提供する。

ボランティア

ボランティアの知識や経験を生かした活動を通じて県民の美術館活動への理解を広めるとともに、その活動が県民にとって美術により深く接する場となることをねらいとする。

講演会・講座

美術講座、美術講演会、ワーク・ショップなどを実施し、美術への理解を深める場を県民に提供する。

調査研究および収集管理保存事業

本県の美術に関する調査研究を実施し、基礎資料や作品の収集を充実させるとともに、これを保管整理し有効な活用をはかる。

事業

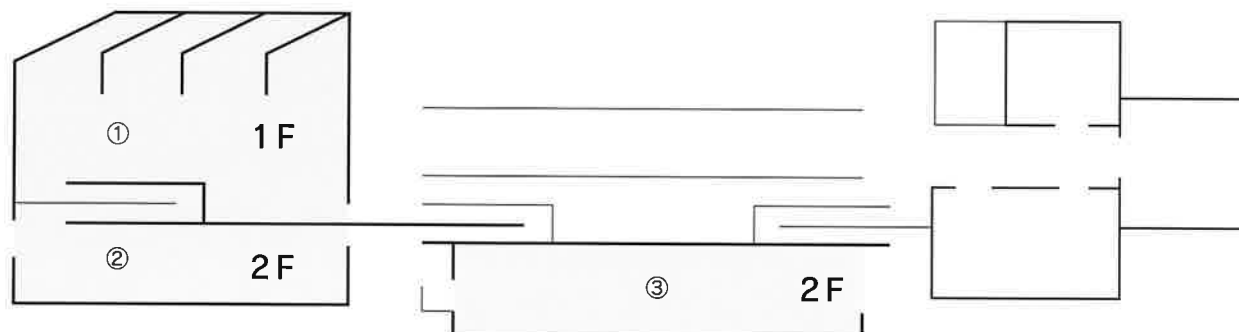
I. 展覧会事業

(1) 特別展

平成25、26年度は、水墨画（松林桂月展、雪舟と雲谷派展）、幕末明治の日本画（五百羅漢図展）、ヨーロッパ絵画（ナント美術館展）、近代洋画（松田正平展、香月泰男展）、浮世絵（大浮世絵展）、工芸（明治工芸の粋展）、その他（山下清展）と、ジャンル、時代ともに多様な展開となった。特に、浮世絵や工芸の展覧会は久しぶりの開催となり、多くの方々にご来館いただいた。

また、当館の収蔵作家の回顧展（松田正平展、松林桂月展）は、近年の研究成果を踏まえて、当館のみならず、他県での開催を実現し、山口県ゆかりの美術文化を全国に発信することができた。

2年間で9つの展覧会を開催し、多くの観客（2年で約298,000人）にご来場いただいたことで、山口市の中心商店街との連携強化（展覧会半券を商店街での割引券として使用など）が実現し、文化資源あるいは教育資源としての美術館という側面のみならず、観光資源としての側面もアピールするきっかけともなった。



展示室 F（企画展示室Ⅰ）(①) 583.298㎡

展示室 E（企画展示室Ⅱ）(②) 304.695㎡

展示室 D（常設展示室Ⅱ）(③) 471.825㎡（展覧会の大型化に伴い、特別展用展示室として使用）

* 凡例

以下の展覧会は名称（会期・主催等）、(1) 趣旨・概要、(2) 会場構成、(3) カタログ、(4) 出品目録、(5) 講演会等の順で編集した。

生誕100年 松田正平展 悠久の周防灘

2013（平成25）年4月11日（木）～5月26日（日） 月曜休館（ただし4月29日、5月6日は開館、5月7日休館）

主催 松田正平展実行委員会（山口県立美術館、宇部市、読売新聞社、KRY山口放送）

特別協力 宇部日报社、エフエム山口

協力 宇部文化連盟、宇部市芸術文化を高める会

後援 宇部商工会議所、一般社団法人宇部観光コンベンション協会



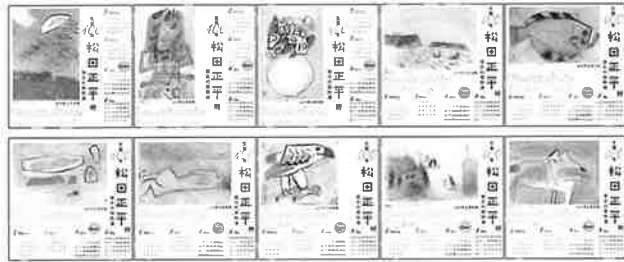
ポスター：周防灘



ポスター：四国犬



チラシ表面



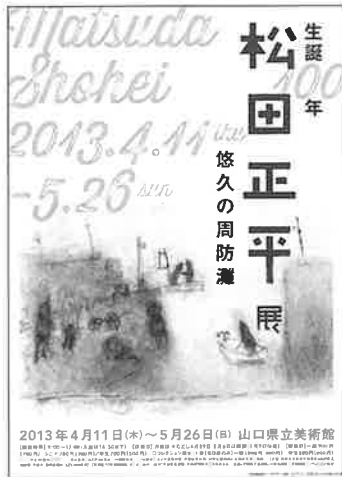
カレンダー



チラシ中面



作品解説A面



プレチラシ表面



作品解説B面



プレチラシ裏面

(1) 趣旨・概要

山口県宇部市にゆかりの洋画家、松田正平（1913-2004年）の生誕100年を記念して、初期から最晩年まで各時代の代表作101点を一堂に会した大回顧展を開催した。松田正平は東京美術学校卒業後、第二次世界大戦前夜のパリに留学し、帰国後は国画会を中心に作品を発表。山口で終戦を迎えた後、1952年に上京し、1963年から1995年までは千葉県市原市鶴舞にアトリエを構えて制作を続けた。最晩年は故郷の宇部に戻り、2004年、91歳でこの世を去った。

同郷で世代も同じ香月泰男とは対照的に、松田正平の名が広く世に知られるようになるのは、画家が60代半ばに差し掛かった1970年代後半以降のことである。透明感のある独特の色彩や飄々とした人柄そのままの洒脱な線描、おおらかではのほのとした詩情豊かな表現が、洲之内徹をはじめとする批評家、好事家たちに絶賛され、1984年には第16回日本芸術大賞を受賞した。その一方で、「売れない画家」の時代が長かった松田が、晩年にオリジナリティ溢れる表現を獲得するまでの画業の変遷はこれまで明らかにはなっていなかった。本展覧会は、東京美術学校時代からパリ留学、戦前戦後の模索期を経て1970年代後半の画風の確立、そして最晩年の洗練まで、各時代の代表作を辿りながら松田正平の画業を通覧できる極めて貴重な機会となった。

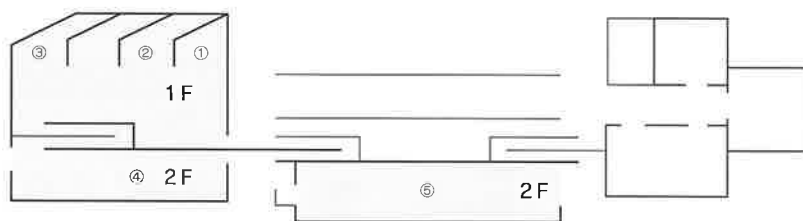
全5章から成る展覧会の章立ては、第1章から第3章までが作品の制作年代順、第4章および第5章をテーマ別のまとまりとし、第4章はバラや四国犬といった松田正平が愛した身近なモチーフ、第5章は「周防灘」にスポットを当てた構成とした。本展独自の広報ツールとして、プレチラシおよび通常のチラシとは別にカード状のカレンダー10種を制作した。また図録は帯のデザインを「周防灘ver.」と「四国犬ver.」の2パターン制作し、作品調査の過程で見つかった画家のスケッチブックの画像を収録するなど、デザイン、内容ともに松田正平の関連書籍に類のないものとなった。2年以上の準備期間をかけて、作品調査や出品交渉、展覧会の章立て立案、図録制作、作品の集荷・返却スケジュール作成等、展覧会にかかる全ての業務を、巡回館の神奈川県立近代美術館と協力しながら、当館が主導的に行った。尚、同展は当館での開催後、神奈川県立近代美術館 鎌倉に巡回した（会期：2013年6月8日～9月1日）。



会場風景

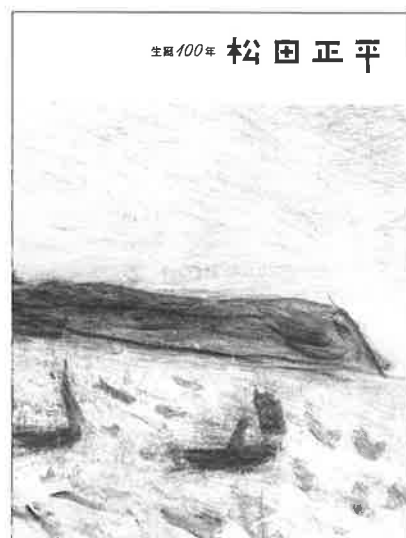
(2) 会場構成

- ① 1. 油絵との出会い
- ② 2. 絵の具との格闘
- ③ 3. 美しい絵はだをもとめて
- ④ 4. 犬馬難鬼魅易
- ⑤ 5. 悠久の周防灘



(3) カタログ

- 編集 山口県立美術館
神奈川県立近代美術館
- 執筆 萬屋健司（山口県立美術館）
橋 秀文（神奈川県立近代美術館）
- デザイン 野村勝久（野村デザイン制作室）
- 印刷 大村印刷株式会社
- 発行 山口県立美術館
神奈川県立近代美術館
- 内容 003 ごあいさつ
007 1. 油絵との出会い
025 2. 絵の具との格闘
045 3. 美しい絵はだをもとめて
067 4. 犬馬難鬼魅易
105 5. 悠久の周防灘
130 笑う自画像－作風の変遷をたどって 萬屋健司



カタログ：周防灘

- 136 松田正平の生み出した日本独自の油彩画 橋 秀文
 141 参考資料 松田正平のスケッチブック
 148 年譜
 152 参考文献
 154 作品リスト
 * A4変型判 (280×220mm) 160ページ



カタログ：四国犬

(4) 出品目録

no.	作品名	制作年	技法/材質	寸法	所蔵
1. 油絵との出会い					
1	高津風景	1933年	油彩/カンヴァス	64.9 × 90.8cm	山口県立美術館
2	モデル	1933年	油彩/カンヴァス	53.0 × 40.9cm	個人蔵
3	裸婦習作	1935年	油彩/カンヴァス	53.5 × 72.8cm	個人蔵
4	婦人像	1935年	油彩/カンヴァス	162.0 × 112.0cm	個人蔵
5	N氏の肖像	1935年	油彩/カンヴァス	60.3 × 50.0cm	個人蔵
6	自画像	1936年	油彩/カンヴァス	60.5 × 45.5cm	東京藝術大学
7	パリーの裏町	1938年	油彩/カンヴァス	65.0 × 50.5cm	個人蔵
8	コロー《真珠の女》模写	1938年	油彩/カンヴァス	73.0 × 53.0cm	個人蔵
9	二人の裸婦	1939年	油彩/カンヴァス	53.3 × 72.8cm	個人蔵
10	ネル・コレ	1939年	油彩/カンヴァス	54.7 × 37.5cm	個人蔵
11	ジャニース	1938年	油彩/カンヴァス	65.5 × 50.5cm	厨南市美術博物館
12	婦人像	1937年	油彩/カンヴァス	33.4 × 24.3cm	個人蔵
13	画家の父	1942年	油彩/カンヴァス	45.8 × 38.3cm	山口県立美術館
14	上白根風景	1943年	油彩/カンヴァス	80.5 × 53.2cm	山口県立美術館
2. 絵の具との格闘					
15	女生徒	1949年	油彩/カンヴァス	72.4 × 53.1cm	市原市
16	自画像	1955年	油彩/カンヴァス	46.3 × 37.8cm	山口県立美術館
17	M夫人像	1953年	油彩/カンヴァス	53.0 × 40.9cm	個人蔵
18	顔を覆う女	1953年	油彩/カンヴァス	60.8 × 50.4cm	山口県立美術館
19	銭湯	1955年	油彩/カンヴァス	80.5 × 61.0cm	山口県立美術館
20	裸婦	1959年	油彩/板	35.5 × 91.8cm	山口県立美術館
21	綾取り	1957年	油彩/カンヴァス	73.0 × 116.8cm	山口県信用農業協同組合連合会
22	山	1955年	油彩/カンヴァス	72.5 × 90.5cm	山口県立山口博物館
23	飛行機雲	1956年	油彩・セロハンテープ/カンヴァス	91.2 × 116.8cm	宇部興産株式会社
24	月夜	1956年	油彩/カンヴァス	116.8 × 81.0cm	山口県立美術館
25	東京湾	1957年	油彩/カンヴァス	91.5 × 73.0cm	山口銀行
26	高萩風景	1959年	油彩/板	91.8 × 66.4cm	山口県立美術館
27	乾魚	1959年	油彩/板	60.6 × 91.0cm	宇部市
28	かみきり虫	1959年	油彩/カンヴァス	53.4 × 80.6cm	山口県信用農業協同組合連合会
29	鳥	1960年	油彩/カンヴァス	41.3 × 53.4cm	宇部興産株式会社
30	燈台	1959年	油彩/カンヴァス	80.5 × 115.3cm	山口県信用農業協同組合連合会
31	燈台(宇部港湾)	1960年	油彩/カンヴァス	91.0 × 116.8cm	山口県信用農業協同組合連合会
3. 美しい絵はだをもとめて					
32	子供逆	1961年	油彩/カンヴァス	145.5 × 96.5cm	山口県立美術館
33	婆	1962年	油彩/カンヴァス	72.8 × 53.0cm	千葉市美術館
34	眠る人	1963年	油彩/カンヴァス	80.3 × 116.7cm	
35	跳ぶ男	1964年	油彩/カンヴァス	65.3 × 91.0cm	個人蔵
36	杉木立	1967年	油彩/カンヴァス	50.4 × 73.0cm	宇部アンモニア工業有限公司

37	農夫	1969年	油彩／カンヴァス	60,5 × 90,8cm	下関市立美術館
38	W氏の肖像	1971年	油彩／カンヴァス	41,0 × 32,0cm	個人蔵
39	裸婦	1973年	油彩／カンヴァス	50,2 × 72,7cm	個人蔵
40	裸婦	1977年	油彩／カンヴァス	65,4 × 91,2cm	山口県立美術館
41	月と犬と裸婦	1978年	油彩／カンヴァス	53,0 × 72,7cm	個人蔵
42	裸婦（草の上）	1978年	油彩／カンヴァス	65,4 × 91,3cm	光市文化センター
43	画家とモデル	1986年	油彩／カンヴァス	41,0 × 27,3cm	個人蔵
44	モデル	1986年	油彩／板	74,5 × 165,2cm	個人蔵
45	大威徳明王	1975年	油彩／カンヴァス	116,4 × 72,8cm	山口県立美術館
46	大威徳明王	1975年	油彩／カンヴァス	72,8 × 50,0cm	下関市立美術館
47	NC嬢	1977年	油彩／カンヴァス	45,7 × 33,5cm	個人蔵
48	笛吹き	1983年	油彩／カンヴァス	45,5 × 53,0cm	個人蔵
49	自画像（Mの肖像）	1986年	油彩／カンヴァス	41,5 × 32,0cm	個人蔵
4. 犬馬難鬼魅易					
50	こち	1950-55年頃	油彩／カンヴァス	33,3 × 45,5cm	個人蔵
51	ふくろう	1960年	油彩／カンヴァス	41,0 × 27,3cm	個人蔵
52	まりも	1958年	油彩／カンヴァス	31,9 × 41,0cm	宇部市
53	ニンニクとピーマン	1962年	油彩／カンヴァス	33,5 × 45,5cm	山口県立美術館
54	阿波人形	1963年	油彩／カンヴァス	24,0 × 33,5cm	個人蔵
55	四国みちまわり	1963年	油彩／カンヴァス	53,0 × 33,5cm	個人蔵
56	鳥	1970年代	油彩／カンヴァス	33,0 × 45,5cm	個人蔵
57	硝子器など	1980年頃	油彩／カンヴァス	27,3 × 41,0cm	個人蔵
58	鶯	1978年	油彩／カンヴァス	38,2 × 45,6cm	山口県立美術館
59	時計	1980年	油彩／カンヴァス	24,2 × 33,3cm	個人蔵
60	四国犬	1979年	油彩／カンヴァス	41,3 × 53,5cm	山口県立美術館
61	オヒョウ（大きな魚）	1984年	油彩／カンヴァス	72,7 × 116,7cm	山口県立美術館
62	おこぜ	1987年	油彩／カンヴァス	31,8 × 40,9cm	個人蔵
63	人形	1988年	油彩／カンヴァス	33,3 × 24,2cm	フォルム画廊
64	さより	1990年	油彩／カンヴァス	38,0 × 45,5cm	光市文化センター
65	四国犬	1990年	油彩／カンヴァス	45,5 × 65,2cm	個人蔵
66	あけび	1990年	油彩／カンヴァス	24,2 × 41,0cm	個人蔵
67	アフリカの便り	1993年	油彩／カンヴァス	50,0 × 72,8cm	市原市
68	いか	1996年	油彩／カンヴァス	24,3 × 33,4cm	個人蔵
69	ラ・フランス	1999年	油彩／カンヴァス	27,5 × 41,0cm	個人蔵
70	四国犬	2002年	油彩／カンヴァス	27,3 × 41,0cm	個人蔵
71	バラ	1955年	油彩／カンヴァス	39,5 × 30,0cm	個人蔵
72	バラ	1950年代	油彩／カンヴァス	53,0 × 40,9cm	個人蔵
73	バラ	1958年	油彩／カンヴァス	45,6 × 33,3cm	山口県立美術館
74	バラ	1962年	油彩／カンヴァス	33,4 × 24,3cm	個人蔵
75	薔薇園	1978年	油彩／カンヴァス	41,0 × 32,0cm	個人蔵
76	バラ園	1983年	油彩／カンヴァス	41,0 × 32,0cm	個人蔵
77	バラ	1983年	油彩／カンヴァス	73,0 × 50,3cm	学習院女子大学
78	バラ（時計）	1986年	油彩／カンヴァス	41,0 × 27,5cm	個人蔵
79	バラ	1990年代	油彩／カンヴァス	52,8 × 40,7cm	個人蔵
80	バラ	1997年	油彩／カンヴァス	72,8 × 50,0cm	個人蔵
81	バラ園	2002年	油彩／カンヴァス	24,3 × 33,4cm	個人蔵
5. 悠久の周防灘					
82	祝島	1950年頃	油彩／カンヴァス	37,7 × 45,0cm	個人蔵
83	光市風景	1953年	油彩／カンヴァス	45,8 × 60,7cm	個人蔵
84	光海岸	1950年頃	油彩／カンヴァス	45,6 × 37,4cm	個人蔵
85	祝島	1956年頃	油彩／カンヴァス	32,2 × 41,0cm	個人蔵
86	祝島風景	1973年頃	油彩／カンヴァス	41,0 × 53,0cm	個人蔵
87	瀬戸内海	1971年頃	油彩／カンヴァス	45,6 × 65,3cm	個人蔵
88	周防灘	1976年	油彩／カンヴァス	50,3 × 65,3cm	個人蔵
89	周防灘朝日	1979年	油彩／カンヴァス	53,4 × 72,8cm	個人蔵
90	鯉のぼり	1979年	油彩／カンヴァス	53,0 × 72,7cm	個人蔵
91	周防灘風景	1979年	油彩／カンヴァス	80,5 × 117,1cm	宇部マテリアルズ株式会社
92	周防灘（祝島）	1980年	油彩／カンヴァス	80,4 × 116,7cm	山口県立美術館
93	周防灘	1981年	油彩／カンヴァス	80,3 × 116,8cm	光市文化センター
94	周防灘	1983年	油彩／カンヴァス	80,4 × 116,3cm	下関市立美術館

95	周防灘	1982年	油彩／カンヴァス	91.1 × 65.5cm	光市文化センター
96	周防灘	1985年	油彩／カンヴァス	65.4 × 91.0cm	個人蔵
97	周防灘	1987年	油彩／カンヴァス	80.5 × 117.0cm	個人蔵
98	周防灘	1989年	油彩／カンヴァス	73.0 × 53.0cm	個人蔵
99	祝島	1990年	油彩／カンヴァス	40.9 × 53.0cm	個人蔵
100	周防灘	1997年	油彩／カンヴァス	40.9 × 53.0cm	個人蔵
101	周防灘	1980年代以降	油彩／カンヴァス	33.3 × 45.5cm	個人蔵

(5) 講演会等

■美術講座

「松田正平の世界」

日時：4月21日(日) 14：00～15：00

講師：萬屋健司（山口県立美術館専門学芸員）

会場：山口県立美術館講座室

定員：80名

■学芸員によるギャラリー・トーク

日時：4月13日、20日、27日 10：00～（30分程度）

■美術館ボランティアによるこどものためのギャラリー・トーク「みんなでみよう」

日時：4月20日、27日、5月4日、11日、18日、25日 11：00～（30分程度）

■託児サービス：ちびっこルーム

日時：会期中毎週木曜日 10：00～13：00（定員制・要予約）

会場：山口県立美術館講座室

ナント美術館名品展 ～フランス近代美術の輝き～

2013（平成25）年6月4日（火）～7月7日（日） 月曜休館

主催 ナント美術館名品展実行委員会（山口県立美術館、読売新聞社、KRY山口放送）

後援 フランス大使館

協力 エールフランス航空

企画協力 ホワイトインターナショナル



チラシ表面



チラシ裏面



ポスター

(1) 趣旨・概要

フランスの古都ナントは、ロワール川河畔に位置し、「フランス西部のヴェネチア」とも称される。本展は、そんなナントの文化の中心でありフランスの美術館の中でも屈指の歴史と伝統を誇るナント美術館の改修を期に、そのコレクションから、19世紀から20世紀にかけてフランスを中心として花開いた様々な絵画表現の紹介を試みるものであった。

19世紀のフランスでは、サロンを中心に長らく続いたアカデミズムの伝統があり、極めて写實的に描かれた肖像画や、エキゾチックなオリエントを主題とする作品は人気を博していた。19世紀後半になると、戸外にでて光を表現することに焦点をあてたシスレーやモネなど印象派が登場する。また世紀の転換期には、ピカソやシャガール、ローランサンをはじめとする若い画家たちがパリに集い、それぞれ独自の絵画を追求した。会場では、こうした当時の活気溢れる美術動向を5つのセクションに分けて紹介した。

会期中、展覧会仕様となったカフェ、カフェ・ナントでは、伝統の焼き菓子ガトーナンテなどが展覧会特別メニューとして提供された。山口大学管弦楽団の協力を得て、毎年ナントで行われているクラシック音楽祭「ラ・フォル・ジュルネ（熱狂の日）」にちなんだコンサートも毎週日曜日に開催され、絵画のみならず当地の食や音楽に関する文化も同時に体験できる展覧会となった。



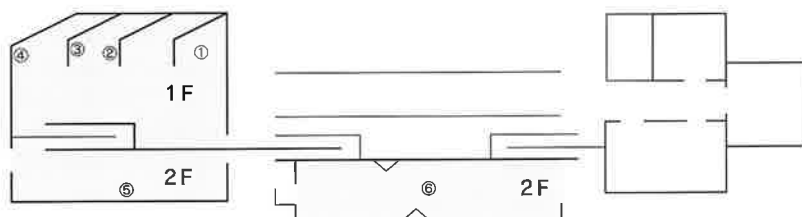
会場風景・展示室F



会場風景・展示室D

(2) 会場構成

- ① 1 ナント美術館と19世紀フランス美術
- ② 2 オリエンタリズム
- ③ 3-1 身近な自然を描く①
- ④ 3-2 身近な自然を描く②
- ⑤ 4 新しい美術の誕生
- ⑥ 5 パリに集まった画家たち



(3) カタログ

執筆者 ブランディーヌ・シャヴァンヌ (ナント美術館館長)
 シリル・シアマ (ナント美術館学芸員19世紀コレクション担当)
 クレール・ルボセ (ナント美術館学芸員近代美術コレクション担当)

企画協力 ホワイトインターナショナル

制作 印象社

内容 ごあいさつ

ナント美術館：その長きにわたる豊かな歴史 ブランディーヌ・シャヴァンヌ

Le Musée des Beaux-Arts de Nantes : une longue et riche histoire

Blandine Chavanne

ナント美術館の19世紀 シリル・シアマ

Le XIX^e siècle au Musée des Beaux-Arts de Nantes Cyrille Sciamma

カタログ

出品作品リスト

Catalogue

*B5判 (260×190mm) 176ページ



カタログ

(4) 出品目録

cat.no.	作者名	作品名	制作年	技法
1	シャルル・フォン・シュトイベン	読書する女性	1829	油彩・カンヴァス
2	シャルル・フォン・シュトイベン	オダリスク	1836	油彩・カンヴァス
3	レオポルド・ロベール	二人の水浴する女性、サン・ドナトの衣装	1827	油彩・カンヴァス
4	ポール＝エミール・デトゥーシュ	仮面舞踏会をひかえて	1831頃	油彩・カンヴァス
5	カミーユ・コロ	デモクリトスそしてアブデラの人々、風景	1841	油彩・カンヴァス
6	ポール・ドラローシュ	ピコ・デ・ラ・ミランドラの幼少期	1842	油彩・カンヴァス
7	イッポリット・フランドラン	フィレンツェの女性	1840	油彩・カンヴァス
8	コンスタン・トロワイヨン	ヴァンヌ	不詳	油彩・板
9	ゲルマン・ボン	クレオパトラ	1841	油彩・カンヴァス
10	アンリ・レーマン	レオニードあるいはモナ・ベルコローレ	1848	油彩・カンヴァス
11	シャルル・ル・ルー	春、満潮時のロワール河畔、雷雨の効果	1857	油彩・カンヴァス
12	シャルル・ル・ルー	森の泉	1869	油彩・カンヴァス
13	シャルル・ル・ルー	ロワール河畔の草地	1857	油彩・カンヴァス
14	シャルル・ドービニー	セーヌ河畔にて	1851	油彩・カンヴァス

15	ジャン＝レオン・ジェローム	羊の角をつけた女性の頭部	1853	油彩・カンヴァス
16	ウジェーヌ・ブーダン	ドルドレヒトの港	1882	油彩・カンヴァス
17	ジュール＝エリー・ドロネー	メステイエ夫人の肖像	1871	油彩・カンヴァス
18	ジュール＝エリー・ドロネー	ステファニー・ブルセの肖像	1871	油彩・カンヴァス
19	アルフレッド・ステヴァンス	海景、海の日没	1886以前	油彩・カンヴァス
20	オーギュスト・トゥルムーシュ	手紙	1883	油彩・カンヴァス
21	オーギュスト・トゥルムーシュ	温室で	1883	油彩・カンヴァス
22	オーギュスト・トゥルムーシュ	レッスン	1854	油彩・カンヴァス
23	ジェムズ・ティソ	誘拐未遂	1865頃	油彩・カンヴァス
24	ジェムズ・ティソ	放蕩息子の運作：祝宴	1880	油彩・カンヴァス
25	アルフレッド・シスレー	モレ＝シュル＝ロワンの運河沿い	1892	油彩・カンヴァス
26	クロード・モネ	ヴェネチアのゴンドラ	1908	油彩・カンヴァス
27	オーギュスト・ルノワール	アネモネ	1900	油彩・カンヴァス
28	ジャン＝ジュール＝アントワヌ・ルコント・デュ・ヌイ	白人奴隷	1888	油彩・カンヴァス
29	ルイ＝ヴェルデン・ホーキンス	暖炉	1899	油彩・カンヴァス
30	ルドルフ・エルンスト	書見台	1885頃	油彩・板
31	ルドルフ・エルンスト	サマリアの女性	1908以前	油彩・板
32	ルドルフ・エルンスト	チェスの勝負	1908以前	油彩・板
33	マクシム・モーフラ	アモン草原	1888	油彩・カンヴァス
34	マクシム・モーフラ	ドナンの荒波（ベル＝イル＝アン＝メール）	1911	油彩・カンヴァス
35	マクシム・モーフラ	ソムワの海岸（ベル＝イル＝アン＝メール）	不詳	油彩・カンヴァス
36	アンリ・ル・シダネル	日だまりの食卓	1911	油彩・カンヴァス
37	アンリ・ル・シダネル	5月の夕べ	不詳	油彩・カンヴァス
38	シュザンヌ・ヴァラドン （本名、マリー＝クレマンティーヌ・ヴァラドン）	水浴する女性たち	1923	油彩・カンヴァス
39	ヴァシリー・カンディンスキー	Schwaster Raster（黒のグリッド）	1922	油彩・カンヴァス
40	エミール・ベルナル	リングの取り入れ	1890	油彩・カンヴァス
41	モーリス・ドニ	フレール・ジュニエーヴルのブランコ、 あるいはアッピーア街道	不詳	油彩・カンヴァス
42	エドガー・マクサンス	森の精	1898	油彩・カンヴァス
43	アンドレ・ボーション	木蓮と水仙	1931	油彩・カンヴァス
44	アルベール・マルケ	マルセイユのエスタック	1918	油彩・カンヴァス
45	ジャン＝エミール・ラブルール	カフェ・デュ・コムルス	1913	油彩・カンヴァス
46	ラウル・デュフィ	黒い貨物船	1948以後	油彩・カンヴァス
47	キース・ヴァン・ドンゲン	正直なところ暇つぶし	1920	油彩・カンヴァス
48	フェルナン・レジェ	緑の葉	1945	油彩・カンヴァス
49	パブロ・ピカソ	カップル	1967	油彩・カンヴァス
50	マリー・ローランサン	ユディット	1930	油彩・カンヴァス
51	ジャン・メッサンジェ	魚の静物	1917	油彩・カンヴァス
52	アンドレ・ロート	座る女性	1925頃	油彩・カンヴァス
53	ソニア・ドロネー （本名、ソニア・ソフィー・シュテルン・テルク）	黄色のヌード	1908	油彩・カンヴァス
54	マルク・シャガール	赤い馬	1938-1944	油彩・カンヴァス
55	マックス・エルンスト	森	1925	油彩のフロクタージュ・カンヴァス
56	タマラ・ド・レンピッカ	バラ色のキゼット	1927	油彩・カンヴァス
57	タマラ・ド・レンピッカ	少女の肖像（メキシコ女性）	1947	油彩・合板
58	シャルル・ラビック	ラ・サルテーの日没	1954	油彩・カンヴァス
59	ジャン・ゴラン	静物	1925	油彩・カンヴァス
60	ジャン・エリオン	ペボカボチャの静物	1948	油彩・カンヴァス

(5) 講演会等

■コンサート

「日曜日の小さな音楽会」

日時：会期中の毎週日曜日 11：00～、14：30～

演奏：山口大学管弦楽団

会場：山口県立美術館ロビー

■鑑賞会

「フランス美術とスイーツの午後」

日時：6月10日(月) 14：00～

講師：棟久智之（パティスリー・カフェ ロワゾブルー オーナーパティシエ）

定員：ペア20組（40人）

■学芸員によるギャラリー・トーク

日時：会期中の毎週土曜日 10：00～

■美術館ボランティアによるこどものためのギャラリー・トーク「みんなでみよう」

日時：会期中の毎週土曜日 11：00～

■託児サービス：ちびっこルーム

日時：会期中毎週木曜日 10：00～13：00（定員制・要予約）

会場：山口県立美術館講座室

没後五〇年 松林桂月展 —水墨を極め、画中に詠う—

2013（平成25）年8月8日（休）～9月16日（月・祝） 月曜休館（ただし9月16日は開館）

主 催 松林桂月展実行委員会（山口県立美術館、毎日新聞社、tysテレビ山口）

特別協力 エフエム山口

特別協賛 エルクホームズ株式会社

監 修 村田隆志（大阪国際大学専任講師）



チラシ表面



チラシ裏面



ポスター

(1) 趣旨・概要

萩に生まれた松林桂月（1876～1963）は、明治・大正・昭和の三代を生き、数々の名作を残した近代日本画を代表する巨匠である。幼い頃から絵を好んだ桂月は、18歳の年に東京に出て本格的な修業を始め、伝統的日本画の、精緻で格調高い表現を学んだ。23歳の年には同門の女流画家・雪貞と結婚する。繊細で華麗な花鳥画を得意とした雪貞は、生涯にわたり桂月の画業を支えた大きな存在だった。桂月の精密な描写力は早くから画壇に認められ、44歳にして新設された帝国美術院展覧会の審査員に就任した。昭和14年、64歳の桂月は「春宵花影」（東京国立近代美術館蔵）をニューヨーク万国博覧会に出品した。朧月夜に浮かぶ桜花の抒情性を見事に表現しながら、高度な写実性をも兼ね備えたこの作品は絶賛され、今日でも近代日本画を代表する傑作のひとつに数えられている。桂月の高度な水墨技術は他の画家の追随を許さず、その独特の抒情的な作風は高く評価されて、83歳の年に文化勲章を受章した。2013年は、桂月が世を去ってから50年という節目の年に当たる。当館は1983年に「松林桂月—その墨と色彩の妙—」展を開催しているが、近年その芸術を通覧する機会はほとんどなく、その結果、桂月の名も、画も、一部の美術愛好家だけが知るところとなりつつある。本展は30年ぶりとなる回顧展として、妻の松林雪貞や師、野口幽谷の作を含む数多くの作品で、桂月の芸術世界を改めて紹介した。



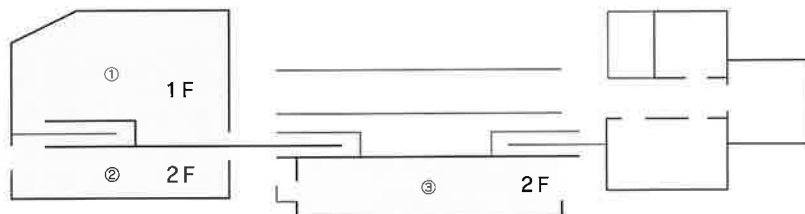
会場風景



会場風景

(2) 会場構成

- ① 第1章 1876-1918：若き日の桂月 師・野口幽谷と妻・雪貞
- ② 第2章 1919-1945：大正後期から戦前まで 桂月芸術の開花
- ③ 第3章 1946-1963：戦後の桂月 至高の境地へ



(3) カタログ

- 監 修 村田隆志（大阪国際大学）
 編 集 荏開津通彦（山口県立美術館）
 加藤陽介（練馬区立美術館）
 鈴木利昌（田原市博物館）
 野地耕一郎（練馬区立美術館）
- 発 行 神戸新聞社
- 内 容
- 3 ごあいさつ
 - 6 祖父桂月の思い出 松林 明
 - 10 松林先生を想う－石井公男氏聞き書き
 - 14 最後の南画家、松林桂月の生涯と画業 村田隆志
 - 25 第I章1876-1918
 - 53 第II章1919-1945
 - 121 第III章1946-1963
 - 150 写生・下図・印章・制作用具
 - 154 松林桂月の師、野口幽谷－和楽堂画塾からの広がり 鈴木利昌
 - 160 春宵花影とその周辺 荏開津通彦
 - 169 桂月以後－「現代の南画」の可能性をめぐる断想 野地耕一郎
 - 174 作品解説
 - 191 桂月・雪貞印譜
 - 201 松林桂月年譜
 - 210 松林桂月関連主要参考文献目録
 - 212 出品目録
- * A4変型判（270×225mm）216ページ



カタログ

(4) 出品目録

cat.no	作者	作品名	頁数/材質	制作年	所蔵
第1章	1876-1918				
1	松林桂月	四君子	一幅/紙本墨画	明治中期	個人蔵
2	松林桂月	桃花双鶴	一幅/絹本着色	明治28(1895)年	個人蔵
3	松林桂月	怒濤健鷲	一幅/絹本墨画淡彩	明治30(1897)年	個人蔵
4	松林桂月	蔬果	一幅/絹本墨画淡彩	明治36(1903)年	山口・財団法人菊屋家住宅保存会
5	松林桂月	柳花翡翠	一幅/絹本墨画淡彩	明治40(1907)年	山口・財団法人菊屋家住宅保存会
6	松林桂月	秋塘真趣	一幅/絹本着色	明治40(1907)年	個人蔵
7	松林桂月	秋水群雁	一幅/絹本着色	明治42(1909)年	山口県立美術館
8	松林桂月	四季山水	四幅/絹本墨画淡彩	明治44(1911)年	山口・おおすみグループ
9	松林桂月	緑蔭避暑	一幅/絹本着色	明治44(1911)年	東京・宮内庁三の丸尚蔵館
11	松林桂月	夏山雨後	一幅/絹本墨画	大正元(1912)年	京都・滋齋堂
12	松林桂月	夏木垂陰	一幅/絹本着色	大正2(1913)年	栃木・佐野市立吉澤記念美術館
13	荒木十畝・小坂芝田・橋本閑雪・松林桂月・井村常山	奇石	一幅/絹本着色	大正2(1913)年	山口・財団法人菊屋家住宅保存会

14	松林桂月	山樓銷夏	一幅／紙本墨画	大正 3 (1914) 年	山口・萩博物館
15	松林桂月・雪貞	草花蟹	一幅／紙本墨画淡彩	明治38 (1905) 年	個人藏
16	松林桂月・雪貞	不老長春	二幅／絹本着色	昭和 5 (1930) 年	山口・毛利博物館
17	松林桂月・雪貞	不老長春	二幅／紙本墨画・絹本着色	昭和後期	山口・おおすみグループ
18	野口幽谷	双雁	二曲一隻／紙本墨画淡彩	明治前期	愛知・田原市博物館
19	野口幽谷	竹林群雀	三幅／紙本墨画淡彩	明治31 (1898) 年	愛知・田原市博物館
20	野口幽谷	海鶴蟠桃	一幅／紙本着色	明治22 (1889) 年	個人藏
21	野口幽谷	溪上水仙花	一幅／絹本墨画淡彩	明治26 (1893) 年	愛知・田原市博物館
22	野口幽谷	花卉冊	一帖／絹本墨画淡彩	明治18 (1885) 年	愛知・田原市博物館
23	榕二山	野口幽谷之像画稿	一面／紙本墨画淡彩	明治中期	愛知・田原市博物館
24	松林雪貞	龍鬚馬乳	一幅／絹本淡彩	明治33 (1900) 年	山口・萩博物館藏
25	松林雪貞	波涛岩上双鶴	一幅／絹本墨画淡彩	明治33 (1900) 年	個人藏
26	松林雪貞	雁来紅朝顔	一幅／絹本着色	大正 4 (1915) 年	山口県立美術館
27	松林雪貞	藤花	一幅／絹本着色	昭和29 (1954) 年	愛知・田原市博物館
29	松林雪貞	菊	一面／絹本着色	昭和中期	個人藏
30	松林雪貞	長春花	一幅／絹本着色	昭和中期	個人藏
第2章 1919-1945					
31	松林桂月	四季山水	四幅／絹本着色	大正 1 (1912) 年	個人藏
32	松林桂月	溪山清曉	六曲一雙／絹本金地墨画	大正 5 (1916) 年	神奈川・横浜美術館
35	松林桂月	秋汀群鴨	六曲一雙／絹本金地墨画	大正 8 (1919) 年	個人藏
36	松林桂月	松林山水	六曲一雙／絹本着色	大正11 (1922) 年	個人藏
37	松林桂月	松林出屋	一幅／絹本着色	大正12 (1923) 年	山口・下関市立美術館
38	松林桂月	妙高真趣	一幅／絹本墨画	大正12 (1923) 年	個人藏
39	松林桂月	竹林叭々鳥	一幅／絹本着色	大正12 (1923) 年	栃木・佐野市立吉澤記念美術館
40	松林桂月	銀地山水	六曲一雙／紙本銀地墨画	大正12 (1923) 年	個人藏
41	松林桂月	幽山孤村	六曲一雙／紙本墨画	大正13 (1924) 年	愛知・田原市博物館
42	松林桂月	秋溪山雉	一幅／絹本着色	大正14 (1925) 年	山口・毛利博物館
43	松林桂月	山水	双幅／絹本着色	大正14 (1925) 年	山口・毛利博物館
45	松林桂月	長門峡	一面／絹本墨画淡彩	大正15 (1926) 年	山口県立美術館
46	松林桂月	伏見鳥羽戦 大下図	一幅／紙本墨画淡彩	昭和初期	個人藏
47	松林桂月	威振八荒	一面／絹本着色	昭和 2 (1927) 年	山口・宇部興産開発株式会社
48	松林桂月	赤壁浮遊	一幅／紙本墨画	昭和 2 (1927) 年	山口・財団法人菊屋家住宅保存会
49	松林桂月	仙峡聽泉	一幅／紙本墨画	昭和 4 (1929) 年	山口県立美術館
50	松林桂月	金地山水	六曲一雙／紙本金地墨画	昭和 4 (1929) 年	個人藏
51	松林桂月	蔬果	一幅／絹本淡彩	昭和 7 (1932) 年	山口・下関市立美術館
52	松林桂月	橙	一幅／絹本墨画淡彩	昭和 8 (1933) 年	個人藏
53	松林桂月	十声詩意	一卷／紙本着色	昭和 9 (1934) 年	山口・財団法人菊屋家住宅保存会
参考	頼山陽	十声詩	一卷／紙本墨書	江戸期	山口・財団法人菊屋家住宅保存会
55	松林桂月	赤壁賦	双幅／絹本墨画着色	昭和10 (1935) 年頃	山口・下関市立美術館
56	松林桂月	葡萄栗鼠	六曲一隻／紙本着色	昭和11 (1936) 年	愛知・豊橋市美術博物館
57	松林桂月	愛吾廬	一幅／絹本着色	昭和11 (1936) 年	山口県立美術館
59	松林桂月	四季山水	四幅／絹本着色	昭和11 (1936) 年	愛知・田原市博物館
60	松林桂月	老松	一面／紙本墨画	昭和12 (1937) 年	山口・萩市立白水小学校
61	松林桂月	秋圃	六曲一雙／絹本裏金着色	昭和13 (1938) 年	山口・宇部興産
62	松林桂月	春宵花影	一幅／絹本墨画淡彩	昭和14 (1939) 年	東京国立近代美術館
63	松林桂月	晚秋	一幅／絹本着色	昭和16 (1941) 年	東京藝術大学大学美術館
64	松林桂月	天保九如	六曲一雙／絹本着色	昭和18 (1933) 年	個人藏
65	松林桂月	天保九如	双幅／絹本着色	昭和19 (1944) 年	個人藏
68	松林桂月	春宵花影	一幅／絹本墨画淡彩	昭和初期	個人藏
69	松林桂月	叭々鳥	双幅／絹本着色	昭和初期	個人藏
第3章 1946-1963					
71	松林桂月	長門峡	一面／紙本墨画	昭和26 (1951) 年	個人藏
72	松林桂月	苔蘚飛泉	一幅／絹本着色	昭和27 (1952) 年	東京・世田谷美術館
73	松林桂月	閑庭	一幅／絹本着色	昭和28 (1953) 年	個人藏
74	松林桂月	四君子	一幅／紙本墨画	昭和28 (1953) 年	個人藏
76	松林桂月	虎	一幅／絹本着色	昭和30 (1955) 年	個人藏
77	松林桂月	秋山掃樵	一幅／絹本着色	昭和中期	東京・練馬区立美術館
78	松林桂月	雨後	一幅／絹本墨画淡彩	昭和30 (1955) 年	個人藏
79	松林桂月	秋山探奇	一幅／絹本墨画淡彩	昭和中期	山口・財団法人菊屋家住宅保存会
80	松林桂月	蓮花蜻蜓	一幅／絹本着色	昭和中期	個人藏

81	松林桂月	朝陽桜花	一幅／絹本着色	昭和30（1955）年	個人蔵
82	松林桂月	暮潮	一幅／絹本着色	昭和30（1955）年	京都・鐵齋堂
83	松林桂月	竹林幽趣	一幅／紙本墨画	昭和31（1956）年	個人蔵
84	松林桂月	早春鶉	一面／絹本着色	昭和32（1957）年	山口・下関市立美術館
85	松林桂月	歐陽修秋声賦	一幅／絹本着色	昭和35（1960）年	栃木県立美術館
86	松林桂月	蘭	一面／紙本墨画淡彩	昭和中期	栃木県立美術館
87	松林桂月	月下竹林	一幅／絹本墨画	昭和中期	栃木県立美術館
88	松林桂月	深林	一幅／紙本墨画	昭和36（1961）年	東京国立近代美術館
90	松林桂月	靈峰富士	一幅／絹本墨画淡彩	昭和30年代後半	個人蔵
92	松林桂月	山水	一幅／紙本墨画	昭和31年代後半	個人蔵
93	松林桂月	夜雨	一面／絹本墨画	昭和37（1962）年	個人蔵
94	松林桂月	白梅紅梅	二曲一双／絹本裏金着色	昭和37（1962）年	山口・萩博物館
95	松林桂月	竹林夜雨	一幅／絹本淡彩	昭和37（1962）年	個人蔵
96	松林桂月	夏景山水（絶筆）	一幅／絹本淡彩	昭和38（1963）年	個人蔵
写生・制作用具・印章・下図					
97	松林桂月	魚類写生	一卷／紙本墨画淡彩	明治～昭和期	山口県立美術館
98	松林桂月	下図類		昭和期	個人蔵
99	松林桂月	桂月雪貞所用印	三〇箇	昭和期	個人蔵
100	松林桂月	桂月庵旧蔵制作用具	一具	昭和期	山口・萩市立白水小学校

(5) 講演会等

■記念講演会

「松林桂月の生涯と芸術 -長州人として、南画人として-」

日時：8月31日(土) 14：00～15：30

講師：村田隆志（大阪国際大学専任講師）

会場：山口県立美術館講座室

■学芸員によるギャラリー・トーク

日時：8月10日(土)、17(土)、24(土)、31(土)、9月7日(土)、9月14日(土) 10：00～

■美術館ボランティアによるこどものためのギャラリー・トーク「みんなでみよう」

日時：8月17(土)、24(土)、31(土)、9月7日(土)、9月14日(土) 11：00～

■託児サービス：ちびっこルーム

日時：会期中 毎週木曜日 10：00～13：00（定員制・要予約）

会場：山口県立美術館講座室

yab山口朝日放送開局20周年特別企画

大本山増上寺秘蔵 五百羅漢図—幕末の鬼才 狩野一信

2013（平成25）年10月10日（木）～12月8日（日） 月曜休館 ※ただし10月14日（月）、11月4日（月）は開館（翌火曜休館）

主 催 五百羅漢図展実行委員会（山口県立美術館、朝日新聞社、yab山口朝日放送）

監 修 山下裕二（明治学院大学教授）

企画協力 広瀬麻美（浅野研究所）

後 援 九州朝日放送、広島ホームテレビ

特別協力 エフエム山口

特別協賛 ミサワホーム中国山口支店



ポスター



ポスター



プレチラシ表面



プレチラシ裏面



チラシ表面（配布時の状態・A4）



チラシ表面（開いた状態・B3変型）



チラシ中面

(1) 趣旨・概要

幕末の絵師・狩野一信（1816-63）の代表作「五百羅漢図」は、総勢500人におよぶ羅漢たちの営みを、大型の掛幅全100幅に極彩色かつ緻密な表現をもって描き出した作品である。文久3年（1863）、浄土宗大本山の増上寺（東京都港区）に奉納されて以降、廃仏毀釈や戦禍の歴史を乗り越え、散逸することなく同寺に伝来した由来を持つ。

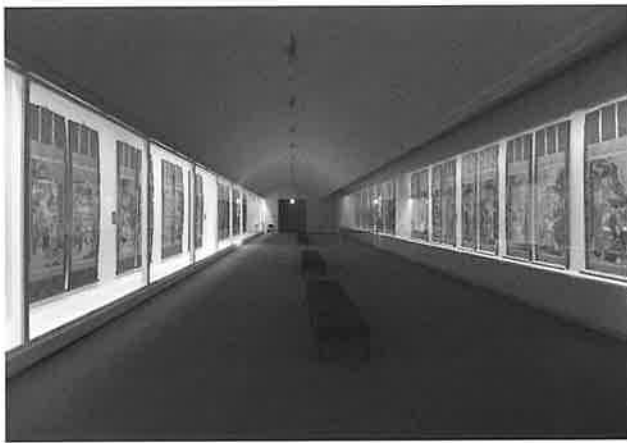
ながらく忘れられていた本作品が再び広く知られるようになった契機は、2011年に東京都江戸東京博物館で開催された「狩野一信 五百羅漢」展であり、以降、作品および一信に対しての再評価は、国内外で近年急速に進み始めている。そのような状況下において、本展は一信の没後150年目を記念し、全100幅を西日本で初めて一堂に公開するものとして、東京都江戸東京博物館での展覧会をもとに新たに再構成し企画された。

会場では全100幅という壮大なスケールの体感と、本作の特徴である全体を通したストーリー性とを明示するため、一信自身が構成した10幅ないしは20幅ずつの区切りをもとに、「羅漢の日常生活」「六道世界をめぐる救済」などの理解しやすいタイトルを付し各章として、展示を行った。また大本山成田山新勝寺の旧本堂壁画「釈迦文殊普賢四天王十大弟子図」に加え、2011年以降に新出した展覧会初出品作も含めた総数106点によって、一信という絵師の画業に通底する世界観も味わえるよう心がけた。合わせて展示室Fでは、本展用のオリジナル展示ケースを制作し、上記のコンセプトを空間としてより明確に提示するとともに、濃密な描写を間近で鑑賞できるよう工夫した。

また西日本地域ではいまだ一般的には知名度が高いとはいええない作家であり作品を紹介するにあたり、加えて普段日本美術に関心の少ない層まで広く集客を図るため、会期中には多彩な講座やイベント、SNS等での話題作りを意識したユーザー参加型のウェブサイト制作、インパクトの強いTVCMの制作放映など、間口を広げる様々な広報活動も合わせて行った。作品に対する評価はもちろんのこと、こうした多角的な広報、イベントはいずれも好評で、展覧会の魅力を総合的に高めることができた。総入館者数は46,117人。



会場風景 展示室F



会場風景 展示室D

(2) 会場構成

- 【1】 第1～10幅 羅漢の日常生活
- 【2】 第11～20幅 日々の仕事に勤しむ羅漢
- 【3】 成田山新勝寺秘蔵 荘厳なる大作
- 【4】 第21～40幅 六道をめぐる救済の旅
- 【5】 第41～50幅 欲を滅する十二の修行
- 【6】 第51～60幅 羅漢神通力の数々
- 【7】 よみがえる一信
- 【8】 第61～70幅 霊獣を手なづけ、たわむれる
- 【9】 第71～80幅 作善と供養を行う羅漢
- 【10】 第81～90幅 七難から人々を救う
- 【11】 第91～100幅 東西南北、四大陸へ



(3) カタログ

編集 山口県立美術館、岡本麻美
発行 五百羅漢図展実行委員会
内容

3 ごあいさつ

《論文》

6 その後の狩野一信と五百羅漢図－江戸東京博物館から山口県立美術館へ 山下裕二

12 幕末生まれの「五百羅漢図」 岡本麻美

《図版・作品解説》

21 五百羅漢図 全百幅一覧

29 五百羅漢図

158 釈迦文殊普賢四天王十大弟子図

162 東照大権現像

164 布袋唐子図

166 七福神図

168 村林彦治郎像

169 西王母図

《論文・資料》

180 日本における五百羅漢図の展開

－大徳寺本系五百羅漢図から一信の増上寺本へ 井手誠之輔

190 資料一 大雲「新図五百大阿羅漢記」

198 資料二 狩野一信年譜

202 資料三 参考文献

206 出品リスト

* A4変型判 (285×220mm) 210ページ



カタログ

(4) 出品目録

作品番号 作品名 (作者は全て狩野一信)

所蔵 (記載のないものは増上寺蔵)

1	五百羅漢図 第1幅 名相
2	五百羅漢図 第2幅 名相
3	五百羅漢図 第3幅 名相
4	五百羅漢図 第4幅 名相
5	五百羅漢図 第5幅 名相
6	五百羅漢図 第6幅 名相
7	五百羅漢図 第7幅 名相
8	五百羅漢図 第8幅 名相
9	五百羅漢図 第9幅 浴室
10	五百羅漢図 第10幅 浴室
11	五百羅漢図 第11幅 授戒
12	五百羅漢図 第12幅 授戒
13	五百羅漢図 第13幅 布薩
14	五百羅漢図 第14幅 布薩
15	五百羅漢図 第15幅 論議
16	五百羅漢図 第16幅 論議
17	五百羅漢図 第17幅 剃度
18	五百羅漢図 第18幅 剃度
19	五百羅漢図 第19幅 伏外道
20	五百羅漢図 第20幅 伏外道
21	五百羅漢図 第21幅 六道 地獄
22	五百羅漢図 第22幅 六道 地獄
23	五百羅漢図 第23幅 六道 地獄
24	五百羅漢図 第24幅 六道 地獄
25	五百羅漢図 第25幅 六道 鬼趣
26	五百羅漢図 第26幅 六道 鬼趣
27	五百羅漢図 第27幅 六道 鬼趣

28	五百羅漢圖	第28幅	六道	鬼趣
29	五百羅漢圖	第29幅	六道	畜生
30	五百羅漢圖	第30幅	六道	畜生
31	五百羅漢圖	第31幅	六道	修羅
32	五百羅漢圖	第32幅	六道	修羅
33	五百羅漢圖	第33幅	六道	人
34	五百羅漢圖	第34幅	六道	人
35	五百羅漢圖	第35幅	六道	人
36	五百羅漢圖	第36幅	六道	人
37	五百羅漢圖	第37幅	六道	天
38	五百羅漢圖	第38幅	六道	天
39	五百羅漢圖	第39幅	六道	天
40	五百羅漢圖	第40幅	六道	天
41	五百羅漢圖	第41幅	十二頭陀	阿蘭若
42	五百羅漢圖	第42幅	十二頭陀	阿蘭若
43	五百羅漢圖	第43幅	十二頭陀	常乞食
44	五百羅漢圖	第44幅	十二頭陀	次第乞食
45	五百羅漢圖	第45幅	十二頭陀	節食之分
46	五百羅漢圖	第46幅	十二頭陀	中後不飲漿 一坐食 節量食
47	五百羅漢圖	第47幅	十二頭陀	衲衣
48	五百羅漢圖	第48幅	十二頭陀	但三衣
49	五百羅漢圖	第49幅	十二頭陀	冢間樹下
50	五百羅漢圖	第50幅	十二頭陀	露地常坐
51	五百羅漢圖	第51幅	神通	
52	五百羅漢圖	第52幅	神通	
53	五百羅漢圖	第53幅	神通	
54	五百羅漢圖	第54幅	神通	
55	五百羅漢圖	第55幅	神通	
56	五百羅漢圖	第56幅	神通	
57	五百羅漢圖	第57幅	神通	
58	五百羅漢圖	第58幅	神通	
59	五百羅漢圖	第59幅	神通	
60	五百羅漢圖	第60幅	神通	
61	五百羅漢圖	第61幅	禽獸	
62	五百羅漢圖	第62幅	禽獸	
63	五百羅漢圖	第63幅	禽獸	
64	五百羅漢圖	第64幅	禽獸	
65	五百羅漢圖	第65幅	禽獸	
66	五百羅漢圖	第66幅	禽獸	
67	五百羅漢圖	第67幅	禽獸	
68	五百羅漢圖	第68幅	禽獸	
69	五百羅漢圖	第69幅	禽獸	
70	五百羅漢圖	第70幅	禽獸	
71	五百羅漢圖	第71幅	龍供	
72	五百羅漢圖	第72幅	龍供	
73	五百羅漢圖	第73幅	龍供	
74	五百羅漢圖	第74幅	龍供	
75	五百羅漢圖	第75幅	洗仙等	
76	五百羅漢圖	第76幅	洗舍利	
77	五百羅漢圖	第77幅	堂伽藍	
78	五百羅漢圖	第78幅	堂伽藍	
79	五百羅漢圖	第79幅	堂伽藍	
80	五百羅漢圖	第80幅	堂伽藍	
81	五百羅漢圖	第81幅	七難	震
82	五百羅漢圖	第82幅	七難	發
83	五百羅漢圖	第83幅	七難	風
84	五百羅漢圖	第84幅	七難	風
85	五百羅漢圖	第85幅	七難	羅刹
86	五百羅漢圖	第86幅	七難	惡鬼
87	五百羅漢圖	第87幅	七難	刀杖

88	五百羅漢図 第88幅 七難 賊	
89	五百羅漢図 第89幅 七難 枷鎖	
90	五百羅漢図 第90幅 七難 盜	
91	五百羅漢図 第91幅 四洲 南	
92	五百羅漢図 第92幅 四洲 南	
93	五百羅漢図 第93幅 四洲 南	
94	五百羅漢図 第94幅 四洲 南	
95	五百羅漢図 第95幅 四洲 東	
96	五百羅漢図 第96幅 四洲 東	
97	五百羅漢図 第97幅 四洲 西	
98	五百羅漢図 第98幅 四洲 西	
99	五百羅漢図 第99幅 四洲 北	
100	五百羅漢図 第100幅 四洲 北	
101	釈迦文殊普賢四天王十大弟子図	成田山新勝寺
102	東照大権現像	公益財団法人徳川記念財団
103	布袋唐子図	個人蔵
104	七福神図	個人蔵
105	村林彦治郎像	山中祐華堂
106	西王母図	個人蔵

(5) 講演会等

■トークイベント

「山田五郎×山下裕二 見どころ満載！五百羅漢図」

日 時：10月20日(日) 14：00～15：30

ゲスト：山田五郎（評論家）、山下裕二（明治学院大学教授）

会 場：山口県立図書館レクチャールーム

定 員：250名（要申込）

「井浦新×山下裕二 五百羅漢への旅」

日 時：11月16日(土) 14：00～15：30

ゲスト：井浦新（俳優）、山下裕二（明治学院大学教授）

会 場：山口県教育会館大ホール

定 員：300名（要申込）※当日聴講者約500人

■ワークショップ

「『羅漢スーツ』をつくろう！」

日 時：11月9日(土)・11月10日(日) 10：00～16：00（2日連続）

講 師：榎本寿紀（美術家）

会 場：山口県立美術館講座室

対 象：小学4年生以上一般

定 員：20名（先着順）

■鑑賞イベント

「江戸の夜長を麦酒とともに楽しむ会」

日 時：10月28日(月) 19：00～20：30

会 場：山口県立美術館

講 師：松永将和（株式会社協同商事コエドブルワリー）

木越俊介（山口県立大学准教授）

河野通孝（山口県立美術館学芸課長）

柘植忠司（yab山口朝日放送アナウンサー）

定 員：20歳以上のペア20組40名（要申込・抽選）

■学芸員によるギャラリー・トーク

日時：10月12日、10月19日、10月26日、11月9日、11月16日、11月23日 10：00～

■美術館ボランティアによるこどものためのギャラリー・トーク「みんなでみよう」

日時：11月中の毎週土曜日 11：00～

■託児サービス：ちびっこルーム

日時：会期中毎週木曜日 10：00～13：00（定員制・要予約）

会場：山口県立美術館講座室

■オリジナル音声ガイド

ナビゲーター：竹中直人（俳優、タレント）

料金：500円

■夜間開館

「五百羅漢ナイト～夜の美術館を楽しむ」

日時：11月1日(金)～11月3日(日) 20：00まで開館

期間中毎日18：00より、学芸員による解説付き特別鑑賞会「五百羅漢図夜話」を開催

■関連イベント

アクロス・文化学び塾「狩野一信『五百羅漢図』一幕末生まれの驚異の仏画」

日時：10月26日(土) 14：00～15：30 アクロス福岡 セミナー室2

講師：岡本麻美（山口県立美術館専門学芸員）

定員：70名

yab特別企画「立川談春 独演会」

日時：10月31日(木) 19：00開演

会場：山口県教育会館大ホール

コレクション特別企画

没後40年 香月泰男展 シベリア・シリーズと原画

2014（平成26）年4月17日（木）～5月6日（火・祝） 月曜休館（ただし4月28日、5月5日は開館）

主催 山口県立美術館、エフエム山口



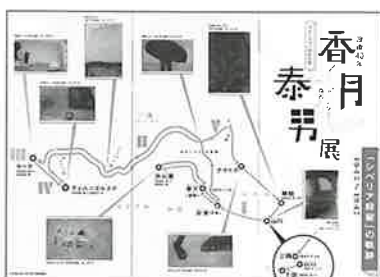
ポスター



チラシ表面



チラシ裏面



鑑賞ガイドA面



鑑賞ガイドB面

(1) 趣旨・概要

山口県長門市三隅で生まれ育ち、生涯の大部分を同地で制作を続けた香月泰男（1911-74年）の没後40年を記念して、画家の代表作であるシベリア・シリーズの造形的生成過程を検証する展覧会を開催した。自身の太平洋戦争への従軍とシベリア抑留の体験を絵画化したシベリア・シリーズによって、香月は戦後洋画史に金字塔を打ち建てた。足かけ27年にわたって描きつがれた57点の油彩画は、過酷な戦争と抑留の記録であると同時に画家の心象風景である。黒と黄土色が特徴的なその画面は、描かれた主題の厳しさ、そしてモチーフの単純化、抽象化によって、ときに鑑賞者を試すかのような厳粛な雰囲気漂わせているが、完成した油絵がどれほど抽象的な作品であっても、描かれているのは香月が目にした現実の出来事である。

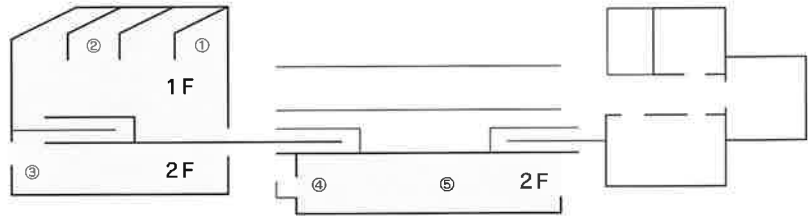
本展は、シベリア・シリーズとその下絵になった素描や関連資料を併せて展示し、着想から完成にいたるシベリア・シリーズの造形的な変遷を紹介した。それは客観的な主題と主観的な表現の闘ぎ合いの軌跡であり、その過程を辿ることによって、香月がシベリア・シリーズに込めた想いを見つめなおす絶好の機会となった。全5章からなる展覧会の内容は、時間軸に沿って香月の体験を追う構成とし、シベリア・シリーズ49点、関連素描および資料34点を展示した。



会場風景

(2) 会場構成

- ① 1. 応召・旧満州ハイラル駐屯
- ② 2. 終戦、シベリアへ
- ③ 3. セーヤ収容所
- ④ 4. チェルノゴルススク収容所
- ⑤ 5. ナホトカ・復員



(3) カタログ

制作せず

(4) 出品目録

シベリア・シリーズ

no.	作品名	制作年	技法	寸法 (cm)
1	雲	1968年	油彩／カンヴァス	117.0×72.7
2	別	1967年	油彩／カンヴァス	162.1×111.8
3	青の太陽	1969年	油彩／カンヴァス	162.1×111.6
4	朝陽	1965年	油彩／カンヴァス	91.0×60.6
5	雨〈半〉	1947年	油彩／カンヴァス	73.0×117.1
6	鷹	1958年	油彩／カンヴァス	64.9×99.9
7	ホロンバイル	1960年	油彩／カンヴァス	72.7×116.8
8	雨	1968年	油彩／カンヴァス	117.0×72.6
9	煙	1969年	油彩／カンヴァス	72.7×117.0
10	道	1972年	油彩／カンヴァス	72.7×116.7
11	護	1969年	油彩／カンヴァス	73.2×117.1
12	海拉爾	1972年	油彩／カンヴァス	72.8×116.7
13	朕	1970年	油彩／カンヴァス	162.2×112.2
14	奉天 (右)	1970年	油彩／カンヴァス	73.0×117.1
15	奉天 (左)	1970年	油彩／カンヴァス	73.0×117.1
16	避難民	1960年	油彩／カンヴァス	73.0×117.3
17	1945	1959年	油彩／カンヴァス	72.8×116.7
18	業火	1970年	油彩／カンヴァス	162.4×97.2
19	湿地	1961年	油彩／カンヴァス	72.9×49.9
20	凍土	1965年	油彩／カンヴァス	112.0×162.3
21	運ぶ人	1960年	油彩／カンヴァス	73.0×117.1
22	乗客	1957年	油彩／カンヴァス	116.8×72.6
23	雪山	1972年	油彩／カンヴァス	116.8×72.9
24	伐	1964年	油彩／カンヴァス	73.0×116.1
25	鋸	1964年	油彩／カンヴァス	72.8×116.3
26	神農	1964年	油彩／カンヴァス	91.2×60.4
27	埋葬	1948年	油彩／カンヴァス	72.5×117.0
28	雪	1963年	油彩／カンヴァス	112.4×162.3
29	雪〈窓〉	1963年	油彩／カンヴァス	117.0×73.0
30	列	1961年	油彩／カンヴァス	117.1×73.0
31	荊	1965年	油彩／カンヴァス	72.8×116.8
32	囚	1965年	油彩／カンヴァス	72.6×116.7
33	-35°	1971年	油彩／カンヴァス	162.0×96.8
34	左官	1956年	油彩／カンヴァス	117.0×72.6
35	穴掘人	1960年	油彩／カンヴァス	72.7×116.8
36	餓	1964年	油彩／カンヴァス	162.2×112.2
37	凍河〈エニセイ〉	1966年	油彩／カンヴァス	72.7×117.0
38	ダモイ	1959年	油彩／カンヴァス	72.9×116.8
39	バイカル	1971年	油彩／カンヴァス	162.0×112.5
40	渚〈ナホトカ〉	1974年	油彩／カンヴァス	97.2×162.4
41	デモ	1973年	油彩／カンヴァス	97.2×194.2
42	絵具箱	1972年	油彩／カンヴァス	112.2×162.6
43	点呼 (右)	1971年	油彩／カンヴァス	72.7×116.8
44	点呼 (左)	1971年	油彩／カンヴァス	72.7×116.8

45	復員〈タラップ〉	1967年	油彩／カンヴァス	162.2×112.2
46	私〈マホルカ〉	1966年	油彩／カンヴァス	72.8×117.0
47	日の出	1974年	油彩／カンヴァス	117.0×72.8
48	月の出	1974年	油彩／カンヴァス	117.0×72.8
49	〈私の〉地球	1968年	油彩／カンヴァス	112.2×162.2
シベリア・シリーズ関連素描・資料				
a	《雲》関連素描	制作年不詳	ペン／紙（福岡フォルム画廊封筒）	19.9×13.6
b	《青の太陽》関連素描	1968年頃	クレヨン・鉛筆／紙	27.3×19.8
c-1	《ホロンバイル》関連素描	1959年頃	クレヨン・ペン・水彩／紙	19.5×27.4
c-2	《ホロンバイル》関連素描	1959年頃	クレヨン・ペン・水彩／紙	17.9×26.5
c-3	《ホロンバイル》関連素描	1959年頃	クレヨン・ペン・水彩／紙	18.4×24.9
c-4	《ホロンバイル》関連素描	1959年頃	ペン・水彩／紙	18.2×27.2
c-5	《ホロンバイル》関連素描	1959年頃	鉛筆・水彩／紙	19.7×27.1
c-6	《ホロンバイル》関連素描	1959年頃	鉛筆・水彩／紙	26.9×19.1
d	《道》関連素描	1971年頃	鉛筆／紙	11.8×9.1
e	《護》関連素描	1968年頃	クレヨン・油彩／紙	32.2×47.3
f	《1945》関連素描	1958年頃	ペン／紙	27.2×39.5
g-1	《避難民》関連素描	1959年頃	ペン・水彩／紙	15.3×25.1
g-2	《避難民》関連素描	1959年頃	鉛筆／紙	7.9×15.4
h	《奉天》関連素描	制作年不詳	ペン／紙	9.8×19.6
i-1	《運ぶ人》関連素描	制作年不詳	ペン／紙	19.7×13.6
i-2	《運ぶ人》関連素描	制作年不詳	ペン／紙	19.7×13.6
i-3	《運ぶ人》関連素描	1960年頃	墨／紙（サイン：ペン）	10.0×15.4
j-1	《埋葬》関連素描	1947年頃	ペン／紙	13.0×20.5
j-2	《埋葬》関連素描	1947年頃	鉛筆・水彩／紙	19.0×26.3
k-1	《雪》関連素描	1959年頃	クレヨン・鉛筆・水彩／紙	16.5×24.5
k-2	《雪》関連素描	1959年頃	クレヨン・鉛筆・水彩／紙	11.7×16.8
k-3	《雪》関連素描	1959年頃	クレヨン・鉛筆／紙	18.5×27.5
l-1	《穴掘人》関連素描	1959年頃	ペン／紙(煙草空箱)	13.9×7.0
l-2	《穴掘人》関連素描	1959年頃	ペン／紙(煙草空箱)	13.9×7.0
m-1	《餓》関連素描	1963年頃	鉛筆・ペン／紙	19.7×13.6
m-2	《餓》関連素描	1963年頃	鉛筆／紙	19.8×13.6
n	《渚〈ナホトカ〉》自筆解説文原稿	1974年頃	ペン／紙	
o-1	《デモ》自筆解説文原稿	1973年頃	ペン／紙	
o-2	《デモ》関連素描	1972年	クレヨン・ペン／紙	10.8×6.9
p-1	シベリア移動地図	1971年頃	鉛筆／紙	39.5×54.3
p-2	飯盒	1971年頃	ペン・鉛筆／紙	27.2×39.5
p-3	チェルノゴルスク収容所周辺地図	1971年頃	ペン／紙	18.0×27.2
q-1	『シベリヤ画集』（新潮社、1971年）扉ページデザインラフ（ダモイ）	1958年頃	クレヨン／紙	28.8×25.7
q-2	『シベリヤ画集』（新潮社、1971年）むすびの言葉	1971年頃	ペン／紙	30.0×25.2

* 作品はすべて山口県立美術館蔵

(5) 講演会等

■美術講座

「素描から完成作へーシベリア・シリーズの軌跡」

日時：4月19日(土) 14:00～15:00

講師：萬屋健司（山口県立美術館専門学芸員）

会場：山口県立美術館講座室

定員：80名

■学芸員によるギャラリー・トーク

日時：会期中の毎週土曜日 10:00～（30分程度）

■託児サービス：ちびっこルーム

日時：会期中毎週末曜日 10:00～13:00（定員制・要予約）

会場：山口県立美術館講座室

国際浮世絵学会創立50周年記念

大浮世絵展

2014（平成26）年5月16日（金）～7月13日（日） 9：00～18：00（入館は17：30まで） 月曜休館

主催 大浮世絵展実行委員会（山口県立美術館、国際浮世絵学会、読売新聞社、KRY山口放送）

協力 日本航空

後援 西日本旅客鉄道株式会社、一般社団法人山口県観光連盟、
一般財団法人山口観光コンベンション協会

特別協力 エフエム山口

特別協賛 山口銀行



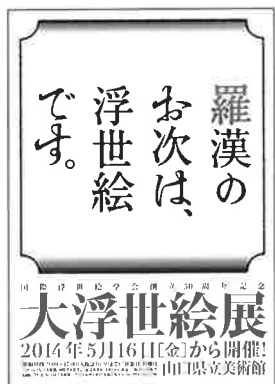
ポスター



ポスター



チラシ表面



先行チラシ



先行チラシ



先行チラシ



チラシ裏面



先行チラシ



先行チラシ



先行チラシ裏面(全5種)



タブロイド表面



タブロイド中面



タブロイド裏面

(1) 趣旨・概要

本展は国際浮世絵学会の創立50周年を記念し、「浮世絵の教科書、決定版」となる展覧会を目指して企画されたものである。国際浮世絵学会に所属する研究者らが委員となり、300年以上に渡る浮世絵全史を通覧できる内容とすること、一般に知名度が高い作品を軸に構成すること、摺りや保存状態の良好な作品であることを基準に作品を選定。全国に加え、ヨーロッパ、アメリカの5館を含めた国公立の美術館および個人等から借用を行い、東京・名古屋・山口3会場合わせての総出品数は438点にのぼる、大規模な浮世絵展となった。

当館では、うち347点の作品を展示した。会場では浮世絵前史から錦絵誕生、美人画と役者絵を中心とする黄金期、名所絵や武者絵、戯画などへの展開、さらに明治期から大正新版画へと、その全史をたどることができる本展の特徴をより体感しやすいよう、合わせて各時期を牽引した人気絵師の個性や、主題の豊かさが明確になるように整理して構成し、章ごとに色を変えたバックパネルや装飾バナーなどで視覚化した。

また浮世絵の特性上、展示期間が制限される作品が多数であることから、期間中は毎週、計8期にわたる展示替えを行い、会場には常時約160点を展示。会期開始時と終了時にはほぼ全ての作品が入れ替わることとなった。

このような知名度の高い作品を多数含むボリュームや、絵師とジャンルの多様さ、作品状態の良さ、また各種イベントを含めた鑑賞の切り口の多彩さは大きな話題を呼んだ。合わせてテレビでのCM・ニュース・情報番組での中継や特集、新聞での連載・展示替えごとの記事、ラジオ特集など、毎週の展示替えを広報素材として捉え、メディアにおいて繰り返し取り上げられたことも効果を挙げ、よりいっそうの集客へとつながった。県内各地はもとより、九州、中国地方を中心とした広域からの来館者に加え、展示替えごとに足を運んだりリピーターも多く、総入館者数は歴代入館者数第10位となる100,055人を記録した。会期中は美術館周辺にもぎわいを見せ、近隣施設での宿泊等も含めた観光交流人口の増加等、地域への経済波及効果も、もたらすことができた。



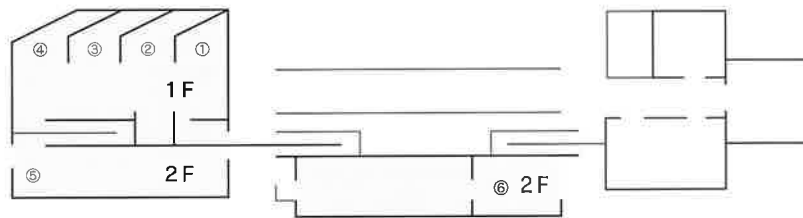
会場風景



美術館ロビー風景

(2) 会場構成

- ① 第一章 浮世絵前夜
- ② 第二章 浮世絵のあけぼの
- ③ 第三章 錦絵の誕生
- ④ 第四章 浮世絵の黄金期
- ⑤ 第五章 浮世絵のさらなる展開
- ⑥ 第六章 新たなるステージへ



(3) カタログ

編集 国際浮世絵学会、東京都江戸東京博物館、名古屋市博物館、山口県立美術館、読売新聞社
 発行 読売新聞社
 内容

- 10 浮世絵の歴史とその魅力 小林忠
 14 The History of Ukiyo-e and its Allure Kobayashi Tadashi
 18 浮世絵を楽しむために 神谷浩
 21 Appreciating Ukiyo-e Kamiya Hiroshi
 《図版》
 25 浮世絵前夜
 43 浮世絵のあけぼの
 75 錦絵の誕生
 105 浮世絵の黄金期
 157 さらなる展開
 237 新たなるステージへ
 《資料・解説》
 268 浮世絵の様式
 269 錦絵の摺行程
 270 浮世絵版画の判型
 274 作品解説
 327 絵師解説
 332 主要絵師生没年表
 334 出品目録
 346 List of Works
 365 国際浮世絵学会年表
 * A4変型判 (298×225mm) 367ページ



カタログ

(4) 出品目録

指定	絵師名	作品名	所蔵先
1章 浮世絵前夜			
1	国宝	婦女遊楽図屏風 (松浦屏風)	大和文華館
2	岩佐又兵衛	団扇形風俗画	浦上満氏
3		緑舞美人図	東京国立博物館
4		扇舞美人図	個人蔵
5		文読み美人図	個人蔵
6		脇息による美人図	個人蔵
7		扇舞図	個人蔵
2章 浮世絵のあけぼの			
8	重文 菱川師宣	歌舞伎図屏風	東京国立博物館
9	菱川師宣	北楼及び演劇図巻	東京国立博物館
10	菱川師宣	戯れへのいざない	鎌川浮世絵美術館
11	菱川師宣	衝立のかけ	平本浮世絵財団

12	菱川師宣	よしはらの妹 揚屋の座敷	磯川浮世絵美術館
13	菱川師宣	『江戸雀』	東京都江戸東京博物館
14	菱川師宣	『恋のみなかみ』	千葉市美術館
15	杉村治兵衛	浄瑠璃十二段草子 忍びの段 枕問答	ギメ東洋美術館
16	重美 鳥居清信	立美人図	東京国立博物館
17	鳥居清信	蚊帳の内外	ベルリン国立アジア美術館
18	鳥居清倍	市川団十郎の虎退治	千葉市美術館
19	重文 鳥居清倍	市川団十郎の竹抜き五郎	東京国立博物館
20	鳥居清倍	出陣髪すき	東京都江戸東京博物館
21	2代鳥居清倍	瀬川菊次郎のしろきやおくま	ホノルル美術館
22	懐月堂安度	風前美人図	東京国立博物館
23	懐月堂安度	立美人図	千葉市美術館
24	懐月堂安度	立美人図	奈良県立美術館
25	宮川長春	蚊帳美人図	個人蔵
26	宮川長春	柳下腰掛美人図	個人蔵
27	重文 宮川長春	風俗図巻	東京国立博物館
28	宮川長亀	乗鶴美人図	摘水軒記念文化振興財団
29	宮川一笑	正月風俗図	日本浮世絵博物館
30	西川祐信	衣通姫図	京都府立総合資料館（京都府京都文化博物館管理）
31	西川祐信	高砂図	奈良県立美術館
32	月岡雪廬	大小の舞図	日本浮世絵博物館
33	奥村政信	十月のてい	ベルリン国立アジア美術館
34	奥村政信	武者絵尽	千葉市美術館
35	奥村政信	遊女張果郎	ギメ東洋美術館
36	奥村政信	芝居狂言浮絵根元	ベルリン国立アジア美術館
37	奥村政信	芝居狂言浮絵根元	日本浮世絵博物館
38	奥村政信	新吉原大門口中之町浮絵根元	アダチ伝統木版画技術保存財団
39	奥村政信	紅葉焚き	ギメ東洋美術館
40	奥村政信	中村座芝居図屏風	出光美術館
41	奥村利信	高砂図	神奈川県立歴史博物館
42	奥村利信	2代目市川団十郎と嵐和歌野	日本浮世絵博物館
43	奥村利信	遊君三幅対	神奈川県立歴史博物館
44	西村重長	三幅対ひよくの三曲	ホノルル美術館
45	石川豊信	中村兼太郎、中村富十郎、佐野川市松	東京都江戸東京博物館
46	石川豊信	佐野川市松と市川八百蔵	ギメ東洋美術館
47	石川豊信	佐野川市松と中村兼太郎の髪すき	日本浮世絵博物館
48	石川豊信	市川海老蔵の鳴神上人と尾上菊五郎の雲の絶間姫	東京都江戸東京博物館
49	鳥居清満	枕相撲	東京都江戸東京博物館
50	鳥居清満	枕相撲	ベルリン国立アジア美術館

3章 錦絵の誕生

51	鈴木春信	見立為朝	ベルリン国立アジア美術館
52	鈴木春信	坐鋪八景 琴路落雁	ベルリン国立アジア美術館
53	鈴木春信	見立夕顔	ホノルル美術館
54	鈴木春信	縁先に立つ美人	ギメ東洋美術館
55	鈴木春信	雪中相合傘	大英博物館
56	鈴木春信	三十六歌仙 権中納言敦忠	ギメ東洋美術館
57	鈴木春信	百人一首 蟬丸	ホノルル美術館
58	鈴木春信	風流五色墨 長水	ホノルル美術館
59	鈴木春信	『絵本千代松』	千葉市美術館
60	一筆斎文調	墨水八景 綾瀬の夕照	大英博物館
61	一筆斎文調	2代目市川高麗蔵の三味線引吉六	東京都江戸東京博物館
62	一筆斎文調	3代目松本幸四郎の當我五郎	東京都江戸東京博物館
63	一筆斎文調	2代目瀬川菊之丞の柳屋お藤	東京都江戸東京博物館
64	一筆斎文調	市川弁蔵の大和田要之助	東京都江戸東京博物館
65	勝川春章	5代目市川団十郎の滝口鏡と中村仲蔵の清盛	ホノルル美術館
66	勝川春章	3代目大谷広次の直井左衛門と 4代目坂東又太郎の坂東太郎	日本浮世絵博物館
67	勝川春章	東扇 中村仲蔵	東京国立博物館

68	勝川春章	中村仲蔵の衛士の鶴平と 4代目岩井半四郎の池田の宿の朝顔	ホノルル美術館
69	勝川春章	中村仲蔵の擬の意休 尾上松助のかんべら門兵衛 中村里好の三浦屋の揚巻 5代目市川團十郎の揚巻の助六 3代目沢村宗十郎の白酒売新兵衛	ベルリン国立アジア美術館
70	勝川春章	花下の遊女	千葉市美術館
71	勝川春章	花下三美人図	出光美術館
72	勝川春好	4代目松本幸四郎	日本浮世絵博物館
73	勝川春章	虹ヶ嶽袖右衛門と筆ノ海金右衛門	ベルリン国立アジア美術館
74	勝川春章	谷風梶之助と宮城野錦之助	日本相撲協会 相撲博物館
75	勝川春章	鶯ヶ濱音右衛門と鬼面山谷五郎	日本相撲協会 相撲博物館
76	勝川春好	渦ヶ淵勘太夫と関ノ戸八郎治 木村庄之助	ギメ東洋美術館
77	磯田湖龍斎	江戸見立六玉川 調布	ギメ東洋美術館
78	磯田湖龍斎	亀戸の藤	神奈川県立歴史博物館
79	磯田湖龍斎	雛形若菜初模様 大まびや内 柴山	ギメ東洋美術館
80	磯田湖龍斎	浮世女風俗拾考 妓婦ノ部	大英博物館
81	磯田湖龍斎	九郎助稲荷の鳥居の前に立つ たはらや内 若まつ もみじ にしき	神奈川県立歴史博物館
82	磯田湖龍斎	汐汲図	千葉市美術館
83	歌川豊春	浮絵 江戸深川新大橋中須の図	東京都江戸東京博物館
84	歌川豊春	江戸名所新吉原之図	東京都江戸東京博物館
85	歌川豊春	遊女と禿	日本浮世絵博物館
86	北尾重政	屏風前の二美人	ベルリン国立アジア美術館
87	北尾政演	吉原傾城新美人合自筆鏡	神奈川県立歴史博物館
88	北尾政美	江戸兩國橋夕涼之景	ベルリン国立アジア美術館

4章 浮世絵の黄金期

89	鳥居清長	雛形若菜の初模様 あふきや内 遠路 里次 浦次	山口県立萩美術館・浦上記念館
90	鳥居清長	花下の芸者二人	霜礼次郎氏
91	鳥居清長	風俗東之錦 袴着	東京都江戸東京博物館
92	鳥居清長	風俗東之錦 三人の女	東京都江戸東京博物館
93	鳥居清長	風俗東之錦 萩の庭	大英博物館
94	鳥居清長	当世遊里美人合 たち花	東京都江戸東京博物館
95	鳥居清長	当世遊里美人合 辰巳鏡	東京都江戸東京博物館
96	鳥居清長	美南見十二候 九月	千葉市美術館
97	鳥居清長	大川端夕涼	大英博物館
98	鳥居清長	中村里好と遊女	山口県立萩美術館・浦上記念館
99	鳥居清長	3代目沢村宗十郎の治兵衛と4代目岩井半四郎の小春	東京都江戸東京博物館
100	鳥居清長	3代目市川八百蔵の真田与一 三樹徳次郎の鳥帽子折烏丸お京 2代目中村助五郎の股野五郎妹誰ヶ袖	東京都江戸東京博物館
101	鳥居清長	3代目市川八百蔵の古手屋八郎兵衛と中村里好の丹波屋お妻	ホノルル美術館
102	鳥居清長	3代目瀬川菊之丞の山姥 2代目市川門之助の怪童丸 5代目市川團十郎の仁和寺の才兵衛	山口県立萩美術館・浦上記念館
103	鳥居清長	駿河町越後屋正月風景図	三井記念美術館
104	鳥居清長	尾張町恵美須屋店頭図	東京都江戸東京博物館
105	鳥居清長	『絵本物見岡』	東京都江戸東京博物館
106	勝川春潮	三圍詣	ベルリン国立アジア美術館
107	勝川春潮	田圃道の遊山	ベルリン国立アジア美術館
108	勝川春山	太々講 二見ヶ浦詣	ギメ東洋美術館
109	喜多川歌麿	『画本虫撰』 下	個人蔵
110	喜多川歌麿	『潮干のつと』	千葉市美術館
111	喜多川歌麿	『百千鳥狂歌合』	千葉市美術館
112	喜多川歌麿	四季遊花之色香 上下	大英博物館
113	喜多川歌麿	鮑取り	大英博物館
114	喜多川歌麿	二つ枕	ギメ東洋美術館
115	喜多川歌麿	武蔵野	ギメ東洋美術館
116	喜多川歌麿	当時三美人 富本豊ひな 難波屋きた 高しまひさ	磯川浮世絵美術館
117	喜多川歌麿	歌猿恋之部 深く忍恋	ギメ東洋美術館
118	喜多川歌麿	歌猿恋之部 物思恋	ギメ東洋美術館
119	喜多川歌麿	婦女人相十品 ポッペンを吹く娘	東京国立博物館
120	喜多川歌麿	婦人相学十卦 面白キ相	ギメ東洋美術館

121	喜多川歌麿	虫籠	ギメ東洋美術館
122	喜多川歌麿	北国五色景 切の娘	日本浮世絵博物館
123	喜多川歌麿	北国五色景 切の娘	ギメ東洋美術館
124	喜多川歌麿	錦織歌麿形新模様 白打掛	ベルリン国立アジア美術館
125	重美	夏姿美人図	遠山記念館
126	重文	更衣美人図	出光美術館
127	喜多川歌麿	高島おひさ	個人蔵
128	喜多川歌麿	難波屋おきた	個人蔵
129	栄松斎長喜	月見	ギメ東洋美術館
130	栄松斎長喜	青楼俄全盛遊	ベルリン国立アジア美術館
131	勝川春英	市川蝦蔵の山賤切かぶのよき蔵実は武蔵守箕田の仕	ホノルル美術館
132	勝川春英	2代目中村野塩の腰元お軽	ホノルル美術館
133	勝川春英	小野川谷風引き分けの図	東京都江戸東京博物館
134	勝川春英	柏戸と錦木	メーテレ (名古屋テレビ放送)
135	勝川春英	郎内水入りの図	東京都江戸東京博物館
136	鳥文斎栄之	朝顔美人図	千葉市美術館
137	鳥文斎栄之	三福神吉原通り図巻	千葉市美術館
138	鳥文斎栄之	略六花撰 喜撰法師 貝合せ	大英博物館
139	鳥文斎栄之	青楼美人六花仙 静玉屋志津加	ベルリン国立アジア美術館
140	鳥橋斎栄里	郭中美人鏡 越前屋唐土	日本浮世絵博物館
141	鳥高斎栄昌	青楼俄万才	ベルリン国立アジア美術館
142	一楽亭栄水	美人五節句 松葉屋うち染之助	ベルリン国立アジア美術館
143	窪俊満	六玉川	ギメ東洋美術館
144	窪俊満	桜花遊女と禿	日本浮世絵博物館
145	東洲斎写楽	3代目市川高麗蔵の志賀大七	大英博物館
146	東洲斎写楽	3代目沢村宗十郎の大岸蔵人	ギメ東洋美術館
147	東洲斎写楽	4代目松本幸四郎の山谷の香屋五郎兵衛	東京都江戸東京博物館
148	東洲斎写楽	4代目岩井半四郎の重の井	大英博物館
149	東洲斎写楽	市川男女蔵の奴一平	ギメ東洋美術館
150	東洲斎写楽	3代目大谷鬼次の江戸兵衛	千葉市美術館
151	東洲斎写楽	2代小佐川常世の一平姉おさん	ギメ東洋美術館
152	東洲斎写楽	沢村淀五郎の川連法眼と坂東善次の鬼佐渡坊	ギメ東洋美術館
153	歌舞伎堂艶鏡	3代目市川八百蔵	中右瑛氏
154	歌川豊国	風流七小町略姿絵 雨乞小まち	ギメ東洋美術館
155	歌川豊国	3代目瀬川菊之丞	大英博物館
156	歌川豊国	3代目沢村宗十郎のさつま源五兵衛	ベルリン国立アジア美術館
157	歌川豊国	布袋屋店先	ベルリン国立アジア美術館
158	歌川豊国	役者舞台之姿絵 やまとや	ホノルル美術館
159	歌川豊国	役者舞台之姿絵 高らい屋	ホノルル美術館
160	歌川国政	市川蝦蔵の碓井の荒太郎定光	東京国立博物館
161	歌川国政	2代目中村野塩の五斗兵衛女房徳女	ホノルル美術館
162	歌川国政	6代目市川團十郎	ホノルル美術館
163	歌川国政	三味線美人	大英博物館
164	歌川豊広	屋根舟に乗り込む女	ベルリン国立アジア美術館
165	歌川豊広	豊国豊広 両画十二侯 二月 三枚続	大英博物館

5章 浮世絵のさらなる展開

166	菊川英山	青楼五節句遊 七夕 鶴や 真砂子 すがわら	神奈川県立歴史博物館
167	菊川英山	青楼美人合 松葉屋内 粧ひ 華妻	神奈川県立歴史博物館
168	菊川英山	青楼美人合 扇屋内 華まと 花ぞめ	メーテレ (名古屋テレビ放送)
169	菊川英山	風流吉原八景 まかきの落雁	メーテレ (名古屋テレビ放送)
170	溪斎英泉	浮世風俗美女鏡 看花復飲酒 酔臥落花茵	神奈川県立歴史博物館
171	溪斎英泉	浮世風俗美女鏡 一泓秋水浸芙蓉	日本浮世絵博物館
172	溪斎英泉	浮世風俗美女鏡 万点水蛭秋草中	日本浮世絵博物館
173	溪斎英泉	田川屋前の芸者	メーテレ (名古屋テレビ放送)
174	溪斎英泉	仮宅の遊女	千葉市美術館
175	溪斎英泉	北国八景之内 うらたんぼ暮雪 玉屋内白玉	名古屋市博物館 (尾崎久弥コレクション)
176	溪斎英泉	今春音曲松の葉 富本風	東京都江戸東京博物館
177	溪斎英泉	江戸高縄之景	神奈川県立歴史博物館

178	溪齋英泉	江戸日本橋ヨリ富士ヲ見ル図	メーテレ (名古屋テレビ放送)
179	溪齋英泉	江戸日本橋ヨリ富士ヲ見ル図	東京都江戸東京博物館
180	溪齋英泉	木曾街道続ノ巻 日本橋雪之曙	中山道広重美術館
181	溪齋英泉	岐阻街道 深谷之駅	中山道広重美術館
182	溪齋英泉	木曾街道 倉賀野宿 鳥川之図	中山道広重美術館
183	溪齋英泉	岐阻街道 奈良井宿 名産店之図	中山道広重美術館
184	溪齋英泉	木曾路駅 野尻 伊奈川橋遠景	中山道広重美術館
185	溪齋英泉	日光山名所之内 素庵之瀧	神奈川県立歴史博物館
186	葛飾北斎	新板七へんげ三階伊達の姿見	メーテレ (名古屋テレビ放送)
187	葛飾北斎	おしをくりはとうつうせんのご	名古屋市博物館
188	葛飾北斎	ぎやうとくしほはまよりのぶとのひかたをのぞむ	名古屋市博物館
189	葛飾北斎	たかはしのふじ	個人蔵
190	葛飾北斎	よつや十二そう	名古屋市博物館
191	葛飾北斎	富嶽三十六景 凱風快晴	東京都江戸東京博物館
192	葛飾北斎	富嶽三十六景 凱風快晴	和泉市久保徳記念美術館
193	葛飾北斎	富嶽三十六景 凱風快晴	ベルリン国立アジア美術館
194	葛飾北斎	富嶽三十六景 神奈川沖浪裏	ギメ東洋美術館
195	葛飾北斎	富嶽三十六景 東都浅草本願寺	東京都江戸東京博物館
196	葛飾北斎	富嶽三十六景 山下白雨	ベルリン国立アジア美術館
197	葛飾北斎	富嶽三十六景 甲州三馬越	ベルリン国立アジア美術館
198	葛飾北斎	富嶽三十六景 常州牛堀	ベルリン国立アジア美術館
199	葛飾北斎	富嶽三十六景 尾州不二見原	ベルリン国立アジア美術館
200	葛飾北斎	富嶽三十六景 甲州石班沢	東京都江戸東京博物館
201	葛飾北斎	富嶽三十六景 本所立川	東京都江戸東京博物館
202	葛飾北斎	富嶽三十六景 諸人登山	東京都江戸東京博物館
203	葛飾北斎	諸国瀧廻り 相州大山ろうべんの瀧	神奈川県立歴史博物館
204	葛飾北斎	千絵の海 相州浦賀	個人蔵
205	葛飾北斎	紫陽花に燕	ベルリン国立アジア美術館
206	葛飾北斎	百合	ベルリン国立アジア美術館
207	葛飾北斎	百物語 さらやしき	日本浮世絵博物館
208	葛飾北斎	百物語 笑ひはんにや	日本浮世絵博物館
209	葛飾北斎	百物語 しょうねん	日本浮世絵博物館
210	葛飾北斎	百物語 お岩さん	日本浮世絵博物館
211	葛飾北斎	百物語 小はだ小平二	日本浮世絵博物館
212	葛飾北斎	煙草入れに唇図	名古屋市博物館
213	葛飾北斎	観桜	メーテレ (名古屋テレビ放送)
214	葛飾北斎	若衆図 『蜀山人團繞名蹟集』より	千葉市美術館
215	葛飾北斎	墨堤三美人	個人蔵
216	葛飾北斎	美人夏姿図	個人蔵
217	葛飾北斎	夏の朝	岡田美術館
218	葛飾北斎	弘法大師修法図	西新井大師祇持寺
219	葛飾北斎	端午の節句	個人蔵
220	葛飾北斎	『近世怪談 霜夜星』	名古屋市蓬左文庫
221	葛飾北斎	『伝神開手 北斎漫画』初編・八編・十二編	浦上満氏
222	葛飾北斎	『富嶽百景』初編・二編	名古屋市博物館
223	歌川広重	東海道五拾三次之内 日本橋 朝之景	東京都江戸東京博物館
224	歌川広重	東海道五拾三次之内 箱根 湖水図	名古屋市博物館
225	歌川広重	東海道五拾三次之内 蒲原 夜之雪	中山道広重美術館
226	歌川広重	東海道五拾三次之内 鞠子 名物茶店	名古屋市博物館
227	歌川広重	東海道五拾三次之内 庄野 白雨	中山道広重美術館
228	歌川広重	東海道五拾三次之内 亀山 雪晴	名古屋市博物館
229	歌川広重	東海道五拾三次之内 土山 春之雨	名古屋市博物館
230	歌川広重	木曾海道六拾九次之内 拾九 軽井沢	中山道広重美術館
231	歌川広重	木曾海道六拾九次之内 三拾式 洗馬	中山道広重美術館
232	歌川広重	木曾海道六拾九次之内 四拾七 大井	中山道広重美術館
233	歌川広重	名所江戸百景 亀戸梅屋舗	高浜市やきもの里かわら美術館
234	歌川広重	名所江戸百景 大はしあたけの夕立	高浜市やきもの里かわら美術館
235	歌川広重	名所江戸百景 亀戸天神境内	高浜市やきもの里かわら美術館
236	歌川広重	名所江戸百景 市中繁榮七夕祭	高浜市やきもの里かわら美術館
237	歌川広重	名所江戸百景 浅草田甫西の町詣	高浜市やきもの里かわら美術館

238	歌川広重	名所江戸百景 浅草金龍山	高浜市やきもの里かわら美術館
239	歌川広重	阿波鳴門之風景	和泉市久保惣記念美術館
240	歌川広重	京都名所之内 あらし山満花	中山道広重美術館
241	歌川広重	京都名所之内 淀川	中山道広重美術館
242	歌川広重	近江八景之内 唐崎夜雨	中山道広重美術館
243	歌川広重	近江八景之内 唐崎夜雨	個人蔵
244	歌川広重	近江八景之内 比良暮雪	中山道広重美術館
245	歌川広重	月に雁	和泉市久保惣記念美術館
246	歌川広重	魚づくし コチと茄子	中山道広重美術館
247	歌川広重	名妓高尾之像・古代吉原通ひ道	根津美術館
248	歌川広重	江ノ島園	個人蔵
249	歌川国貞	役者はんじもの 3代目坂東三津五郎	メーテレ (名古屋テレビ放送)
250	歌川国貞	大当狂言内 阿古屋	千葉市美術館
251	歌川国貞	大当狂言内 大工六三郎	神奈川県立歴史博物館
252	歌川国貞	大当狂言ノ内 八百屋お七	神奈川県立歴史博物館
253	歌川国貞	大当狂言之内 菅蒸相	個人蔵
254	歌川国貞 (3代豊国)	菅相蒸 沢村宗十郎 高賀	メーテレ (名古屋テレビ放送)
255	歌川国貞 (3代豊国)	漁師浪六 嵐璃寛 駱御	メーテレ (名古屋テレビ放送)
256	歌川国貞 (3代豊国)	滝夜叉姫 尾上菊次郎 梅花	千葉市美術館
257	歌川国貞 (3代豊国)	今様押絵鏡 中村福助の竹拔五郎	名古屋市博物館 (尾崎久弥コレクション)
258	歌川国貞	江戸自慢 四万六千日	神奈川県立歴史博物館
259	歌川国貞	星の霜当世風俗 外出	神奈川県立歴史博物館
260	歌川国貞	五節句ノ内 文月	メーテレ (名古屋テレビ放送)
261	歌川国貞 (3代豊国)	今様見立土農工商 職人	メーテレ (名古屋テレビ放送)
262	歌川国芳	通俗水滸伝豪傑百八人之一人 花和尚魯知深 初名魯達	名古屋市博物館 (高木繁コレクション)
263	歌川国芳	高祖御一代略図 佐州塚原雪中	ベルリン国立アジア美術館
264	歌川国芳	八大伝之内芳流閣	名古屋市博物館 (高木繁コレクション)
265	歌川国芳	相馬の古内裏	名古屋市博物館 (高木繁コレクション)
266	歌川国芳	日本駄右エ門猫之古事	名古屋市博物館 (高木繁コレクション)
267	歌川国芳	大物の浦平家の亡霊	名古屋市博物館 (高木繁コレクション)
268	歌川国芳	吉野山合戦	名古屋市博物館 (高木繁コレクション)
269	歌川国芳	誠忠義士肖像 大星山良之助良雄	山口県立萩美術館・浦上記念館
270	歌川国芳	列猛伝 宮本武三四	名古屋市博物館 (尾崎久弥コレクション)
271	歌川国芳	東都名所 浅草今戸	東京都江戸東京博物館
272	歌川国芳	東都名所 するがだひ	山口県立萩美術館・浦上記念館
273	歌川国芳	東都名所 大森	山口県立萩美術館・浦上記念館
274	歌川国芳	江戸じまん名物くらべ こま達のなす	名古屋市博物館 (高木繁コレクション)
275	歌川国芳	猫の当字 うなぎ	和泉市久保惣記念美術館
276	歌川国芳	猫の当字 かつを	個人蔵
277	歌川国芳	猫の当字 たこ	個人蔵
278	歌川国芳	其ま、地口猫飼好五十三疋 上中下	渡邊木版美術画舗
279	歌川国芳	としよりのよふな若い人だ	名古屋市博物館 (高木繁コレクション)
280	歌川国芳	深見草獅子彩色	名古屋市博物館 (高木繁コレクション)
281	歌川国芳	魚の心	ベルリン国立アジア美術館
282	歌川国芳	里すゝめねぐらの仮宿	名古屋市博物館 (高木繁コレクション)
283	歌川国芳	亀喜妙々	名古屋市博物館 (高木繁コレクション)
284	歌川国芳	浮世又平名画奇特	名古屋市博物館 (高木繁コレクション)
285	歌川国虎	羅得島淡紅毛船入津之図	ベルリン国立アジア美術館
286	歌川貞秀	東都両国ばし夏景色	千葉市美術館
287	歌川芳範	木曾山中樋口兼光大猿退治	中山道広重美術館
288	歌川芳範	木曾山中樋口兼光大猿退治	個人蔵
289	祇園井特	手あぶり美人図	京都府立総合資料館 (京都府京都文化博物館管理)
290	祇園井特	太夫道中図屏風	京都府立総合資料館 (京都府京都文化博物館管理)
291	流光斎如圭	芳沢いろはの桜丸女房八重	中右瑛氏
292	蘭好斎	浅尾工左衛門の沢井股五郎	和泉市久保惣記念美術館
293	戯画堂芦幸	2代目嵐吉三郎の多加ノ太正 鳥井又助 市川鯉十郎の望月源藏	阪急文化財団池田文庫
294	玉柳齋重春	5代目市川団藏の早野勘平 3代目中村松江の女房おかる	阪急文化財団池田文庫
295	五棕亭広貞	3代目嵐璃寛のみやぎ野 5代目市川海老蔵の大福や惣らく 2代目市川市紅のしのぶ	阪急文化財団池田文庫

296	五葉亭広信	2代目嵐璃瑠の宮本友次郎 市川眼十郎の山内かに丸 中村千之助のけいせい武蔵野	阪急文化財団池田文庫
297	一葉亭芳澁	浪花百景 天満天神地車宮入	和泉市久保惣記念美術館
298	南棗芳富	浪花百景 うらゑ杜若	和泉市久保惣記念美術館
299	歌川国貞	浪花百景 新町店つき	和泉市久保惣記念美術館
300	長谷川貞信	浪花百景之内 高麗橋	和泉市久保惣記念美術館
301	長谷川貞信	浪花百景之内 セイミ局	和泉市久保惣記念美術館
302	長谷川貞信	浪花百景之内 蒸気船中より浪花の光景を望む	和泉市久保惣記念美術館
303	春川五七	山村友五郎門弟 島屋小梅の海士	和泉市久保惣記念美術館
304	玉柳齋重春	浪花堀江燈籠おどり 梅屋小ゆか	和泉市久保惣記念美術館
305	木村黙老編、 流光齋如圭、 松好齋半兵衛他	『芝翫帖』	千葉市美術館

6章 新たなるステージへ

306	落合芳幾	東京両国川開之図	東京都江戸東京博物館
307	落合芳幾	俳優写真鏡 仁木弾正 尾上菊五郎	東京都江戸東京博物館
308	落合芳幾	東京日々新聞 第一号	東京都江戸東京博物館
309	落合芳幾	東京日々新聞 第三号	東京都江戸東京博物館
310	月岡芳年	東京名勝高輪 蒸気車鉄道之全図	東京都江戸東京博物館
311	月岡芳年	田舎源氏	山口県立萩美術館・浦上記念館
312	月岡芳年	奥州安達がはらひとつ家の図	メーテレ (名古屋テレビ放送)
313	月岡芳年	芳流閣両雄動	メーテレ (名古屋テレビ放送)
314	月岡芳年	日蓮上人石和河にて鞆の迷魂を濟度したまふ図	メーテレ (名古屋テレビ放送)
315	月岡芳年	風俗三十二相 けむさう 享和年間内室之風俗	東京都江戸東京博物館
316	月岡芳年	月百姿	東京都江戸東京博物館
317	小林清親	日本橋夜	東京都江戸東京博物館
318	小林清親	不忍池畔雨中	東京都江戸東京博物館
319	小林清親	画布に猫	山口県立萩美術館・浦上記念館
320	小林清親	鉄砲打狐師	千葉市美術館
321	小林清親	故内務卿贈正二位右大臣久保利通公肖像	東京都江戸東京博物館
322	小林清親	清親放痴 東京隅田川牛嶋	東京都江戸東京博物館
323	小林清親	東京名所真景之内 如月	東京都江戸東京博物館
324	河鍋曉斎	元禄日本錦 わ 堀部安兵衛武庸	東京都江戸東京博物館
325	河鍋曉斎	新板 大黒天福引之図	東京都江戸東京博物館
326	2代歌川国輝	第一大区徒京橋新橋造煉瓦石造商家番昌貴賤敷洋盛景	東京都江戸東京博物館
327	永島春暁	東京両国橋 川開大花火之図	東京都江戸東京博物館
328	楊洲周延	千代田の大奥	東京都江戸東京博物館
329	楊洲周延	浮世風俗当世振 看護婦	千葉市美術館
330	豊原国周	開化三十六会席 深川 平清	山口県立萩美術館・浦上記念館
331	豊原国周	見立昼夜廿四時之内 午後一時	東京都江戸東京博物館
332	豊原国周	色香もどこやらにはかの大風	千葉市美術館
333	豊原国周	見立三勇志	東京都江戸東京博物館
334	豊原国周	東海道四谷怪談 隠亡堀の場	東京都江戸東京博物館
335	豊原国周	5代目尾上菊五郎の小間物屋才次郎	千葉市美術館
336	橋口五葉	髪梳ける女	東京都江戸東京博物館
337	橋口五葉	浴後の女	東京都江戸東京博物館
338	伊東深水	対鏡	東京都江戸東京博物館
339	伊東深水	眉墨	渡邊木版美術画舗
340	伊東深水	現代美人集第二輯 吹雪	山口県立萩美術館・浦上記念館
341	山村耕花	7代目松本幸四郎の関守関兵衛	渡邊木版美術画舗
342	山村耕花	梨園の華 13代目守田勘弥のジャン・バルジャン	千葉市美術館
343	山村耕花	踊り 上海ニューカルトン所見	東京都江戸東京博物館
344	川瀬巴水	東京十二題 春のあたご山	東京都江戸東京博物館
345	川瀬巴水	上州法師温泉	渡邊木版美術画舗
346	川瀬巴水	日本橋 (夜明)	東京都江戸東京博物館
347	川瀬巴水	平泉金色堂	渡邊木版美術画舗

(5) 講演会等

■記念講演会

「浮世絵の魅力」

日時：6月15日(日) 14:00～15:30

講師：小林忠（国際浮世絵学会理事長、岡田美術館館長、学習院大学名誉教授）

会場：山口県教育会館大ホール

定員：300名 ※聴講者約400名

■もっと知りたい！浮世絵講座

・5月25日(日) 「美人画、好き！」 講師：鈴木浩平

(山口県立萩美術館・浦上記念館学芸顧問、国際浮世絵学会理事)

・6月1日(日) 「江戸のイケメン」 講師：湊田恵子（山口県立萩美術館・浦上記念館学芸員）

・6月22日(日) 「浮世絵名所ツアー」 講師：吉田洋子（山口県立萩美術館・浦上記念館主任学芸員）

時間：いずれも14:00～15:00

会場：山口県立美術館講座室

定員：80名

■学芸員によるギャラリー・トーク

日時：5月17・24・31日、6月7日（いずれも土曜日）10:00～

■美術館ボランティアによるこどものためのギャラリー・トーク「みんなでみよう」

日時：5月24・31日、6月7・14・21・28日（いずれも土曜日）11:00～

■託児サービス：ちびっこルーム

日時：会期中毎週木曜日 10:00～13:00（定員制・要予約）

会場：山口県立美術館講座室

■夜間開館「浮世絵とほたるの夕べ」

日時：6月6日(金)～6月8日(日) 20:00まで開館

期間中毎日18:00より、学芸員による見どころ解説トーク

■関連イベント「きもので浮世絵」

会期前半（5月16日(金)～6月15日(日)）

和服での来場者に展覧会オリジナルグッズのプレゼント

放浪の天才画家 山下清展

2014（平成26）年7月26日(土)～9月7日(日) 月曜休館
 主催 山口県立美術館、毎日新聞社、tysテレビ山口
 協力 山下清作品管理事務局
 企画協力 ステップ・イースト
 特別協力 エフエム山口
 特別協賛 エルクホームズ株式会社



チラシ表面



チラシ裏面



ポスター

(1) 趣旨・概要

1922年生まれの山下清は、緻密で色鮮やかな貼絵による独特な世界を確立し、「日本のゴッホ」とも称された。その波乱の生涯は、映画やテレビドラマともなり幅広い層の支持を集めてきたが、それらは必ずしも山下清の本当の姿を伝えるものではなかった。

本展は芸術家としての山下清の真の姿に迫ろうとするもので、生い立ちから貼絵との出会い、放浪とその後の画家としての活躍、ヨーロッパへの旅行と最晩年、と彼の生涯を大きく3期に区切り、代表作である貼絵をはじめ、油彩画、水彩画、ペン画、陶磁器などの128点の作品とともに、遺品など39点の資料を紹介した。

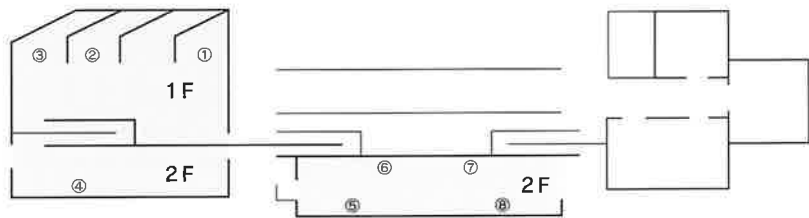
75,000人を超える来館者があり、その多くは、戦前に梅原龍三郎や安井曾太郎から天才と呼ばれた初期の貼絵の芸術性や、晩年のヨーロッパ風景の驚くような緻密さに驚きの声をあげていた。テレビや映画のイメージからは見えなかった山下清の芸術家としての姿を、広く伝えることができた。



会場風景

(2) 会場構成

- ① 少年期の山下清
- ② 学園から飛び出して、放浪へ
- ③ 放浪を辞める誓い
- ④ 芸術家山下清の誕生
- ⑤ 日本ぶらりぶらり
- ⑥ 芸術家としての挑戦
- ⑦ ヨーロッパぶらりぶらり
- ⑧ 創造への挑戦



(3) カタログ

発行 ステップ・イースト
内容

ごあいさつ

「山下清展」開催によせて 山下清作品管理事務局 代表 山下浩
放浪の天才画家・山下清の真実

図版

I 少年期から放浪へ

少年期の山下清

学園から飛び出して、放浪へ

放浪を辞める誓い

II 放浪期から画家へ

芸術家山下清の誕生

日本ぶらりぶらり

芸術家としての挑戦

III 円熟期から晩年へ

ヨーロッパぶらりぶらり

創造への挑戦

山下清かく語りき

略年譜

作品リスト

* A4変型判 (298×226mm) 156ページ



カタログ

(4) 出品目録

No.	作品名	制作年	技法	サイズmm
1	あしなが蜂	1934 (昭和9) 年	貼絵	130×195
2	蝶々	1934 (昭和9) 年	貼絵	120×170
3	ほたる	1934 (昭和9) 年	貼絵	120×175
4	せみ	1934 (昭和9) 年	貼絵	135×180
5	とんぼ	1934 (昭和9) 年	貼絵	120×170
6	蝶	1934 (昭和9) 年	貼絵	135×190
7	ラジオ体操	1936 (昭和11) 年	貼絵	290×375
8	餅つき	1935 (昭和10) 年	貼絵	280×370
9	剣道	1936 (昭和11) 年	貼絵	280×365
10	柔道	1937 (昭和12) 年	貼絵	290×380
11	寝る支度をしているところ	1936 (昭和11) 年	貼絵	275×365
12	身体検査	1937 (昭和12) 年	貼絵	290×370
13	就寝	1937 (昭和12) 年	貼絵	290×370
14	学校で活動写真を写している所	1938 (昭和13) 年	貼絵	280×365
15	ともだち	1938 (昭和13) 年	貼絵	240×330
16	農園	1937 (昭和12) 年	貼絵	290×375
17	雪だるま	1937 (昭和12) 年	貼絵	290×370
18	園芸作業	1939 (昭和14) 年	貼絵	585×760
19	鉢花	1937 (昭和12) 年	貼絵	290×385
20	栗	1938 (昭和13) 年	貼絵	230×320
21	ゆり	1938 (昭和13) 年	貼絵	570×750
22	桜	1939 (昭和14) 年	貼絵	235×345
23	菊	1939 (昭和14) 年	貼絵	750×570
24	菊	1940 (昭和15) 年	貼絵	750×570
25	ざるすべり	1940 (昭和15) 年	貼絵	250×305
26	もくれん	1940 (昭和15) 年	貼絵	300×240
27	アキノキリンソウ	1943 (昭和18) 年	貼絵	310×250
28	金せん花	1949 (昭和24) 年	貼絵	250×350
29	視兵式	1937 (昭和12) 年	貼絵	380×585
30	軍艦	1938 (昭和13) 年	貼絵	575×760
31	高射砲	1938 (昭和13) 年	貼絵	580×760

32	鉄条網	1938 (昭和13) 年	貼絵	580×760
33	学園から出かけるところ	1955 (昭和30) 年	鉛筆画	145×205
34	汽車道を歩いているところ	1954 (昭和29) 年	鉛筆画	145×205
35	袋井で夕飯を貰っているところ	1954 (昭和29) 年	鉛筆画	145×205
36	草津温泉の電車道を歩いているところ	1954 (昭和29) 年	鉛筆画	145×205
37	トンネルをくぐる時のこと	1954 (昭和29) 年	鉛筆画	180×255
38	新しいリュックの中へ品物をしまうところ	1954 (昭和29) 年	鉛筆画	145×205
39	寝る時の事	1954 (昭和29) 年	鉛筆画	180×255
40	熱海の海岸の景色を見ながら歩いているところ	1954 (昭和29) 年	鉛筆画	145×205
41	水に溺れた時の事	1954 (昭和29) 年	鉛筆画	180×255
42	東海道線の鳥田で夕飯を貰いに行くところ	1954 (昭和29) 年	鉛筆画	145×205
43	易者に運勢を見て貰った時の事	1954 (昭和29) 年	鉛筆画	180×255
44	うすい峠	1954 (昭和29) 年	鉛筆画	145×205
45	埼玉県熊谷の花火	1955 (昭和30) 年	鉛筆画	145×205
46	練兵場へ遠足	1940 (昭和15) 年	貼絵	585×765
47	上野不忍池	1940 (昭和15) 年	貼絵	580×760
48	上野の五重塔	1940 (昭和15) 年	貼絵	750×570
49	遠足	1950 (昭和25) 年	貼絵	530×760
50	長岡の花火	1950 (昭和25) 年	貼絵	530×750
51	桜島	1954 (昭和29) 年	ペン画	540×765
52	横浜埠頭にて	1956 (昭和31) 年	ペン画	235×263
53	東京オリンピック	1964 (昭和39) 年	ペン画	385×300
54	本の挿し絵	1957 (昭和32) 年	ペン画	262×380
55	花の絵の下書き	制作年不詳	ペン画	242×330
56	蜂1	制作年不詳	ペン画	270×240
57	蜂2	制作年不詳	ペン画	270×240
58	蝶々	制作年不詳	ペン画	270×240
59	かたつむり	制作年不詳	ペン画	270×240
60	とんぼ	制作年不詳	ペン画	270×240
61	さかな	制作年不詳	ペン画	270×240
62	伊豆大島の風景	1954 (昭和29) 年	貼絵	540×760
63	二重橋	1937 (昭和12) 年	貼絵	370×560
64	上野の地下鉄	1937 (昭和12) 年	貼絵	360×560
65	庭	1937 (昭和12) 年	貼絵	300×390
66	田舎の風景	1937 (昭和12) 年	貼絵	470×620
67	上野の東照宮	1939 (昭和14) 年	貼絵	580×755
68	八幡様の鳥居	1939 (昭和14) 年	貼絵	580×760
69	神宮外苑	1950 (昭和25) 年	貼絵	600×800
70	金町の魚つり	1950 (昭和25) 年	貼絵	530×780
71	山の頂上から見た景色	1950 (昭和25) 年	貼絵	550×760
72	関門海峡	1956 (昭和31) 年	ペン画	365×400
73	阿波の鳴戸	1956 (昭和31) 年	ペン画	218×338
74	岩手の鹿踊り	1956 (昭和31) 年	ペン画	302×241
75	富士山	1957 (昭和32) 年	ペン画	530×375
76	はまごう	1956 (昭和31) 年	ペン画	265×345
77	仙台の七夕	1956 (昭和31) 年	ペン画	390×300
78	松島風景1	1956 (昭和31) 年	ペン画	279×364
79	松島風景2	1956 (昭和31) 年	ペン画	279×364
80	秋田の竿灯	1957 (昭和32) 年	ペン画	395×303
81	市川の風景	1951 (昭和26) 年	油彩	520×440
82	つばき	1951 (昭和26) 年	油彩	直径205
83	桜	1951 (昭和26) 年	油彩	直径205
84	ストックと矢車草	1951 (昭和26) 年	油彩	直径205
85	ラッパ水仙	1951 (昭和26) 年	油彩	直径150
86	チューリップ	1951 (昭和26) 年	油彩	直径205
87	お蝶夫人屋敷	1956 (昭和31) 年	ペン画	280×355
88	岐阜の大仏	1957 (昭和32) 年	ペン画	530×380
89	奈良二月堂	1957 (昭和32) 年	ペン画	355×430
90	養老の滝	1957 (昭和32) 年	ペン画	390×300
91	別府のワニ	1956 (昭和31) 年	ペン画	265×233

92	グレート・デン	1957 (昭和32) 年	ペン画	335×295
93	トンネルのある風景	1956 (昭和31) 年	ペン画	240×240
94	与賀神社	1957 (昭和32) 年	ペン画	308×388
95	阿波踊り	1956 (昭和31) 年	ペン画	232×263
96	天狗久さんの仕事場	1956 (昭和31) 年	ペン画	265×233
97	小石川の後楽園	1960 (昭和35) 年	ペン画	240×330
98	ハイデルベルクの古城	1964 (昭和39) 年	貼絵	440×520
99	パリのサクレクール寺院	1962 (昭和37) 年	貼絵	455×530
100	スイスの町	1963 (昭和38) 年	貼絵	460×535
101	スイス風景	1963 (昭和38) 年	貼絵	455×530
102	ロンドンのタワーブリッジ	1965 (昭和40) 年	貼絵	440×520
103	自分の顔	1950 (昭和25) 年	貼絵	760×530
104	ラ・ムスメ (娘) -ゴッホによる	1940 (昭和15) 年	貼絵	750×570
105	ぼけ	1951 (昭和26) 年	油彩	580×440
106	白隠禅師の墓 (原)	制作年不詳	版画	270×350
107	オランダの風車	1961 (昭和36) 年	水彩画	540×365
108	ストックホルムの市役所	1961 (昭和36) 年	水彩画	760×560
109	ストックホルムの夜景	1961 (昭和36) 年	水彩画	540×740
110	コペンハーゲンの人魚像	1961 (昭和36) 年	水彩画	375×565
111	パリの凱旋門	1961 (昭和36) 年	ペン画	560×770
112	パリのノートルダム寺院	1961 (昭和36) 年	水彩画	760×560
113	パリのムーランルージュ	1961 (昭和36) 年	水彩画	560×380
114	パリのエッフェル塔	1961 (昭和36) 年	水彩画	735×540
115	ベニスのサンマルコ寺院	1961 (昭和36) 年	水彩画	555×760
116	ベニスのゴンドラ風景	1961 (昭和36) 年	水彩画	540×365
117	スイスの町	1961 (昭和36) 年	ペン画	545×740
118	ベニスのゴンドラ風景	1956 (昭和31) 年	大皿	直径370
119	ヨーロッパの壺	制作年不詳	壺	高220/直径180
120	花もも (九谷焼)	1956 (昭和31) 年	色絵蓋物	高120/直径250
121	群鶴 (布志名焼)	制作年不詳	ガレナ釉大皿	直径450
122	指書き模様皿 (布志名焼)	1956 (昭和31) 年	大皿	直径333
123	大文字焼風景 (牛ノ戸焼)	1956 (昭和31) 年	鉄軸壺	高270/直径270
124	皇居前広場 (東京)	制作年不詳	版画	270×350
125	富士 (吉原)	制作年不詳	版画	270×350
126	牧の原 (金谷)	制作年不詳	版画	270×350
127	熱田神宮 (名古屋)	制作年不詳	版画	270×350
128	三条大橋 (京都)	制作年不詳	版画	270×350
資1-6	放浪日記 6冊	1940 (昭和15) 年~1943 (昭和18) 年		
資7	絵日記帳			
資8	放浪中、身に着けていた認識票			
資9	放浪中に使用したリュックサック			
資10	放浪中に着用した浴衣			
資11	旅先から母に宛てたハガキ			
資12	愛用の蔵書『ヴァン・ゴッホ』			
資13	愛用の蔵書『世界の名画』			
資14	パスポート			
資15	エールフランスのチケット			
資16	馬の置物			
資17	知人から貰った勲章			
資18	絶筆となったしおりのサイン	1971 (昭和46) 年		
資19	湯呑み茶碗			
資20	腕時計			
資21	置時計			
資22	8mmカメラ			
資23	将棋の駒			
資24	切手のスクラップブック			
資25	山下清 東海道五十三次	1971 (昭和46) 年		
資26	ヨーロッパぶらりぶらり (ちくま書房)			
資27	ヨーロッパを行く	1983 (昭和58) 年		
資28	裸の大將放浪記 全4巻	1979 (昭和54) 年		

資29	山下清 放浪日記	1956 (昭和31) 年
資30	山下清 日本の風物	1961 (昭和36) 年
資31	放浪 牢屋から逃げたい	1971 (昭和46) 年
資32	別冊サンケイ (表紙)	1957 (昭和32) 年
資33	画集 山下清ひとりだけの旅	1970 (昭和45) 年
資34	山下清作品集 (A) 1956	1956 (昭和31) 年
資35	山下清作品集 (B) 1959	1959 (昭和34) 年
資36	週刊朝日	1955 (昭和30) 年
資37	新宿第一劇場 大歌舞伎	1959 (昭和34) 年
資38	太陽 創刊号	1957 (昭和32) 年
資39	太陽 第二号	1957 (昭和32) 年

(5) 講演会等

■講演会

「修復家が見た天才・山下清の魅力」

日時：7月27日(日) 14：00～16：00

講師：岩井希久子 (絵画保存修復家)

会場：山口県立美術館講座室

定員：80名

「家族が語る山下清」

日時：8月3日(日) 14：00～15：30

講師：山下浩 (山下清作品管理事務局代表／山下清の甥)

会場：山口県立美術館講座室

定員：80名

■学芸員によるギャラリー・トーク

日時：8月2日、9日、16日、23日、30日 10：00～

■こどものためのギャラリー・トーク

日時：8月2日、9日、16日、23日、30日 11:00～

■託児サービス：ちびっこルーム

日時：会期中毎週木曜日 10：00～13：00 (定員制・要予約)

会場：山口県立美術館講座室

コレクション特別企画

テーマでくらべる 雪舟と雲谷派

2014（平成26）年10月30日（木）～11月30日（日） 月曜休館

主催 山口県立美術館、山口新聞社、山口ケーブルビジョン、山口商工会議所

企画協力 公益財団法人毛利報公会 毛利博物館、日本大学芸術学部

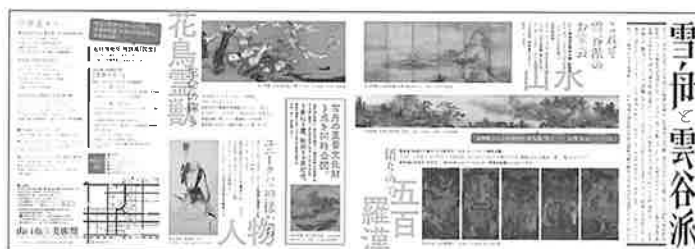
特別協力 エフエム山口



ポスター



チラシ表面

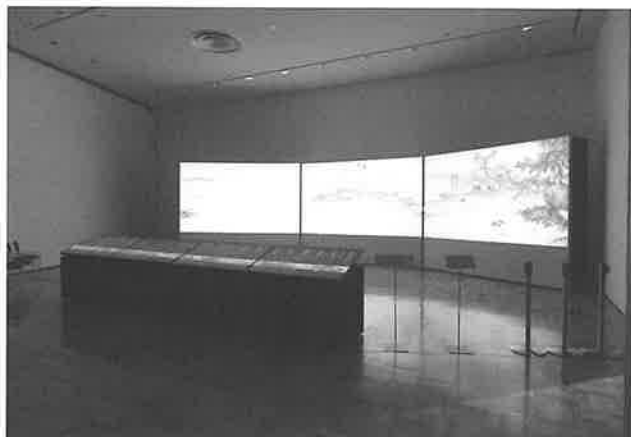


チラシ裏面

(1) 趣旨・概要

山口は雪舟とその画風を継ぐ雲谷派ゆかりの土地である。雲谷派は江戸時代、狩野派に次ぐ規模を誇り、西日本を中心に活動。同派の中心にいたのが長州藩毛利家のお抱え絵師たちで、萩を拠点に、江戸時代半ばまでは江戸や京都、高野山など、数々のアートシーンで活躍したが、その実態はあまり知られていない。本展では、雪舟の重要文化財3点同時公開をはじめ、雪舟と雲谷派の作品計45点を山水、五百羅漢、花鳥霊獣、人物と絵のテーマごとに4章に分け、各章ごとに同一画題の作品を数点ずつ展示。画家同士の個性の違いや素材・技法を比較して見ることで、雪舟と雲谷派の魅力をわかりやすく紹介することに努めた。

とくに第1章では、国宝・雪舟「四季山水図巻」(毛利博物館蔵)の高精細映像を縦2m×横3.5mのスクリーン3面に、巻頭から順に投影するプログラムを日本大学芸術学部(向井知子准教授)の協力のもと開発。手前には手元の高さに4台の4Kテレビを横一列に設置し、16mの画卷全体を約1/3スケールで映して、画面に場面ごとの見どころ解説も添えた。雲谷派のバイブルである本画卷の映像と雲谷派の「山水図屏風」3点を同室に向かい合わせて配置する、映像



国宝・雪舟「四季山水図巻」高精細映像展示



第1章会場風景

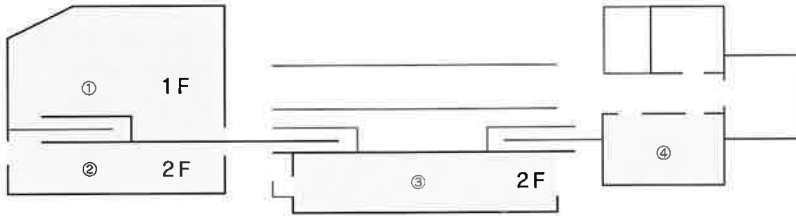
と作品のインスタレーション展示により、いかに雲谷派が雪舟を継いだのかを体感できる空間の演出を試みた。

なお第2章では、毛利家の菩提寺・東光寺（萩市）の雲谷派仏画の代表作で、修復された雲谷等甫「五百羅漢図」14幅を当館では初めて公開し、県内文化財の公開に務めた。

雪舟と雲谷派の水墨画だけではなく多彩な絵画活動を紹介した1ヶ月、新たな展示スタイルを楽しむ入館者の姿が数多く見られた。なお、11月第1週を「雪舟ウィーク」とし、美術講座、雲谷派屏風の露出展示を行った。

(2) 会場構成

- ①第1章 山水～これぞ雲谷派のお家芸
- ②第2章 五百羅漢～悟りの美
- ③第3章 花鳥靈獸～生命の輝き
- ④第4章 人物～ユニークな神様たち



(3) カタログ

制作せず

(4) 出品目録

作品番号	指定	作家名	作品名	品質	員数	時代	所蔵
第1章 山水～これぞ雲谷派のお家芸							
1		伝雪舟等楊	山水図屏風	紙本墨画淡彩	6曲1双	江戸時代 17世紀	山口県立美術館
2		雲谷等顔	山水図屏風	紙本墨画淡彩	6曲1双	桃山時代 16-17世紀	山口県立美術館
3		雲谷等益	山水図屏風	紙本墨画淡彩金泥	6曲1双	江戸時代 17世紀	山口県立美術館
4	重文	雪舟等楊	傲高克恭山水図巻	紙本墨画	1巻	室町時代 文明6年(1474)	山口県立美術館
第2章 五百羅漢～悟りの美							
5		雲谷等甫	五百羅漢図 剃髮	絹本着色	1幅	江戸時代 17-18世紀	東光寺
6		雲谷等甫	五百羅漢図 長眉羅漢	絹本着色	1幅	江戸時代 17-18世紀	東光寺
7		雲谷等甫	五百羅漢図 貴女の礼拝	絹本着色	1幅	江戸時代 17-18世紀	東光寺
8		雲谷等甫	五百羅漢図 観音画像礼拝	絹本着色	1幅	江戸時代 17-18世紀	東光寺
9		雲谷等甫	五百羅漢図 夜の参会	絹本着色	1幅	江戸時代 17-18世紀	東光寺
10		雲谷等甫	五百羅漢図 月からの飛来	絹本着色	1幅	江戸時代 17-18世紀	東光寺
11		雲谷等甫	五百羅漢図 天台石橋	絹本着色	1幅	江戸時代 17-18世紀	東光寺
12		雲谷等甫	五百羅漢図 白蟒の徴伏	絹本着色	1幅	江戸時代 17-18世紀	東光寺
13		雲谷等甫	五百羅漢図 岩上の阿育王塔	絹本着色	1幅	江戸時代 17-18世紀	東光寺
14		雲谷等甫	五百羅漢図 貝中の宝珠	絹本着色	1幅	江戸時代 17-18世紀	東光寺
15		雲谷等甫	五百羅漢図 受胡輸臘	絹本着色	1幅	江戸時代 17-18世紀	東光寺
16		雲谷等甫	五百羅漢図 羅漢会	絹本着色	1幅	江戸時代 17-18世紀	東光寺
17		雲谷等甫	五百羅漢図 猿の献果	絹本着色	1幅	江戸時代 17-18世紀	東光寺
18		雲谷等甫	五百羅漢図 山羊の献花	絹本着色	1幅	江戸時代 17-18世紀	東光寺
第3章 花鳥靈獸～生命の輝き							
19		雲谷等恕	牡丹図屏風	紙本金地着色	6曲1双	江戸時代 17-18世紀	個人蔵
20		雲谷等瑞	牡丹図	絹本着色	1幅	江戸時代 17-18世紀	個人蔵
21		雲谷等瑞	芙蓉図	絹本着色	1幅	江戸時代 17-18世紀	山口県立美術館
22		雲谷派	花鳥図屏風縮図	紙本墨画	1紙	江戸時代	山口県立美術館
23		雲谷等鶴	花鳥図屏風	紙本金地着色	6曲1双	江戸時代 17-18世紀	山口県立美術館
24		雲谷等哲	花鳥図	絹本着色	双幅	江戸時代 17世紀	山口県立美術館
25		雲谷等興	鶉図	絹本着色	1幅	江戸時代 17世紀	山口県立美術館
26		雲谷派	花鳥図襖縮図	紙本墨画	1紙	江戸時代	山口県立美術館
27		雲谷等爾	龍虎図屏風	紙本墨画	6曲1双	江戸時代 17世紀	山口県立美術館
28		雲谷等興	竹虎図	紙本墨画	1幅	江戸時代 17世紀	個人蔵
29		雲谷等瑞	虎図	絹本墨画	1幅	江戸時代 17-18世紀	山口県立美術館

30	雲谷派	四季耕作図襖縮図	紙本墨画	1紙	江戸時代	山口県立美術館
31	雲谷等額	群馬図屏風	紙本墨画淡彩	6曲1双	桃山時代 16-17世紀	山口県立美術館
32	三谷等宿	架鷹図	紙本着色	1幅	桃山～江戸時代 16-17世紀	山口県立美術館
33	三谷等宿	架鷹図	紙本着色	1幅	桃山～江戸時代 16-17世紀	山口県立美術館
第4章 人物～ユニークな神様たち						
34	県指定 雲谷等益	雪舟等楊像	絹本墨画淡彩	1幅	江戸時代 17世紀	常栄寺
35	重文 雪舟等楊	牧牛図(牧童)	紙本墨画淡彩	1幅	室町時代 15-16世紀	山口県立美術館
36	重文 雪舟等楊	牧牛図(渡河)	紙本墨画淡彩	1幅	室町時代 15-16世紀	山口県立美術館
37	雲谷等作	牧牛図	紙本墨画淡彩	1幅	江戸時代 17世紀	個人蔵
38	雪舟等楊	東帯天神図	紙本墨画淡彩	1幅	室町時代 明応2年(1493)	山口県立美術館
39	雲谷等播	東帯天神図	紙本着色	1幅	江戸時代 17-18世紀	山口県立美術館
40	雲谷等作	渡唐天神図	絹本墨画淡彩	1幅	江戸時代 17世紀	個人蔵
41	雲谷等爾	劉備・関羽図	絹本着色	双幅	江戸時代 17世紀	個人蔵
42	雲谷等爾	陳搏・布袋・杜甫図	絹本墨画淡彩	3幅対	江戸時代 17世紀	山口県立美術館
43	作者不詳(原画:雪舟等楊)	観音図	紙本墨画淡彩	1幅	不詳 原画:文明18年(1486)	山口県立美術館
44	県指定 雲溪永怡	釈迦三尊像	絹本墨画淡彩	3幅対	室町時代 16世紀	東光寺
45	雲谷等爾	寒山・拾得図	絹本墨画	双幅	江戸時代 17世紀	山口県立美術館

(5) 講演会等

■美術講座

「雪舟と雲谷派—その多彩な絵画活動」

日時：11月1日(土) 14:00～15:00

講師：福田善子(山口県立美術館専門学芸員)

会場：山口県立美術館講座室

定員：80名

■イベント

「雲谷派の屏風を露出展示！」

江戸時代の雲谷等與「耕作図屏風」をガラス越しではなく、展示室Cの畳の上に露出展示。実作品を前に、学芸員がギャラリー・トークを行った。

日時：11月3日(月・祝) 9:00～17:00

会場：山口県立美術館コレクション展示室C

■学芸員によるギャラリー・トーク

日時：会期中の毎週土曜日10:00～

■美術館ボランティアによるこどものためのギャラリー・トーク 「みんなでみよう」

日時：11月1日、8日、15日、22日(いずれも土曜日)11:00～

■託児サービス：ちびっこルーム

日時：会期中毎週木曜日 10:00～13:00(定員制・要予約)

会場：山口県立美術館講座室



屏風露出展示・ギャラリートーク

超絶技巧！明治工芸の粋 —これぞ明治のクールジャパン!!

2015（平成27）年2月21日（土）～4月12日（日） 月曜休館（ただし3月2日、4月6日は開館）

主催 山口県立美術館、朝日新聞社、yab山口朝日放送

協力 清水三年坂美術館

監修 山下裕二（明治学院大学教授）

企画協力 広瀬麻美（浅野研究所）

特別協力 山口県職業能力開発協会、エフエム山口

協賛 公益財団法人やまぐち産業振興財団、一般社団法人山口県発明協会

2015年
2月21日〔土〕
～4月12日〔日〕

特別展
超絶技巧!
これぞ明治の
クールジャパン!!

明治工芸の粋

村田コレクション一挙公開
山口県立美術館
Kogei
Superlative
craftsmanship
from Meiji Japan
<http://www.yma-web.jp/>

ポスター

2015年
2月21日〔土〕
～4月12日〔日〕

超絶技巧!
これぞ明治の
クールジャパン!!

明治工芸の粋

Kogei
Superlative
craftsmanship
from Meiji Japan

山口県立美術館

チラン表面

超絶技巧!

明治工芸の粋

山口県立美術館

チラン中面

超絶技巧! Kogei
これぞ明治のクールジャパン!!
明治工芸の粋
2015年2月21日〔土〕～4月12日〔日〕

山口県立美術館

タブロイド表面

超絶技巧! もうそれだけで
人を感動させる凄さ。

山口県立美術館

タブロイド中面

超絶技巧! Kogei
これぞ明治のクールジャパン!!
明治工芸の粋
2015年2月21日〔土〕～4月12日〔日〕

山口県立美術館

プレチラン表面

超絶技巧!

山口県立美術館

プレチラン裏面

(1) 趣旨・概要

19世紀の後半、明治政府は殖産興業政策のもと、精密華麗な工芸品を「製品」として積極的に輸出する。それらは万国博覧会などを通じて欧米で買い上げられ、いまなお海外美術市場において明治の工芸は特に高い人気を誇っている。しかしそれ故に現在でも多くが国外の美術館やコレクターのもとに伝わっており、これまで日本国内でまとまって目にする、あるいは美術史的な評価を得る機会にはほとんど恵まれてこなかった。

そこで本展では、村田理如氏がここ四半世紀ほどの間に、オークションなどを通じて主に海外より買い戻してきた、約10,000点を超える京都清水三年坂美術館所蔵の明治工芸コレクションから、選りすぐりの全163点を一堂に展示。七宝、金工、自在、漆工、牙彫、薩摩、印籠、刀装具、刺繍絵画からなる幅広いジャンルから、「明治工芸」を紹介した。会場ではこれらの特徴である精巧な技術と表現を味わうと同時に、個性的な作家たちのイメージをつかむことで、時代に翻弄されながらも各ジャンルそれぞれに技術の頂点を極めていくさまを伝えることを主眼とした。まず各ジャンルの特徴をよく表す代表的な作品を選んでプロローグとし、これらの作品を中心に、その細密さを間近で見てもらえるよう、四方から鑑賞可能な独立展示ケースを新設。以降は各ジャンルのなかで、それぞれの作家の個性が比較しやすいよう整理しながら、展示空間を構成した。

来場者の多くは、ケースに顔を近づけ、長時間かけて見入っている姿が印象的であった。また技法や所蔵者にまつわる質問も多く寄せられ、ギャラリー・トークや講演会等も盛況で、作品の鑑賞を通じた興味の高まりを感じることができた。総入館者数は32,221人。



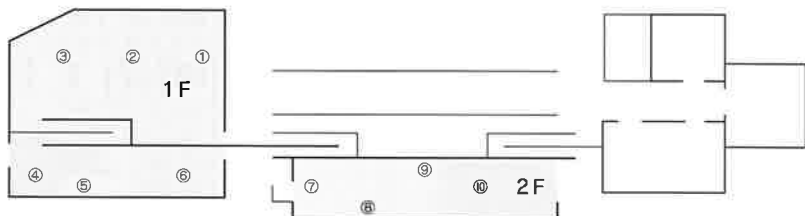
会場風景



会場風景

(2) 会場構成

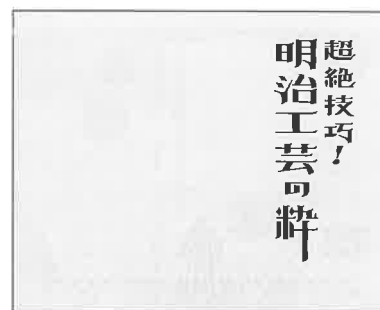
- ①プロローグ
- ②七宝
- ③金工
- ④刀装具
- ⑤木彫・牙彫
- ⑥自在
- ⑦刺繍絵画
- ⑧漆工
- ⑨印籠
- ⑩薩摩



(3) カタログ

編集 広瀬麻美、小林祐子、藤田麻希、朝山衣恵
翻訳 パメラ・ミキ・アソシエイツ
デザイン 野村勝久、坂本実央（野村デザイン制作室）
発行 浅野研究所
印刷 サンニチ印刷
内容

- 08 明治の工芸に魅せられて 村田理如
- 12 超絶技巧の逆襲－明治工芸の再評価に向けて 山下裕二
- 17 安藤緑山の牙彫－研究序説として 小林祐子



カタログ

《図版》

- 146 「染象牙果菜置物」(安藤緑山作)の観察結果 園田直子
150 安藤緑山作「染象牙果菜置物」・「染象牙貝尽し置物」の蛍光X線分析 日高真吾
154 作品解説
173 作家略歴
177 主要参考文献
183 作品リスト
* A4横判変型 (216×260mm) 188ページ

(4) 出品目録

図録番号 作者

【プロローグ】

1-01	並河靖之	桜蝶図平皿
1-16	澁川惣助	藤図花瓶
2-02	正阿弥勝義	古瓦鳩香炉
3-10	白山松哉	渦文蒔絵香合
3-21	赤塚自得	四季草花蒔絵提筆筒
4-01	錦光山	花見図花瓶
6-10	無銘	伊勢海老
7-14	安藤緑山	竹の子、梅

【七宝】

1-02	並河靖之	花鳥図飾り壺
1-03	並河靖之	花文飾り壺
1-04	並河靖之	鳥に紅葉図飾り壺
1-05	並河靖之	鳥に夾竹桃図飾り壺
1-06	並河靖之	菊花文飾り壺 二種
1-07	並河靖之	蝶図瓢形花瓶
1-08	並河靖之	蝶に竹図四方花瓶
1-09	並河靖之	蝶に花の丸唐草文花瓶
1-10	並河靖之	鳥に秋草図対花瓶
1-11	並河靖之	花鳥図花瓶
1-12	並河靖之	山水図香炉
1-13	並河靖之	草花図香炉
1-14	並河靖之	花鳥図棗
1-15	並河靖之	蝶図香合
1-17	澁川惣助	菖蒲図皿
1-18	澁川惣助	富嶽図シガレットケース
1-19	澁川惣助	月下牡丹に鳥兜図香合
1-20	安藤重兵衛	葉鶏頭図対花瓶
1-21	安藤七宝店 (林喜兵衛)	花鳥図対大花瓶
1-22	林小伝治	四季草花図花瓶
1-23	林小伝治	四季草花図花瓶
1-24	糸野締太郎	菊蝶尽し花弁形鉢
1-25	糸野締太郎	蝶尽し香合
1-26	作者不詳	波涛に龍鳳凰図香炉
1-27	錦雲軒稲葉	花鳥図香炉

【金工】

2-01	正阿弥勝義	群鶴図香炉
2-03	正阿弥勝義	鱗鳳亀龍香炉
2-04	正阿弥勝義	柘榴に蟬飾器
2-05	正阿弥勝義	鯉鮫対花瓶
2-06	正阿弥勝義	瓢箪に天道虫花瓶
2-07	正阿弥勝義	蓮葉に蛙皿
2-08	正阿弥勝義	紅葉松図香合
2-09	正阿弥勝義	蜻蛉図香合
2-10	正阿弥勝義	双鶴図香合
2-11	海野勝珉	龍虎図対花瓶
2-12	海野勝珉	花鳥図対花瓶

2-13 海野勝珉
 2-14 伝海野勝珉
 2-15 加納夏雄
 2-16 加納夏雄
 2-17 加納夏雄
 2-18 村上盛之
 2-19 鹿島一谷 二代
 2-20 川原林秀国
 2-21 駒井
 2-22 駒井

【刀装具】

5-01 正阿弥勝義
 5-02 海野勝珉
 5-03 海野勝珉
 5-04 海野勝珉
 5-05 加納夏雄
 5-06 鈴木美彦
 5-07 鈴木美彦
 5-08 鈴木美彦
 5-09 正阿弥勝義
 5-10 正阿弥勝義
 5-11 正阿弥勝義
 5-12 海野勝珉
 5-13 海野勝珉
 5-14 加納夏雄
 5-15 加納夏雄
 5-16 加納夏雄
 5-17 塚田秀鏡
 5-18 正阿弥勝義
 5-19 後藤一乗
 5-20 海野勝珉

【木彫・牙彫】

7-01 山崎南海
 7-02 無銘
 7-03 旭玉山
 7-04 旭玉山
 7-05 旭玉山
 7-06 石川光明
 7-07 石川光明
 7-08 石川光明
 7-09 石川光明
 7-10 石川光明
 7-11 高村光雲
 7-12 高村光雲
 7-13 安藤緑山
 7-15 安藤緑山
 7-16 安藤緑山
 7-17 安藤緑山
 7-18 安藤緑山
 7-19 安藤緑山
 7-20 安藤緑山
 7-21 安藤緑山
 7-22 安藤緑山
 7-23 安藤緑山
 7-24 安藤緑山
 7-25 安藤緑山

【自在】

6-01 明珍
 6-02 無銘
 6-03 高瀬好山

観音立像（厨子扉：四天王）
 蘭陵王
 滝に鳥図額
 牡丹図懐中時計
 明治旧金貨幣
 冬瓜大香炉
 花鳥図香炉
 瓜形香炉
 吉祥図飾壺
 楼閣形筆筒

日月鳥兎図目貫
 蜻蛉図目貫
 夏野菜図目貫
 閻魔図さぐり金具
 日月図目貫
 四季花鳥図揃金具のうち目貫
 四季花鳥図揃金具のうち小柄
 四季花鳥図揃金具のうち鐺
 梅月図小柄
 難波湯古歌の意鐺
 昇龍図鐺
 布袋図鐺
 三聖図鐺
 風吹蘭図鐺
 蓮池川蟬図鐺
 菖蒲図鐺
 牡丹図鐺
 蝶紋金総金具堆黒合口拵
 菊唐草文金太刀拵
 鳳凰花桐文銀装兵庫鎖太刀拵

自在海老
 自在舟慶蟹
 葛に蜘蛛の巣図文庫
 蟹芦葉図筆筒
 家鴨図文庫
 羊
 老人二童
 蓮根に蛙
 可美真手命
 仔犬図硯箱
 西王母
 法師狸
 三茄子
 竹の子、豌豆、独活
 バイナップル、バナナ
 玉蜀黍
 蜜柑
 柿
 仏手柑
 柘榴
 蕪、パセリ
 蜂の巣
 灵芝、蝸牛
 焼き栗

6-04 無銘
 6-05 高瀬好山
 6-06 高瀬好山
 6-07 富木宗好
 6-08 高瀬好山
 6-09 無銘
 6-11 明珍

【刺繍絵画】

9-01 無銘
 9-02 西村總左衛門、千總
 9-03 無銘（西村總左衛門、千總）
 9-04 西村總左衛門、千總
 9-05 無銘
 9-06 無銘
 9-07 無銘
 9-08 無銘
 9-09 無銘（飯田新七、高島屋）
 9-10 竹内栖風
 9-11 無銘

【印籠】

8-01 白山松哉
 8-02 白山松哉
 8-03 柴田是真
 8-04 柴田是真
 8-05 松杖斎
 8-06 無銘（袖田細工）
 8-07 塩見政景（袖田細工）
 8-08 無銘
 8-09 無銘
 8-10 勝守
 8-11 石黒政美
 8-12 無銘（平田七宝）

【漆工】

3-01 柴田是真
 3-02 柴田是真
 3-03 柴田是真
 3-04 柴田是真
 3-05 柴田是真
 3-06 池田泰真
 3-07 川之辺一朝
 3-08 川之辺一朝
 3-09 白山松哉
 3-11 白山松哉
 3-12 白山松哉
 3-13 白山松哉
 3-14 白山松哉
 3-15 白山松哉
 3-16 白山松哉
 3-17 白山松哉
 3-18 白山松哉
 3-19 白山松哉、守屋松亭、吉川靈華
 3-20 守屋松亭
 3-22 芝山
 3-23 無銘（芝山細工）

【薩摩】

4-02 錦光山
 4-03 錦光山
 4-04 藪明山
 4-05 藪明山
 4-06 藪明山

鶺鴒
 兜虫
 鋤形
 蜂
 端柳
 蟹
 手長海老

瀑布図
 読書図
 孔雀図屏風
 豹に鸚鵡図
 猿図
 秋景図
 獅子図
 波涛図
 雪中松鷹図
 雪中蒼鷹図
 老梅鷹図屏風

切段模様蒔絵印籠
 菊花寄蒔絵印籠
 沢瀉片喰に蝶図蒔絵印籠
 菊尽し蒔絵印籠
 郭図蒔絵印籠
 円文螺鈿印籠
 幾何学文螺鈿印籠
 菊尽し螺鈿蒔絵印籠
 蜘蛛の巣蒔絵煙草入れ形印籠
 風仙図金工印籠
 花鳥図金工精印籠
 宝尽し文七宝印籠

青海波塗棗
 桜酒瓢蒔絵香合
 宝舟蒔絵茶箱
 木目蒔絵残葉入
 秋草に包丁蒔絵きせる筒
 豆蒔絵手箱
 七香蒔絵文庫
 秋景蒔絵飾棚
 日月鳥鷺蒔絵額
 菊寄蒔絵香合
 羽蒔絵香合
 忍草蒔絵香合
 蓮蒔絵香合
 東大寺蒔絵香合
 武蔵野蒔絵棗
 渦文蒔絵きせる筒
 波千鳥蒔絵きせる筒
 勿來関蒔絵硯箱
 渦文蒔絵香合
 花鳥図大花瓶
 鐙に煙管図提筆筒

花鳥図花瓶
 蒔唐草文ティーセット
 祇園祭図花瓶
 鶴花人物図対花瓶
 蝶菊尽し茶碗

4-07	精巧山	雀蝶返し茶碗
4-08	司山	文茶碗
4-09	司山	唐子図茶碗
4-10	中村樗溪	大名行列図輪花鉢
4-11	版錦山	祭礼図鉢
4-12	陽山	浦島太郎図貝合形蓋物

*作品はすべて清水三年坂美術館蔵

(5) 講演会等

■トークイベント

「日本美術応援団 明治工芸を応援する！ in山口」

日時：3月21日(土・祝) 14:00~15:30

ゲスト：井浦新(俳優、クリエイター)、山下裕二(本展監修者、明治学院大学教授)

会場：山口県教育会館大ホール

定員：300名(先着順・要事前申込)

■入門講座

「はじめての明治工芸」

日時：3月7日(土) 14:00~15:00

講師：岡本麻美(山口県立美術館専門学芸員)

会場：山口県立美術館講座室

定員：80名(当日先着順)、聴講無料

■学芸員によるギャラリー・トーク

日時：2月28日・3月7・14・21・28日(いずれも土曜日) 10:00~(30分程度、申込不要)

■美術館ボランティアによるこどものためのギャラリー・トーク「みんなでみよう」

日時：3月の毎週土曜日 11:00~(30分程度、事前申込不要)

■託児サービス：ちびっこルーム

日時：会期中毎週木曜日 10:00~13:00(定員制・要予約)

会場：山口県立美術館講座室

■「ファーストマンデーは美術館へ！」

企画展開催中は、毎月最初の月曜日にも通常開館とするもの

3月2日(月)、4月6日(月) 9:00~17:00開館(※入館は16:30まで)

(2) 山口県美術展覧会

趣旨

「つくる・みる・ささえる」の創造的調和

制作の創造性を高めること（つくる）のみならず、美術作品を鑑賞すること（みる）や美術文化を支えていくこと（ささえる）もまた優れて創造的な行為であるとの意識を育成できるような、総合的な美術文化の普及と振興をはかる。

第67回山口県美術展覧会

2014（平成26）年3月13日（木）～3月30日（日） 月曜休館

主催 山口県

運営委員（50音順）

嘉村 靖（山口県総合企画部スポーツ・文化局 文化振興課長）

倉田研治（山口県立大学国際文化学部 講師）

白田 豊（画廊主宰）

中野良寿（美術家、山口大学教育学部 准教授）

濱本 聡（下関市立美術館 館長）

原井輝明（画家、宇部フロンティア大学短期大学部 特任准教授）

山本綾香（防府市地域交流センターアスピラート 事業係）

(1) 審査員（50音順）

水沢 勉（審査員長） 美術評論家、神奈川県立近代美術館 館長

ヤノベケンジ アーティスト、京都造形芸術大学 教授

山口裕美 アートプロデューサー



(2) 審査結果

出品点数	入選点数	入賞点数	入選・入賞合計点数	展示率（％）
469点	53点	27点	80点	17.0

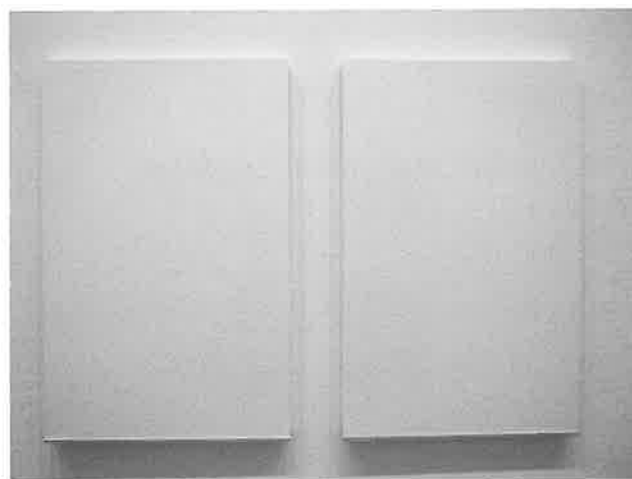
(3) 受賞者

〈大賞〉

オレ達の仕事（春と修羅）A

山本新治・TAO

光市



大賞作品 オレ達の仕事（春と修羅）A 山本新治・TAO

〈優秀賞〉

想・在

来訪ドアスコープ

mico

一瀬章雄

小川基博

松浦 孝

長崎県

防府市

福岡県

抗酸化作用 オールドール (ORDURES) 神殿	三浦ひろこ 山根秀信	山口市 山口市
〈佳作〉		
コーヒーブレーク	岩国絵画クラブ	岩国市
サバンナのお針子	牛尾 篤	山口市
ソナノアリデスカ2013	岡村邦彦	山口市
在る	小田善郎	美祿市
三角花入れ「流」	楠山泰庸	山陽小野田市
Doppel (2008-1960, Berlin Zoo)	鹿田義彦	広島県
春の光	下瀬信雄	萩市
華麗なる、忿死	白藤さえ子	神奈川県
決壊	谷本篤泉	田布施町
un thinking	田村千晶	光市
吾輩は犬である	趙 忠華	山口市
獣界両界曼荼羅	止原理美	萩市
クスの森 霊馬神	中野速美	下関市
みどりの娘たち	林 伸子	山口市
crazy-bubble 14-2	平田詩織	周防大島町
等身大の僕らに捧ぐ	藤井紀幸	山口市
青磁花器「潮流」	松尾優子	萩市
豚	宮武 裕	広島県
この道	守山幸伸	宇部市
未来へ羽ばたけ (フクロウ)	山下知己	山口市
Please eat me	祐源紘史	広島県
〈特別展示〉		
静かな日-終リナノカ、始マリナノカ	逢坂日出夫、河野文彦、田中 径	平生町

(4) ワークショップ

① 「素材を楽しむ-手作り絵の具で版画を刷る」

A ベタベタ連続 凸版で表す命の足跡 3月15日(土) 10:00~16:00

会 場：山口県立美術館講座室

講 師：榎本寿紀 (美術家)

対 象：小学校4年生以上

定 員：16名 (要申込 先着順)

参加人数：20名

B いただきます!命のコラージュ版画 3月16日(日) 10:00~16:00

会 場：山口県立美術館講座室

講 師：榎本寿紀 (美術家)

対 象：小学校4年生以上

定 員：16名 (要申込 先着順)

参加人数：18名

② 「自作を語る」

県美展入選者・入賞者によるギャラリートーク。会期中11回実施。

③ 「私のイチオシ!」

美術館ボランティアスタッフによる企画。来館者による入賞作品へのコメントを掲示。

第68回山口県美術展覧会

2014（平成26）年10月2日(木)～10月19日(日) 月曜休館
 主催 山口県

運営委員（50音順）

倉田研治（山口県立大学国際文化学部 講師）
 白田 豊（画廊主宰）
 中野良寿（美術家、山口大学教育学部 准教授、N3アトラボ代表）
 濱本 聡（下関市立美術館 館長）
 原井輝明（画家、宇部フロンティア大学短期大学部 准教授）
 山崎健司（山口県総合企画部スポーツ・文化局 文化振興課長）
 山本綾香（防府市地域交流センター アスピラート 事業係）
 若林英樹（山口県民文化ホールいわくに シンフォニア岩国 館長）



（1）審査員（50音順）

河崎晃一（審査員長） 美術家、フリーキュレーター、甲南女子大学 教授
 佐藤時啓 写真家/美術家、東京藝術大学 教授
 福永 治 広島市現代美術館 館長

（2）審査結果

出品点数	入選点数	入賞点数	入選・入賞合計点数	展示率（%）
359点	80点	33点	113点	31.5

（3）受賞者

〈大賞〉

顔遊び 1

小田善郎

美祢市



大賞作品 顔遊び 1 小田善郎

〈優秀賞〉

NINGENKOUKA/1996

芽生える

トリプルドッペルゲンガー（別府弁天池）

ももくり

食卓の上の廃墟

3の4

竹重秀治

前野法広

松田 淳

山根秀信

宇部市

光市

下関市

島根県

山口市

〈佳作〉

これから（襖バージョン）

転調の十月

ふくら雀

KAMISAMA MADE

一本の糸鉛筆

VIVA !! アンダルシア

AN ANXIETY - by spelling exercise

一瀬章雄

井上千秋

牛尾 篤

大村洋二郎

小川基博

國本ゆうじ

斉藤武男

長崎県

下関市

山口市

広島県

防府市

萩市

萩市

大地の一片「風が残したもの」	嶋本葉介	宇部市
小波	中西 正	周南市
深坂公園	花田博通	下関市
crazy-bubble 34	平田詩織	周防大島町
二匹	平田博英	岩国市
self sampling	平田博英	岩国市
出会い求めて	藤田正利	萩市
木の人（御神木）Ⅶ	増野弘己	下松市
青白磁花器「潮華」	松尾優子	萩市
『T氏のキャリア1984～2014』（レプリカ）	ミヨシイチロウ	岩国市
イヌ・ボク・カイヂユウ	村岡真樹	下関市
消えない記憶	村中 寛	岩国市
もしもし	村中 寛	岩国市
あしたなあれ	守山幸伸	宇部市
架空の臓器	山口 功	山口市
赤の乱	山口紀行	広島県
ホウヨウ	遊 洋子	光市
現実を変えることはできないけど 自分を変えることはできる	吉村大星	山口市
SADA'S DIARY	綿谷清志	下関市
REDの光・警告の赤	渡 俊一	周南市

〈特別展示〉

キセキ	山本新治・TAO	光市
-----	----------	----

（４）ワークショップ

① 「展覧会+ワタシ」

- A ピクチャーカメレオンズ 作品にとけ込むカラフルスーツ 10月4日(土) 10:00～16:00
 会 場：山口県立美術館講座室
 講 師：榎本寿紀（美術家、大分県立美術館エデュケーター）
 対 象：小学校4年生以上
 定 員：16名（要申込 先着順）
 参 加 費：無料
 参加人数：8名
- B ザ・インスタント・インスタレーション ～いま、ここで 10月5日(日) 10:00～16:00
 会 場：山口県立美術館講座室
 講 師：榎本寿紀（美術家、大分県立美術館エデュケーター）
 対 象：小学校4年生以上
 定 員：16名（要申込 先着順）
 参 加 費：無料
 参加人数：12名

② 「自作を語る」

県美展入選者・入賞者によるギャラリートーク。会期中8回実施。

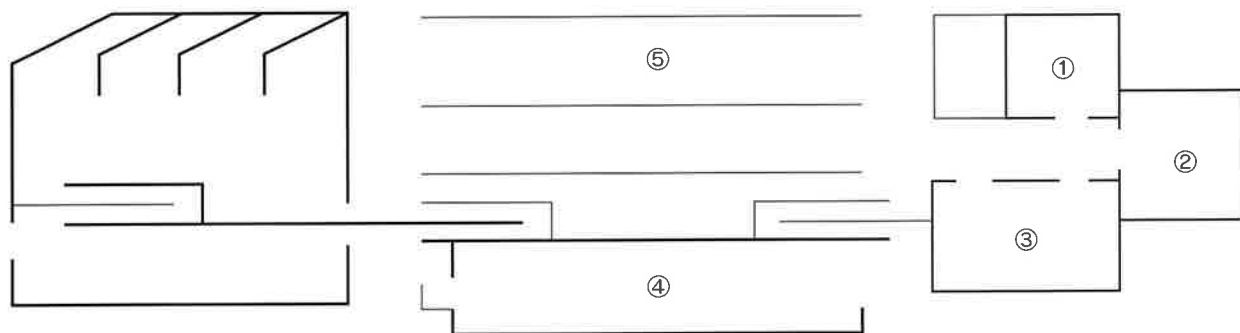
③ 「私のイチオシ！」

美術館ボランティアスタッフによる企画。来館者による入賞作品へのコメントを掲示。

(3) コレクション展

館藏品（寄託品、借用作品を含む場合もある）の常時公開の場として常設展示室を設け、テーマを設定して館藏品を紹介。平成20年度（2008）に、それまでの「常設展」から「コレクション展」に名称を変更。「いつでも見ることのできる展覧会」（＝常設）というイメージを払拭し、「企画性の高い収藏品展」というイメージを醸成することで、入場者数増を狙った。

また、毎週土曜日には展示室にて作品解説を実施し、月1回は展示作品を中心とした美術入門講座を実施し、作品のわかりやすい紹介に努めた。

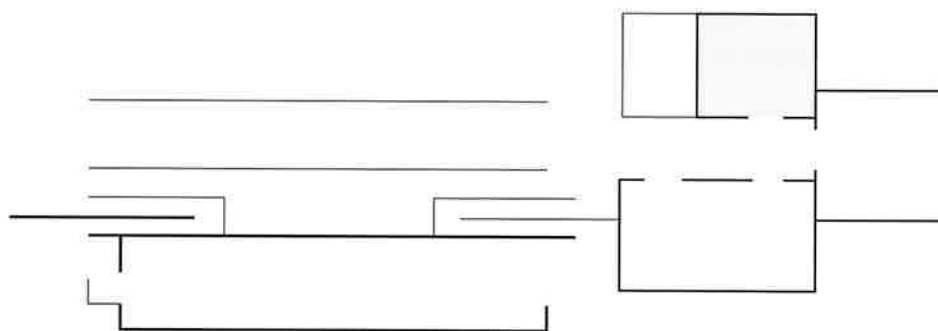


展示室A・B・C（常設展示室Ⅰ）（①～③）	462.309㎡
展示室D（常設展示室Ⅱ）（④）	471.825㎡
野外展示場Ⅲ（⑤）	1,370.000㎡

* 凡例

以下のコレクション展示記録は、2013年度、2014年度のそれぞれについて展示室毎に整理し、原則として、名称・会期・展示趣旨概要・出品作品リストの順に記載した。

平成25年度
展示室A



白と黒の世界 平成25年（2013）4月11日～6月2日

「白黒をつける」「白星」「黒星」。白黒では割り切れないこの世の中、その微妙なところに味わいがあることは美術も同じ。限られた色彩から生まれる大人の味わいの世界を紹介。

番号	作品	作者	制作年	素材
1	風船を持つ自像	植田正治	1961	ゼラチン・シルヴァープリント
2	パパとママと子供たち	植田正治	1949	ゼラチン・シルヴァープリント
3	子狐登場	植田正治	1948	ゼラチン・シルヴァープリント
4	砂丘にて	植田正治	1961	ゼラチン・シルヴァープリント
5	子供たちの祭	植田正治		ゼラチン・シルヴァープリント
6	ノコ	殿敷侃		エッチング・紙
7	クシ	殿敷侃	1981頃	エッチング・紙
8	石版画集〈裸婦〉より「裸婦1」	香月泰男	1971	石版・紙
9	石版画集〈裸婦〉より「裸婦4」	香月泰男	1971	石版・紙
10	石版画集〈裸婦〉より「裸婦5」	香月泰男	1971	石版・紙
11	石版画集〈裸婦〉より「裸婦6」	香月泰男	1971	石版・紙
12	〈動物シリーズ石版画集Ⅱ〉より「針ねずみ」	香月泰男	1970	石版・紙
13	〈動物シリーズ石版画集Ⅱ〉より「みどりちうはし」	香月泰男	1970	石版・紙
14	西瓜	中本達也	1960	銅版・紙
15	少女	中本達也	1960	銅版・紙
16	網	中本達也	1960	銅版・紙
17	潮	中本達也	1960	銅版・紙
18	春	中本達也	1962	銅版・紙
19	鳥の巣	中本達也	1961	銅版・紙
20	三島由紀夫『豊饒の海』 カット	中本達也	1968	墨、コラージュ・紙
21	三島由紀夫『豊饒の海』 カット	中本達也	1968	墨・紙
22	三島由紀夫『豊饒の海』 カット	中本達也	1968	墨・紙
23	黒と白A	椿義則	1983	油彩・カンヴァス

「小ささ」のかたちと意味 平成25年（2013）6月4日～8月4日

小さいサイズであることは、作家が自らそのサイズを選択したり、それ以外のサイズが無いなどの限定的な条件であったりとさまざまな要因が考えられる。その「小ささ」のなかに、込められるだけのもの、込められるべきものが過不足無く表現された作品からは、大作とはちがった緻密に凝縮されたかたちの力を感じることができる。本展示では小さな作品ならではの世界を紹介した。

番号	作品	作者	制作年	素材
1	都市の軌跡	柳沢信	1965	ゼラチン・シルヴァープリント
2	東京人	高梨豊	1964-65	ゼラチン・シルヴァープリント
3	森の道の子ども	ウィン・バロック	1958	ゼラチン・シルヴァープリント
4	ロッジボール・パインズ、マセード川支流ライエル川、ヨセミテ国立公園、カリフォルニア	アンセル・アダムス	1921	ゼラチン・シルヴァープリント
5	センチメンタルな旅	荒木経惟	1971	ゼラチン・シルヴァープリント
6	婆バクハツ！	内藤正敏	1970	ゼラチン・シルヴァープリント
7	洋子	深瀬昌久	1964-76	ゼラチン・シルヴァープリント
8	とまと	香月泰男		油彩・カンヴァス
9	雲丹	香月泰男		油彩・カンヴァス
10	フルーツを吹く人	松田正平	1985	油彩・カンヴァス
11	人	中本達也	1967	油彩・カンヴァス
12	婦人の顔	青山熊治		油彩・カンヴァス
13	ノートルダム	林武		油彩・カンヴァス
14	少年像	永地秀太		油彩・カンヴァス
15	少女像	永地秀太		油彩・カンヴァス
16	潮	中本達也	1960	銅版・紙
17	さかな	中本達也	1959	銅版・紙
18	夏の花	中本達也	1961	銅版・紙
19	小さな花	中本達也	1960	銅版・紙
20	黒土	中本達也	1960	銅版・紙
21	海鳥	中本達也	1960	銅版・紙
22	鳥	中本達也	1959	銅版・紙
23	化石（葉）	中本達也	1961	銅版・紙
24	南の実	中本達也	1961	銅版・紙

25	作品	中本達也	1960	銅版・紙
26	青い実	中本達也	1960	銅版・紙
27	ザクロ	中本達也	1960	銅版・紙
28	霧島山韓国橋	小林和作		水彩・紙
29	戸隠山中	小林和作		水彩・紙
30	八ヶ岳山中	小林和作		水彩・紙
31	八ヶ岳	小林和作		水彩・紙
32	宇野	小林和作		水彩・紙
33	桜島	小林和作		水彩・紙
34	穴掘人	香月泰男		インク・紙
35	穴掘人	香月泰男		インク・紙
36	避難民	香月泰男		鉛筆・紙

東松照明と戦後日本写真 平成25年（2013）8月6日～9月29日

敗戦後の社会をありのままに撮しとること。「リアリズム写真」といわれるムーブメントによって始まった戦後日本の写真は、福島菊次郎、常盤とよ子、川田喜久治といった若い才能を次々と生み出した。東松照明もまた、そうした写真家のひとり。本展では、原爆のその後を見据えた『(11時02分) NAGASAKI』(1961)や、沖縄を撮った『太陽の鉛筆』(1975)等、東松の代表作を軸に「戦後写真」の軌跡を紹介した。

番号	作品	作者	制作年	素材
1	<長崎>岩屋山を遠望する浦上地区	東松照明	1961	ゼラチン・シルヴァープリント
2	<長崎>0.6km地点 爆風により崩壊した浦上天主堂の天使像 『(11時02分) NAGASAKI』より	東松照明	1961	ゼラチン・シルヴァープリント
3	<長崎>山口仙二さん (1.2km地点で被爆) 『(11時02分) NAGASAKI』より	東松照明	1962	ゼラチン・シルヴァープリント
4	<長崎>熱線と火災で表面が変質した火鉢 『(11時02分) NAGASAKI』より	東松照明	1961	ゼラチン・シルヴァープリント
5	<長崎>爆心地から0.7kmの上野町から掘り出された腕時計 『(11時02分) NAGASAKI』より	東松照明	1961	ゼラチン・シルヴァープリント
6	<長崎>熱線とその後の火災で溶解変形した瓶 『(11時02分) NAGASAKI』より	東松照明	1962	ゼラチン・シルヴァープリント
7	<長崎>福田須磨子さん (1.7km地点で被爆 父母と姉が死亡) 『(11時02分) NAGASAKI』より	東松照明	1962	ゼラチン・シルヴァープリント
8	<長崎>浦川志津香さん (1957年悪性眼球腫瘍の手術を受ける) 『(11時02分) NAGASAKI』より	東松照明	1961	ゼラチン・シルヴァープリント
9	<長崎>片岡津代さん (1.4km地点で被爆 肉親13人が死亡)	東松照明	1961-63	ゼラチン・シルヴァープリント
10	<長崎>五島列島 福江島	東松照明	1963	ゼラチン・シルヴァープリント
11	伊勢湾台風 名古屋『水害と日本人』より	東松照明	1959	ゼラチン・シルヴァープリント
12	伊勢湾台風 名古屋『水害と日本人』より	東松照明	1959	ゼラチン・シルヴァープリント
13	掛す 名古屋『水害と日本人』より	東松照明	1959	ゼラチン・シルヴァープリント
14	煙草をくゆらす浮浪児 上野	林忠彦	1946	ゼラチン・シルヴァープリント
15	引き揚げ 上野駅	林忠彦	1946	ゼラチン・シルヴァープリント
16	青空楽団『浅草にて』より	金井精一	1950	ゼラチン・シルヴァープリント
17	ロック座うら『浅草にて』より	金井精一	1950	ゼラチン・シルヴァープリント
18	真金町診療所	常盤とよ子	1959-60	ゼラチン・シルヴァープリント
19	巷の女	常盤とよ子	1955頃	ゼラチン・シルヴァープリント
20	家 熊本・天草下島	東松照明	1959	ゼラチン・シルヴァープリント
21	家 熊本・天草下島	東松照明	1959	ゼラチン・シルヴァープリント
22	家 熊本・天草下島	東松照明	1959	ゼラチン・シルヴァープリント
23	家 熊本・天草下島	東松照明	1959	ゼラチン・シルヴァープリント
24	家 熊本・天草下島	東松照明	1959	ゼラチン・シルヴァープリント
25	家 熊本・天草下島	東松照明	1959	ゼラチン・シルヴァープリント
26	家 熊本・天草下島	東松照明	1959	ゼラチン・シルヴァープリント
27	敗戦の記憶 愛知・豊川海軍工廠跡	東松照明	1959	ゼラチン・シルヴァープリント
28	アスファルト 東京	東松照明	1960	ゼラチン・シルヴァープリント
29	アスファルト 東京	東松照明	1960	ゼラチン・シルヴァープリント
30	風景	東松照明	1960-61	ゼラチン・シルヴァープリント
31	母と子 秋田 大曲内小友	木村伊兵衛	1959	ゼラチン・シルヴァープリント
32	若い人 秋田 大曲内小友	木村伊兵衛	1958	ゼラチン・シルヴァープリント
33	悶絶した父親	福島菊次郎	1960	ゼラチン・シルヴァープリント
34	発作 『ピカドン』より	福島菊次郎	1960	ゼラチン・シルヴァープリント
35	27歳になった蓉子 『ピカドン』より	福島菊次郎	1969	ゼラチン・シルヴァープリント
36	沖縄 波照間島 『太陽の鉛筆』より	東松照明	1971	ゼラチン・シルヴァープリント
37	沖縄 宮古島 『太陽の鉛筆』より	東松照明	1971	ゼラチン・シルヴァープリント
38	沖縄 波照間島 『太陽の鉛筆』より	東松照明	1971	ゼラチン・シルヴァープリント
39	沖縄 宮古島 『太陽の鉛筆』より	東松照明	1971	ゼラチン・シルヴァープリント
40	沖縄 宮古島 『太陽の鉛筆』より	東松照明	1973	ゼラチン・シルヴァープリント
41	沖縄 新城島 『太陽の鉛筆』より	東松照明	1972	ゼラチン・シルヴァープリント
42	沖縄 池間島 『太陽の鉛筆』より	東松照明	1973	ゼラチン・シルヴァープリント
43	沖縄 渡嘉敷島 『太陽の鉛筆』より	東松照明	1972	ゼラチン・シルヴァープリント
44	沖縄 西表島 『太陽の鉛筆』より	東松照明	1972	ゼラチン・シルヴァープリント
45	沖縄 西表島 『太陽の鉛筆』より	東松照明	1972	ゼラチン・シルヴァープリント
46	沖縄 波照間島 『太陽の鉛筆』より	東松照明	1971	ゼラチン・シルヴァープリント
47	沖縄 西表島 『太陽の鉛筆』より	東松照明	1972	ゼラチン・シルヴァープリント
48	沖縄 大神島 『太陽の鉛筆』より	東松照明	1969	ゼラチン・シルヴァープリント
49	沖縄 宮古島 『太陽の鉛筆』より	東松照明	1973	ゼラチン・シルヴァープリント
50	沖縄 新城島 『太陽の鉛筆』より	東松照明	1972	ゼラチン・シルヴァープリント
51	沖縄 西表島 『太陽の鉛筆』より	東松照明	1973	ゼラチン・シルヴァープリント
52	沖縄 波照間島 『太陽の鉛筆』より	東松照明	1971	ゼラチン・シルヴァープリント
53	沖縄 宮古島 『太陽の鉛筆』より	東松照明	1973	ゼラチン・シルヴァープリント
54	沖縄 野市島 『太陽の鉛筆』より	東松照明	1972	ゼラチン・シルヴァープリント
55	沖縄 伊良部島 『太陽の鉛筆』より	東松照明	1973	ゼラチン・シルヴァープリント
56	ラッキーストライク 『地図』より	川田喜久治	1962	ゼラチン・シルヴァープリント
57	日の丸 『地図』より	川田喜久治	1960	ゼラチン・シルヴァープリント
58	被爆者の腕 『地図』より	川田喜久治	1959-61	ゼラチン・シルヴァープリント
59	原爆ドーム 太陽 『地図』より	川田喜久治	1959-60	ゼラチン・シルヴァープリント

スピリチュアルな世界 平成25年(2013)10月1日~12月1日

古代より、「何かを表現する」という行動へと人間を突き動かす源の一つは、神々への祈りだった。人智を超えるものへの憧憬、祈りをテーマにした作品を紹介した。

番号	作品	作者	制作年	素材
1	誕生	桂ゆき	1985	木、布、紙
2	寛斎仙人図巻写	森雄山	1882	紙本墨画
3	アニトラの踊り	フランク・アサキチ・クニシゲ	1921	ゴム印画法
4	ハマドリユアス	フランク・アサキチ・クニシゲ	1924頃	ゴム印画法
5	森の中の子ども	ウィン・パロック	1951	ゼラチン・シルヴァープリント
6	森の中の女と犬	ウィン・パロック	1953	ゼラチン・シルヴァープリント
7	大威徳明王	松田正平	1976	油彩・カンヴァス
8	大威徳明王	松田正平	1975	油彩・カンヴァス
9	婆バクハツ!	内藤正敏	1970	ゼラチン・シルヴァープリント
10	婆バクハツ!	内藤正敏	1970	ゼラチン・シルヴァープリント
11	婆バクハツ!	内藤正敏	1970	ゼラチン・シルヴァープリント
12	婆バクハツ!	内藤正敏	1970	ゼラチン・シルヴァープリント
13	婆バクハツ!	内藤正敏	1970	ゼラチン・シルヴァープリント
14	婆バクハツ!	内藤正敏	1970	ゼラチン・シルヴァープリント
15	婆バクハツ!	内藤正敏	1970	ゼラチン・シルヴァープリント
16	教会	香月泰男	1973	木版・紙
17	聖痕を授かるアッシージの聖フランチェスコ	長谷川三郎	1931	油彩・カンヴァス
18	ロードスの修道院	香月泰男	1972	石版・紙
19	『ある日ある所』より 教会の窓	石本泰博	1950-51	ゼラチン・シルヴァープリント
20	『ある日ある所』より 教会の窓	石本泰博	1950-51	ゼラチン・シルヴァープリント
21	『風姿花伝』より 秋田西馬音内 盆踊り 1976年8月18日	須田一政	1976	ゼラチン・シルヴァープリント
22	『風姿花伝』より 秋田西馬音内 盆踊り 1976年8月18日	須田一政	1976	ゼラチン・シルヴァープリント
23	『風姿花伝』より 埼玉秩父 夜祭り 1975年12月3日	須田一政	1975	ゼラチン・シルヴァープリント
24	『風姿花伝』より 岐阜郡上八幡 1975年8月13日	須田一政	1975	ゼラチン・シルヴァープリント
25	おどり	高畑郁子	1958	紙本着色

福田勝治のモダニズム 平成25年(2013)12月3日~平成26年(2014)1月26日

本展では、戦前、戦後の女性写真、ヌード写真、静物写真等、福田勝治の代表作約50点を展示。写真とは「白と黒の美しい心地よい配列」による芸術であると宣言する福田勝治ならではのモダニズム美学を紹介した。

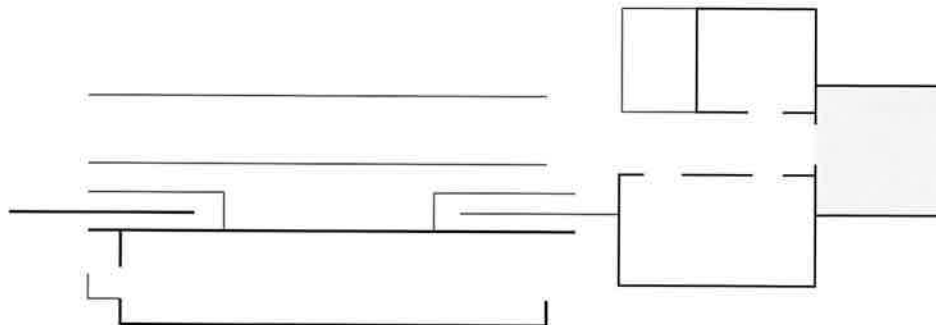
番号	作品	作者	制作年	素材
1	静物	福田勝治	1925	ゼラチン・シルヴァープリント
2	静物	福田勝治	1925頃	ゼラチン・シルヴァープリント
3	卵の静物	福田勝治	1939	ゼラチン・シルヴァープリント
4	ゴム手袋と卵の静物	福田勝治	1933	ゼラチン・シルヴァープリント
5	静物：蛙の鳴くころ	福田勝治	1936	ゼラチン・シルヴァープリント
6	静物	福田勝治	1939	ゼラチン・シルヴァープリント
7	白紙	福田勝治	1952	ゼラチン・シルヴァープリント
8	おとめ	福田勝治	1952	ゼラチン・シルヴァープリント
9	静物	福田勝治	1952	ゼラチン・シルヴァープリント
10	太陽光	福田勝治	1952頃	ゼラチン・シルヴァープリント
11	静物	福田勝治	1952頃	ゼラチン・シルヴァープリント
12	犬と静物(影のエチュード)	福田勝治	1954	ゼラチン・シルヴァープリント
13	静物	福田勝治	1954頃	ゼラチン・シルヴァープリント
14	姿	福田勝治	1934	ゼラチン・シルヴァープリント
15	宇野千代	福田勝治	1935	ゼラチン・シルヴァープリント
16	夏姿・深川娘	福田勝治	1936	ゼラチン・シルヴァープリント
17	春の微風	福田勝治	1937頃	ゼラチン・シルヴァープリント
18	黒髪	福田勝治	1938	ゼラチン・シルヴァープリント
19	東洋平和への出発	福田勝治	1938	ゼラチン・シルヴァープリント
20	心の小窓(藤田泰子)	福田勝治	1949	ゼラチン・シルヴァープリント
21	佐藤美子	福田勝治	1952頃	ゼラチン・シルヴァープリント
22	影	福田勝治	1954頃	ゼラチン・シルヴァープリント
23	乳房	福田勝治	1937	ゼラチン・シルヴァープリント
24	乳房	福田勝治	1937	ゼラチン・シルヴァープリント
25	乳房	福田勝治	1937	ゼラチン・シルヴァープリント
26	裸婦	福田勝治	1946	ゼラチン・シルヴァープリント
27	裸婦	福田勝治	1946	ゼラチン・シルヴァープリント
28	無題	福田勝治	1951	ゼラチン・シルヴァープリント
29	ぐみの実は甘くてすっぱいよ	福田勝治	1946	ゼラチン・シルヴァープリント
30	光の具設	福田勝治	1949	ゼラチン・シルヴァープリント
31	イタリア紀行：三人の修道尼	福田勝治	1955	ゼラチン・シルヴァープリント
32	イタリア紀行：船をあげて	福田勝治	1955	ゼラチン・シルヴァープリント
33	イタリア紀行：夜のサン・マルコ聖堂	福田勝治	1955	ゼラチン・シルヴァープリント
34	イタリア紀行	福田勝治	1955	ゼラチン・シルヴァープリント
35	イタリア紀行：サンタ・クロチェの鐘楼	福田勝治	1955	ゼラチン・シルヴァープリント
36	イタリア紀行：カステル・マダマにて	福田勝治	1955	ゼラチン・シルヴァープリント
37	イタリア紀行：カプリ島の居酒屋	福田勝治	1955	ゼラチン・シルヴァープリント
38	イタリア紀行：船も限りに	福田勝治	1955	ゼラチン・シルヴァープリント
39	京都：三十三間堂	福田勝治		ゼラチン・シルヴァープリント
40	京都：扇商の店頭	福田勝治	1979	ゼラチン・シルヴァープリント
41	京都：竜安寺 石庭	福田勝治	1957	ゼラチン・シルヴァープリント

牛腸茂雄 SELF AND OTHERS 平成26年（2014）1月28日～4月13日

1977年に発表された写真集『SELF AND OTHERS』によって注目を集めた牛腸茂雄。わずか34歳で夭折した牛腸は、等身大の自分（SELF）と他者（OTHERS）との関係を独特のナイーブな感性で表現した。被写体に注がれる牛腸のプライベートな視線と、レンズを見つめる彼らの眼差しが交差する空間。そこに漂う親密な空気は不思議な魅力をたたえている。この展示では、60点からなる同シリーズを全点展示した。

番号	作品	作者	制作年	素材
1～60	《SELF AND OTHERS》	牛腸茂雄	1977	ゼラチン・シルヴァープリント

展示室B



修復完了記念年間企画 全57点公開 香月泰男のシベリア・シリーズⅠ

香月が見た戦争 平成25年（2013）4月11日～6月2日

香月泰男が体験した順番に沿ってシベリア・シリーズを紹介。第1回の展示では、故郷を離れ、戦場に赴いた香月が見た戦争とはどのようなものだったのか、応召から大陸での戦争体験を描いた作品10点を展示した。

番号	作品	作者	制作年	素材
1	雲	香月泰男	1968	油彩・カンヴァス
2	黒い太陽	香月泰男	1961	油彩・カンヴァス
3	雨	香月泰男	1968	油彩・カンヴァス
4	朝陽	香月泰男	1965	油彩・カンヴァス
5	ホロンバイル	香月泰男	1960	油彩・カンヴァス
6	雨（牛）	香月泰男	1947	油彩・カンヴァス
7	煙	香月泰男	1969	油彩・カンヴァス
8	海拉爾	香月泰男	1972	油彩・カンヴァス
9	道	香月泰男	1972	油彩・カンヴァス
10	鷹	香月泰男	1958	油彩・カンヴァス

修復完了記念年間企画 全57点公開 香月泰男のシベリア・シリーズⅡ

終戦—抑留生活のはじまり 平成25年（2013）6月4日～8月4日

終戦直後、ソ連軍によって貨車に押し込められた香月たち日本兵。行く先も告げられぬまま、帰国の望みを胸に抱いて窓の外を眺める日々が過ぎていく。やがて列車が北へ、そして西へと向かっていることがわかったとき、一縷の希望は絶たれた。

番号	作品	作者	制作年	素材
1	避難民	香月泰男	1960	油彩・カンヴァス
2	奉天（右）	香月泰男	1970	油彩・カンヴァス
3	奉天（左）	香月泰男	1970	油彩・カンヴァス
4	1945	香月泰男	1959	油彩・カンヴァス
5	北へ西へ	香月泰男	1959	油彩・カンヴァス
6	凍土	香月泰男	1965	油彩・カンヴァス
7	湿地	香月泰男	1961	油彩・カンヴァス
8	アムール	香月泰男	1962	油彩・カンヴァス
9	運ぶ人	香月泰男	1960	油彩・カンヴァス
10	乗客	香月泰男	1957	油彩・カンヴァス

修復完了記念年間企画 全57点公開 香月泰男のシベリア・シリーズⅢ

シベリアの冬—セーヤ収容所 平成25年（2013）8月6日～9月29日

シベリアでの初めての冬を過ごしたセーヤ収容所。過酷な労働と劣悪な生活環境によって、わずか数ヶ月のうちに何人もの同胞が命を失った。空腹と疲労、不安と絶望のなかで香月を支えたのは、家族のもとへ生きて帰るという強い思いと、過酷な状況のなかにあっても持ちつづけた“画家の目”だった。

番号	作品	作者	制作年	素材
1	鋸	香月泰男	1964	油彩・カンヴァス
2	伐	香月泰男	1964	油彩・カンヴァス
3	雪山	香月泰男	1972	油彩・カンヴァス
4	神農	香月泰男	1964	油彩・カンヴァス
5	埋葬	香月泰男	1948	油彩・カンヴァス
6	涅槃	香月泰男	1960	油彩・カンヴァス
7	雪	香月泰男	1963	油彩・カンヴァス
8	海（ペーチカ）冬	香月泰男	1966	油彩、紙・カンヴァス
9	雪（窓）	香月泰男	1963	油彩・カンヴァス
10	列	香月泰男	1961	油彩・カンヴァス

修復完了記念年間企画 全57点公開 香月泰男のシベリア・シリーズⅣ

郷愁—チェルノゴルスク収容所 平成25年（2013）10月1日～12月1日

シベリアで最も長い期間を過ごしたチェルノゴルスク収容所では生活環境が改善され、強制労働もセーヤ収容所に比べれば軽いものだった。空いた時間に香月は、絵画のテーマを漢字1文字で記号化し絵の具箱の裏蓋に書き込んでいく。いつの日か、生きて帰国できれば描きたいという思いは、郷愁となって香月の胸に降り積もっていった。

番号	作品	作者	制作年	素材
1	荊	香月泰男	1965	油彩・カンヴァス
2	餓	香月泰男	1964	油彩・カンヴァス
3	囚	香月泰男	1965	油彩・カンヴァス
4	左官	香月泰男	1956	油彩・カンヴァス
5	-35°	香月泰男	1971	油彩・カンヴァス
6	穴掘人	香月泰男	1960	油彩・カンヴァス
7	凍河〈エニセイ〉	香月泰男	1966	油彩・カンヴァス
8	星〈有刺鉄線〉夏	香月泰男	1966	油彩・カンヴァス
9	ダモイ	香月泰男	1959	油彩・カンヴァス

修復完了記念年間企画 全57点公開 香月泰男のシベリア・シリーズⅤ

日本海をめざして 平成25年（2013）12月3日～平成26年（2014）1月26日

ある日突然届いた「ダモイ(帰国)」の知らせ。香月たちは日本海をめざして東へ向かった。最後の点呼を受け、引揚船に乗船しても、船が港を離れるまで不安は消えなかった。やがて船は日本海をわたり、舞鶴の港に接岸。揺れるタラップを踏みしめて祖国の地を踏んだとき、抑留生活はようやく終わりを告げた。

番号	作品	作者	制作年	素材
1	バイカル	香月泰男	1971	油彩・カンヴァス
2	ナホトカ	香月泰男	1961	油彩・カンヴァス
3	日本海	香月泰男	1972	油彩・カンヴァス
4	絵具箱	香月泰男	1972	油彩・カンヴァス
5	渚〈ナホトカ〉	香月泰男	1974	油彩・カンヴァス
6	デモ	香月泰男	1973	油彩・カンヴァス
7	点呼（右）	香月泰男	1971	油彩・カンヴァス
8	点呼（左）	香月泰男	1971	油彩・カンヴァス
9	復員〈タラップ〉	香月泰男	1967	油彩・カンヴァス

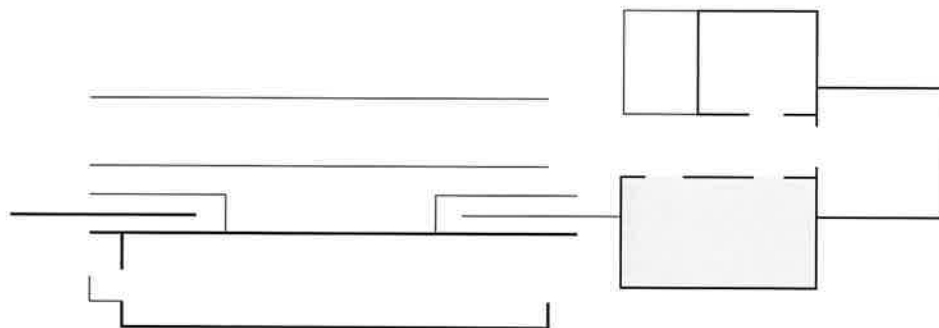
修復完了記念年間企画 全57点公開 香月泰男のシベリア・シリーズⅥ

〈私の〉シベリア 平成26年（2014）1月28日～4月13日

4年半ぶりに帰国した香月は、その後旺盛な創作活動を展開。帰国後の香月の生活は公私ともに順調なものだったが、心に深く刻み込まれたシベリアの記憶が消えることはなかった。戦争とシベリア抑留の体験を27年の歳月をかけて反響しつづけた香月泰男。彼の「シベリア」は帰国したその時にはじまったといえるのかもしれない。

番号	作品	作者	制作年	素材
1	別	香月泰男	1967	油彩・カンヴァス
2	青の太陽	香月泰男	1969	油彩・カンヴァス
3	護	香月泰男	1969	油彩・カンヴァス
4	朕	香月泰男	1970	油彩・カンヴァス
5	業火	香月泰男	1970	油彩・カンヴァス
6	私〈マホルカ〉	香月泰男	1966	油彩・カンヴァス
7	日の出	香月泰男	1974	油彩・カンヴァス
8	月の出	香月泰男	1974	油彩・カンヴァス
9	〈私の〉地球	香月泰男	1968	油彩・カンヴァス

展示室C



雪舟と雲谷派1 長州雪舟流開祖 雲谷等顔 平成25年（2013）4月11日～5月6日

毛利輝元から国宝「山水長巻」と雪舟の旧居・雲谷軒を拝領して雲谷派（長州雪舟流）の祖となった雲谷等顔は、墨色の濃淡が生み出す微妙な美しさを深く追求した画家。この展示では等顔の水墨画とともに、等顔の現存する唯一の頂相「惟松円融像」を紹介した。

番号	作品	作者	制作年	素材	備考
1	山水図屏風	雲谷等顔	桃山時代	紙本墨画淡彩	
2	群馬図屏風	雲谷等顔	江戸時代17世紀初頭	紙本墨画淡彩	
3	惟松円融像	雲谷等顔	江戸時代17世紀初頭	絹本着色	寄託品
4	瀬嶺根芋図	雲谷等顔	江戸時代17世紀初頭	紙本墨画	
5	臨済裁松図	雲谷等顔	江戸時代17世紀初頭	紙本墨画	
6	澁墨山水図	雲谷等顔	江戸時代17世紀初頭	紙本墨画	
7	澁墨山水図	雲谷等顔	江戸時代17世紀初頭	紙本墨画	寄託品

色でみる日本美術 平成25年（2013）5月8日～6月2日

緑青、群青、代赭、金銀…日本絵画に用いられる美しい色の多くは、鉱石や草木など、天然の素材を絵の具としたもの。本展示では「色」を主役に、色づかいの工夫や繊細な質感と輝き、また光によって驚くほど変化する色合いに注目し、ゆたかな日本美術の色の世界を紹介した。

番号	作品	作者	制作年	素材	備考
1	花鳥図屏風	雲谷等鶴	江戸時代18世紀前半	紙本金地着色	
4	春秋山水図屏風	高島北海	昭和3年（1928）	紙本金地着色	
2	白鷹図	曾我直庵	江戸時代16世紀後半～17世紀初頭	紙本着色	
3	雪景山水図	林百非	江戸時代19世紀	紙本墨画	寄託品
5	孔雀図	朝倉南陵	文政11年（1828）	絹本着色	
6	高士観蓮図	小田海恠	嘉永7年（1854）	絹本着色	
7	山水図	雲谷等鶴	江戸時代18世紀前半	絹本墨画淡彩	寄託品

雪舟と雲谷派2 雪舟四代 雲谷等益 平成25年（2013）6月4日～7月7日

江戸初期の画家のトップランナーの1人で、雪舟を継ぐ雲谷派の二代目、雲谷等益の作品をメインに、水墨画のえがき方にスポットを当て、その魅力を紹介した。

番号	作品	作者	制作年	素材	備考
1	瀟湘八景図屏風	雲谷等益	江戸時代17世紀前半	紙本墨画淡彩金泥	
2	山水図	雲谷等益	江戸時代17世紀前半	紙本墨画淡彩	「林和靖・山水図」三幅のうち右幅
3	澁墨山水図	雲谷等益	江戸時代17世紀前半	紙本墨画	「澁墨山水図」双幅のうち左幅
4	林和靖図	雲谷等益	江戸時代17世紀前半	紙本墨画淡彩	「林和靖・山水図」三幅のうち中幅
5	瀬嶺根芋図	雲谷等益	江戸時代17世紀前半	紙本墨画	
6	五位鷲図	雲谷等顔	江戸時代16世紀末～17世紀初頭	紙本墨画	
7	梅雀図	雲谷等益	江戸時代17世紀前半	紙本墨画	
8	琴棋書画図屏風	雲谷等益	江戸時代17世紀前半	紙本着色	

雪舟と雲谷派3 兄弟画家 等與と等爾 平成25年（2013）7月9日～8月4日

兄・等與と弟・等爾は、雲谷派の第3世代にあたる画家。彼らは共に父である雲谷等益の画風を忠実に学びながらも、それぞれの異なる個性を加えた魅力ある作品を残した。2人の作品を「兄弟対決」させる形で紹介した。

番号	作品	作者	制作年	素材	備考
1	群鶴図屏風	雲谷等與	江戸時代17世紀	紙本金地着色	
2	龍虎図屏風	雲谷等爾	江戸時代17世紀	紙本墨画	寄託品
3	白鷹図	雲谷等與	江戸時代17世紀	絹本着色	寄託品
4	叭々鳥図	雲谷等爾	江戸時代17世紀	紙本墨画	
5	遠厩図	雲谷等與	江戸時代17世紀	紙本墨画淡彩	
6	対月図	雲谷等爾	江戸時代17世紀	紙本墨画淡彩	
7	布袋図	雲谷等與	江戸時代17世紀	紙本墨画	
8	布袋図	雲谷等爾	江戸時代17世紀	絹本墨画	「陳搏・布袋・杜甫図」三幅のうち右幅

雪舟と雲谷派4 元禄時代の雪舟流 平成25年（2013）8月6日～9月1日

元禄時代（1688-1704）。町人文化が華開き、美術界でも新たなモードが生み出された時代であって、新たな画風を模索しようと雪舟に向かい合った雲谷派の画家たちの作品を紹介した。

番号	作品	作者	制作年	素材	備考
1	山水図屏風	雲谷等瑠	江戸時代17～18世紀	紙本墨画	
2	牡丹図屏風	雲谷等恕	江戸時代17～18世紀	紙本金地着色	寄託品
3	人物花鳥図貼交屏風	雲谷派	江戸時代17～18世紀	絹本着色	
4	布袋図	雲谷等鶴	江戸時代17～18世紀	絹本墨画淡彩	寄託品
5	遊園	雲谷等列	江戸時代18世紀	絹本墨画	
6	虎図	雲谷等瑠	江戸時代17～18世紀	絹本墨画	

南画のころ 平成25年（2013）9月3日～9月29日

江戸時代の半ば以降、中国・清代の新しい山水画風を学んだ日本の画家たちによって、これまでになかった様式の山水画「南画」が描かれるようになり、その流行は19世紀に頂点に達する。本展示では、山口の文人画家の作品を中心に、自由な筆使いを特徴とする南画の魅力を紹介した。

番号	作品	作者	制作年	素材	備考
1	山水図屏風	森寛斎	江戸時代 1868年	紙本墨画淡彩	
2	春秋山水図屏風	高島北海	江戸時代 1828年	紙本金地墨画淡彩	
3	夏山草堂図	小田海徳	江戸時代 1841年	紙本墨画淡彩	
4	山水図	林百非	江戸時代 1850年	紙本墨画	
5	緑陰水亭図	田中柏陰	明治時代 1919年	絹本着色	寄託品
6	吟客探秋図	中西耕石	明治時代	絹本着色	寄託品

「五百羅漢図展」関連企画 山口の幕末絵師 狩野芳崖 平成25年（2013）10月1日～10月27日

近代日本画の父、狩野芳崖。特別展「五百羅漢図」にあわせ、フェノロサと出会う以前の幕末から明治時代初期までの作品を中心に紹介した。

番号	作品	作者	制作年	素材	備考
1	竹林七賢図	狩野秀頼	室町時代16世紀	紙本墨画淡彩	
2	呂洞賓釣魚図	狩野芳崖	明治時代初期	紙本墨画淡彩	
3	羅漢図（右幅）	狩野芳崖	1880年代前半	紙本着色	
4	羅漢図（左幅）	狩野芳崖	1880年代前半	紙本着色	
5	八臂弁才天	狩野芳崖	1860年頃	絹本着色	
6	青砥藤瀬浴川拾貝図	狩野芳崖	1870年代前半	紙本墨画淡彩	
7	土農工商図	狩野芳崖	1870年代	紙本墨画淡彩	
8	四季耕作図屏風	狩野芳崖	1860年代後半	紙本墨画淡彩	
9	月夜山水図	狩野芳崖	江戸時代末	紙本墨画淡彩	
10	懸崖飛瀑図	狩野芳崖	1885年	絹本墨画	

雪舟と雲谷派5 雪舟 平成25年（2013）10月29日～12月1日

当館所蔵の雪舟の重要文化財3点「傲高克恭山水図巻」・「牧牛図（牧童）」・「牧牛図（渡河）」を同時公開し、雪舟が描いた頂相としては現存唯一の「全岩東純像」（瑠璃光寺蔵）もあわせて公開した。

番号	作品	作者	制作年	素材	備考
1	山水図屏風	雲谷等益	江戸時代17世紀	紙本墨画淡彩	寄託品
2	傲高克恭山水図巻	雪舟等瑒	1474年	紙本墨画	
3	牧牛図（牧童）	雪舟等瑒	室町時代15世紀末	紙本墨画淡彩	
4	牧牛図（渡河）	雪舟等瑒	室町時代15世紀末	紙本墨画淡彩	
5	全岩東純像	雪舟等瑒	室町時代15世紀末	絹本着色	瑠璃光寺蔵
6	東甞天神図	雪舟等瑒	1493年	紙本墨画淡彩	

山口の仏教美術 平成25年（2013）12月3日～12月23日

二尊院（長門市）の本尊・阿弥陀如来立像、釈迦如来立像の特別公開にあわせ、当館が所蔵・寄託する山口県内の仏教美術を展示した。

番号	作品	作者	制作年	素材	備考
1	阿弥陀如来立像		鎌倉時代・文永5年（1268）	木造彩色	二尊院蔵／重要文化財
2	釈迦如来立像		鎌倉時代・文永5年（1268）	木造彩色	二尊院蔵／重要文化財
3	十一面観音立像		鎌倉時代・建久4年（1193）	木造彩色	正法寺蔵／山口県指定文化財
4	観音図	伝雪舟等瑒	桃山時代16世紀	紙本墨画淡彩	
5	釈迦三尊図	雲溪永怡	桃山時代16世紀	絹本着色	東光寺蔵／山口県指定文化財
6	巖上観音図	雲谷等恕	江戸時代17～18世紀	絹本墨画	
7	紺紙金泥法華経		平安時代12世紀	紙本金字	遍明院蔵／山口県指定文化財

めでたづくし 平成26年（2014）1月2日～1月26日

新春をお祝いするにふさわしいおめでたい意味を持つ絵画や、今年の干支である「午」にまつわる日本の絵画を展示した。

番号	作品	作者	制作年	素材	備考
1	松鶴図屏風	森寛斎	明治6年（1873）	紙本着色金砂子	
2	群馬図屏風	雲谷等顔	桃山時代16世紀	紙本墨画淡彩	
3	牧馬図	狩野芳崖	19世紀後半	紙本墨画	
4	蓬萊瑞色図	田中柏陰	大正10年（1921）	絹本着色	
5	蓬萊山図	照陽	桃山時代16世紀	紙本墨画淡彩	
6	架鷹図	三谷等宿	江戸時代17世紀	紙本着色	
7	三番受図	長谷川等の	江戸時代19世紀	絹本着色	

日本美術のこぼし〈前編〉 平成26年（2014）1月28日～2月20日

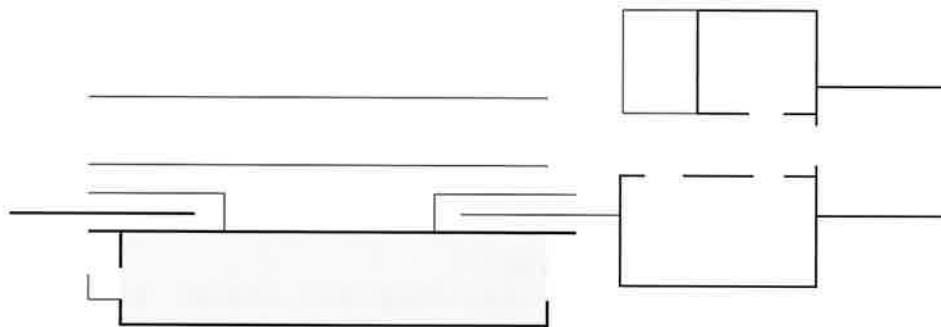
「六曲一双」「土坡」「白描」「画中画」…いわゆる日本美術の専門用語にあたるこぼしを解説しながら、作品を知る、日本美術入門の展示を前後半に分けて行った。

番号	作品	作者	制作年	素材	備考
1	群鶴図屏風	雲谷等與	江戸時代初期	紙本金地着色	
2	浜松図屏風	狩野探信	江戸時代17世紀末～18世紀初	紙本着色	寄託品
3	雲谷派貼交屏風	雲谷派	江戸時代中期	江戸時代中期	
4	芙蓉図	曾我二直庵	江戸時代初期	紙本着色	
5	観音芦雁図	雲谷等哲	江戸時代17世紀	絹本墨画淡彩	寄託品
6	妙孝尼像	不詳	江戸時代初期	紙本着色金泥銀泥	寄託品
7	寛永時代風俗人物画	不詳	江戸時代	紙本着色	

日本美術のこぼし〈後編〉 平成26年（2014）2月27日～4月13日

番号	作品	作者	制作年	素材	備考
1	芦鶴図屏風	雲谷等益	寛永18年（1641）頃	紙本金地着色	寄託品
2	花鳥図屏風	雲谷等鶴	江戸時代18世紀	紙本金地着色	
3	葡萄図	元賀	室町時代	紙本墨画	
4	潑墨山水図	伝雪舟	江戸時代	紙本墨画	
5	手長猿図	森狙仙	文化6年（1809）～文政4年（1821）	絹本着色	
6	呂洞賓鉄拐図	狩野芳崖	明治時代	紙本墨画淡彩	
7	山水図縮図	雲谷派	江戸時代後期	紙本着色	

展示室D

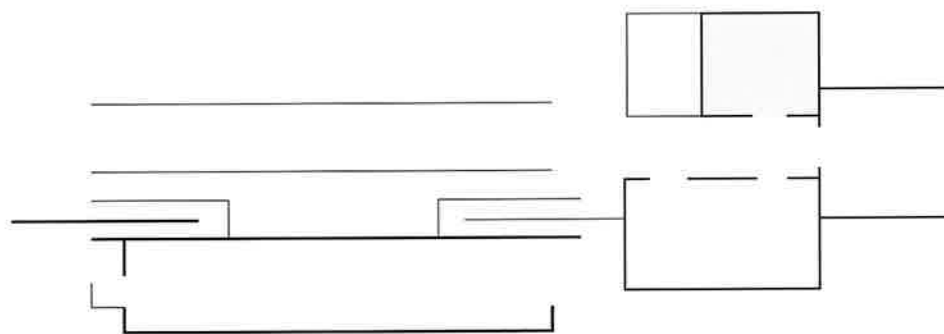


澄川喜一と植木茂 平成26年（2014）1月2日～2月16日

木という素材のもつ魅力を最大限に生かして形づくられた2人の作品を同じ空間に並べ置き、違いを際立たせながらも互いに引き合い、共鳴するような展示を行った。

番号	作品	作者	制作年	素材
1	MASK	澄川喜一	1967	クスノキ、ケヤキ
2	MASK-UN	澄川喜一	1968	カツラ、クスノキ、チーク、ナツ
3	そりのあるかたち	澄川喜一	1980	ケヤキ
4	そりのあるかたちA	澄川喜一	1995	エンジュ、クスノキ
5	そりのあるかたち2011	澄川喜一	2011	クスノキ、ケヤキ
6	漂船	植木茂	1975	ケヤキ
7	体	植木茂	1976	ケヤキ
8	トルソ	植木茂	1979年以前	ケヤキ
9	トルソ	植木茂	1980	ケヤキ
10	トルソ	植木茂	1981	ケヤキ

平成26年度
展示室A



版画の世界 平成26年（2014）4月17日～7月22日

木版画、石版画、銅版画、シルクスクリーン... それぞれ特徴が異なる版画の技法。どの技法を使用しているかに注目すると、画家が表現したかったものが見えてくる。本展示では技法の違いによる表現のおもしろさに焦点を当てた。

番号	作品	作者	制作年	素材
1	作品1	殿敷侃	1981	シルクスクリーン
2	作品2	殿敷侃	1981	シルクスクリーン
3	作品3	殿敷侃	1981	シルクスクリーン
4	作品4	殿敷侃	1981	シルクスクリーン
5	作品5	殿敷侃	1981	シルクスクリーン
6	裾野の富士	小林和作		木版
7	宍岐白鳥	小林和作		木版
8	紀州の海	小林和作		木版
9	坊の津の海	小林和作		木版
10	「タヒチ」より モーレア島	香月泰男	1973	木版
11	「タヒチ」より フラダグンス	香月泰男	1973	木版
12	「タヒチ」より 日中の道	香月泰男	1973	木版
13	「タヒチ」より 広場にて	香月泰男	1973	木版
14	母子像1	香月泰男	1971	リトグラフ
15	母子像2	香月泰男	1971	リトグラフ
16	母子像3	香月泰男	1971	リトグラフ
17	母子像4	香月泰男	1971	リトグラフ
18	母子像5	香月泰男	1971	リトグラフ
19	母子像6	香月泰男	1971	リトグラフ
20	母子像7	香月泰男	1971	リトグラフ
21	母子像8	香月泰男	1971	リトグラフ
22	母子像9	香月泰男	1971	リトグラフ
23	ねむり	山本文彦	1976	リトグラフ
24	てんとうむし	山本文彦	1976	リトグラフ
25	ゆふぐれ	山本文彦	1976	リトグラフ
26	小さな花	中本達也	1960	銅版
27	卵と実	中本達也	1961	銅版
28	海	中本達也	1962	銅版
29	巢	中本達也	1962	銅版
30	春	中本達也	1962	銅版
31	野鳥	中本達也	1962	銅版
32	野	中本達也	1962	銅版
33	漁夫	小野具定	1977	銅版
34	北の海	小野具定	1977	銅版
35	加工場	小野具定	1977	銅版

小林和作の世界 平成26年（2014）7月26日～10月26日

全国各地で行ったスケッチをもとに、アトリエで仕上げるスタイルを長年にわたり続けた、山口市秋穂出身の画家小林和作。彼独特の大胆なタッチと豊富な色彩の画風を紹介した。

番号	作品	作者	制作年	素材	備考
1	上高地（其三）	小林和作	1926	油彩・カンヴァス	
2	カブリ島	小林和作	1928	油彩・カンヴァス	
3	エクス風景	小林和作	1929	油彩・カンヴァス	
4	潮流	小林和作	1935	油彩・カンヴァス	寄託品
5	秋晴	小林和作	1957	油彩・カンヴァス	
6	英彦山中の秋	小林和作	1950年代	油彩・カンヴァス	
7	海	小林和作	1961	油彩・カンヴァス	
8	秋山	小林和作	1963	油彩・カンヴァス	
9	海	小林和作	1964	油彩・カンヴァス	
10	山湖の秋	小林和作	1965頃	油彩・カンヴァス	
11	婦人像	小林和作	1966	油彩・カンヴァス	
12	室戸岬	小林和作		油彩・カンヴァス	
13	佐渡の海	小林和作		油彩・カンヴァス	

14	バラ花	小林和作	油彩・カンヴァス
15	秋果	小林和作	油彩・カンヴァス
16	雲仙嶽	小林和作	油彩・カンヴァス
17	秋山	小林和作	油彩・カンヴァス
18	(湖邊遠)	小林和作	水彩、鉛筆・紙
19	室戸	小林和作	水彩、鉛筆・紙
20	山陰道境附近	小林和作	水彩、鉛筆・紙
21	比婆山	小林和作	水彩、鉛筆・紙
22	洞元湖	小林和作	水彩、鉛筆・紙
23	室戸岬	小林和作	水彩、インク、鉛筆・紙
24	尾道吉和	小林和作	水彩、インク、鉛筆・紙
25	川俣温泉附近	小林和作	水彩、鉛筆・紙

昭和の情景 平成26年(2014)10月30日～平成27年(2015)2月1日

モダニズムの興隆、戦争、敗戦、高度経済成長…。昭和という時代は、かつて経験したこともないような激動の時代であった。そんな時代の波に翻弄されながら、庶民はどのように楽しげに、時に悲しげに、時に苦しげに生きていたのか。当館のコレクションの中から、昭和の世相を切りとった作品を紹介した。

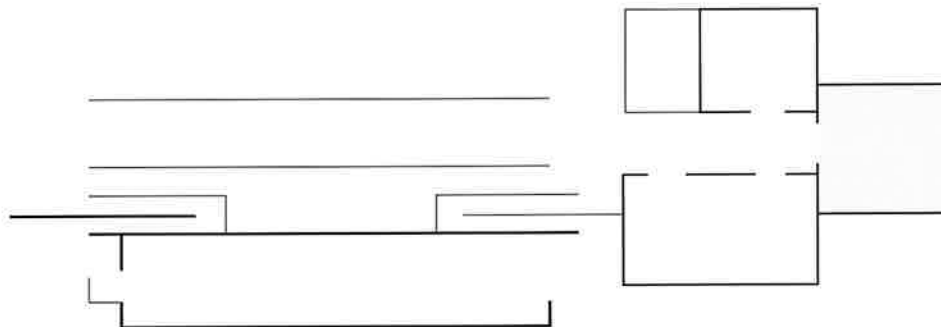
番号	作品	作者	制作年	素材
1	『SELF AND OTHERS』より	牛腸茂雄	1976-77	ゼラチン・シルヴァープリント
2	『SELF AND OTHERS』より	牛腸茂雄	1976-77	ゼラチン・シルヴァープリント
3	『SELF AND OTHERS』より	牛腸茂雄	1976-77	ゼラチン・シルヴァープリント
4	『SELF AND OTHERS』より	牛腸茂雄	1976-77	ゼラチン・シルヴァープリント
5	『SELF AND OTHERS』より	牛腸茂雄	1976-77	ゼラチン・シルヴァープリント
6	『SELF AND OTHERS』より	牛腸茂雄	1976-77	ゼラチン・シルヴァープリント
7	『SELF AND OTHERS』より	牛腸茂雄	1976-77	ゼラチン・シルヴァープリント
8	『SELF AND OTHERS』より	牛腸茂雄	1976-77	ゼラチン・シルヴァープリント
9	『SELF AND OTHERS』より	牛腸茂雄	1976-77	ゼラチン・シルヴァープリント
10	『SELF AND OTHERS』より	牛腸茂雄	1976-77	ゼラチン・シルヴァープリント
11	『センチメンタルな旅』より	荒木経惟	1971	ゼラチン・シルヴァープリント
12	『センチメンタルな旅』より	荒木経惟	1971	ゼラチン・シルヴァープリント
13	『センチメンタルな旅』より	荒木経惟	1971	ゼラチン・シルヴァープリント
14	『センチメンタルな旅』より	荒木経惟	1971	ゼラチン・シルヴァープリント
15	『センチメンタルな旅』より	荒木経惟	1971	ゼラチン・シルヴァープリント
16	『センチメンタルな旅』より	荒木経惟	1971	ゼラチン・シルヴァープリント
17	『センチメンタルな旅』より	荒木経惟	1971	ゼラチン・シルヴァープリント
18	新宿区 新宿駅ビル 3月21日 東京・ニューヨーク姉妹校絵画展 『東京人』より	高梨豊	1965	ゼラチン・シルヴァープリント
19	新宿区 角筈-1 3月21日 『東京人』より	高梨豊	1965	ゼラチン・シルヴァープリント
20	千代田区 丸の内松竹 4月4日 ビートルズ映画大会 『東京人』より	高梨豊	1965	ゼラチン・シルヴァープリント
21	新宿区 新宿-4 5月1日 『東京人』より	高梨豊	1965	ゼラチン・シルヴァープリント
22	新宿区 伊勢丹 10月23日タミーちゃん¥1,000ペーパーちゃん¥700 『東京人』より	高梨豊	1965	ゼラチン・シルヴァープリント
23	杉並区 環状七号線 『東京人』より	高梨豊	1965	ゼラチン・シルヴァープリント
24	足立区 竹ノ塚 第2団地 『東京人』より	高梨豊	1965	ゼラチン・シルヴァープリント
25	新宿区 角筈-1 ビュフェ・ととや 『東京人』より	高梨豊	1965	ゼラチン・シルヴァープリント
26	大曲市大曲西根 『秋田』より	木村伊兵衛	1963	ゼラチン・シルヴァープリント
27	大曲市内小友 『秋田』より	木村伊兵衛	1959	ゼラチン・シルヴァープリント
28	八郎湯 『秋田』より	木村伊兵衛	1958	ゼラチン・シルヴァープリント
29	大曲市内小友 『秋田』より	木村伊兵衛	1958	ゼラチン・シルヴァープリント
30	分教場にて 岩手県	林忠彦	1957	ゼラチン・シルヴァープリント
31	古瀬下の皇居前広場	林忠彦	1955頃	ゼラチン・シルヴァープリント
32	大曲市内小貫 『秋田』より	木村伊兵衛	1954	ゼラチン・シルヴァープリント
33	大曲市大曲 『秋田』より	木村伊兵衛	1953	ゼラチン・シルヴァープリント
34	列車内 『秋田』より	木村伊兵衛	1953	ゼラチン・シルヴァープリント
35	大曲市泉 『秋田』より	木村伊兵衛	1952	ゼラチン・シルヴァープリント
36	ロック座裏 『浅草にて』より	金井精一	1951	ゼラチン・シルヴァープリント
37	ロック座楽屋口 『浅草にて』より	金井精一	1951	ゼラチン・シルヴァープリント
38	サーカス 『浅草にて』より	金井精一	1951	ゼラチン・シルヴァープリント
39	ゴミ捨て場のバー 大森	林忠彦	1950	ゼラチン・シルヴァープリント
40	ストリップ小屋楽屋 浅草	林忠彦	1949	ゼラチン・シルヴァープリント
41	太宰治	林忠彦	1946	ゼラチン・シルヴァープリント
42	引き揚げ 上野駅	林忠彦	1946	ゼラチン・シルヴァープリント
43	煙草をくゆらす浮浪児 上野	林忠彦	1946	ゼラチン・シルヴァープリント
44	心の小窓	福田勝治	1949	ゼラチン・シルヴァープリント
45	光の具殿	福田勝治	1949	ゼラチン・シルヴァープリント
46	子供たちの祭	植田正治		ゼラチン・シルヴァープリント
47	雪のなかの子供	植田正治		ゼラチン・シルヴァープリント
48	雪の日	植田正治		ゼラチン・シルヴァープリント
49	ボクとわたしのお母さん	植田正治	1950	ゼラチン・シルヴァープリント
50	パパとママと子供たち	植田正治	1949	ゼラチン・シルヴァープリント
51	パパとママと子供たち	植田正治	1949	ゼラチン・シルヴァープリント

ぶち 平成27年（2015）2月3日～4月12日

「とても」「凄い」という意味の山口弁「ぶち」。当館の所蔵品から「ぶち〇〇」な作品を紹介した。

番号	作品	作者	制作年	素材
1	平面上の形2	梶義則	1971	油彩・カンヴァス
2	籠城	不動茂弥	1966	顔料・板、麻紙、綿壁、セメント
3	百将傳之図	森寛齋	19世紀	紙本墨画
4	武家装束着用図	森寛齋	19世紀	紙本墨画
5	Seeing 86-16	小本章		カラープリント
6	Seeing 86-11	小本章		カラープリント
7	Seeing 91-1	小本章		カラープリント
8	つぶされた	桂ゆき	1973	油彩、紙・板
9	人形	山本文彦	1973	油彩・カンヴァス
10	周防護	松田正平	1972	油彩・カンヴァス
11	フローレンスの夕映（イタリー）	西山英雄	1972	紙本着色
12	旅芸人	宮崎進	1966	油彩・カンヴァス
13	怒髪天をつく	桂ゆき	1953	油彩・カンヴァス
14	LIME WORKS LW39316	高山直哉	1993	カラープリント、ラミネート加工、アルミ裏打ち・額
15	作品2	石田順治	1939	油彩・カンヴァス
16	大威徳明王	松田正平	1975	油彩・カンヴァス
17	萩の日々：時化が続いて久しぶりに漁があったー浜崎ー	下瀬信雄		ゼラチン・シルヴァープリント
18	四国犬	松田正平	1979	油彩・カンヴァス
19	秋田犬（ロク）	松田正平		グワッシュ・紙
20	真金町診療所	常盤とよ子	1959-60	ゼラチン・シルヴァープリント
21	「裏日本」より 山の湯治場 青森	濱谷浩	1957	ゼラチン・シルヴァープリント
22	「裏日本」より 津軽の男 青森	濱谷浩	1955	ゼラチン・シルヴァープリント
23	「裏日本」より 海の家族 青森	濱谷浩	1955	ゼラチン・シルヴァープリント
24	春宵賀之図	樋口富麻呂	1924	絹本着色

展示室B



山口県の工芸 平成26年（2014）4月17日～7月22日

萩焼・赤間硯・金工・染織。山口県立萩美術館・浦上記念館に移管された工芸作品の中から、伝統を継承しながらも新たな現代の美を作り出し続けている山口県の工芸作家たちの作品を紹介した。

番号	作品	作者	制作年	素材	備考
1	萩鉄灰被線文鉢	野坂康起	1989	陶	山口県立萩美術館・浦上記念館蔵
2	萩炎箔文陶笛	大和保男	1979	陶	山口県立萩美術館・浦上記念館蔵
3	萩茶碗	玉村登陽	1997	陶	山口県立萩美術館・浦上記念館蔵
4	萩窯壺	波多野善藏	1977	陶	山口県立萩美術館・浦上記念館蔵
5	曜	吉賀将夫	1985	陶	山口県立萩美術館・浦上記念館蔵
6	萩白釉窯壺	岡田裕	1988	陶	山口県立萩美術館・浦上記念館蔵
7	萩灰被朝顔文皿	坂倉新兵衛	1991	陶	山口県立萩美術館・浦上記念館蔵
8	萩灰被盆	新庄貞嗣	1996	陶	山口県立萩美術館・浦上記念館蔵
9	萩灰被茶碗	田原陶兵衛	1996	陶	山口県立萩美術館・浦上記念館蔵
10	萩灰被別貫茶碗	兼田昌尚	1995	陶	山口県立萩美術館・浦上記念館蔵
11	長方硯	堀尾信夫	1998	石	
12	接合せ短冊箱「紡」	山本晃	1993	金・銀・銅及びその合金	
13	ガザに盲いて	館村秀子	2007	藍染・綿	

香月泰男とシベリアシリーズⅠ シリーズの胎動 平成26年（2014）7月26日～10月26日

57点の作品から成るシベリア・シリーズは、当初から連作として構想されていたわけではない。本展示では1950年代以前の作品から、シベリア・シリーズへといたる香月泰男の初期の画業をたどった。

番号	作品	作者	制作年	素材	備考
1	裸婦	香月泰男	1931-36頃	油彩・カンヴァス	
2	風景	香月泰男	1936	油彩・カンヴァス	
3	雨〈牛〉	香月泰男	1947	油彩・カンヴァス	
4	施療	香月泰男	1947	油彩・カンヴァス	寄託品
5	幼鷺	香月泰男	1948	油彩・カンヴァス	
6	埋葬	香月泰男	1948	油彩・カンヴァス	
7	馬鈴薯	香月泰男	1953	油彩・カンヴァス	
8	トマト	香月泰男	1950年代前半	油彩・カンヴァス	
9	左官	香月泰男	1956	油彩・カンヴァス	
10	鷹	香月泰男	1958	油彩・カンヴァス	
11	北へ西へ	香月泰男	1959	油彩・カンヴァス	

香月泰男とシベリアシリーズⅡ シリーズの展開 平成26年（2014）10月30日～平成27年（2015）2月1日

1960年代後半になると、香月泰男のシベリア・シリーズは、連作としての色彩をより強く帯びてくる。相次いで制作された関連のある作品や、対になる作品をとおして、シリーズの展開を紹介した。

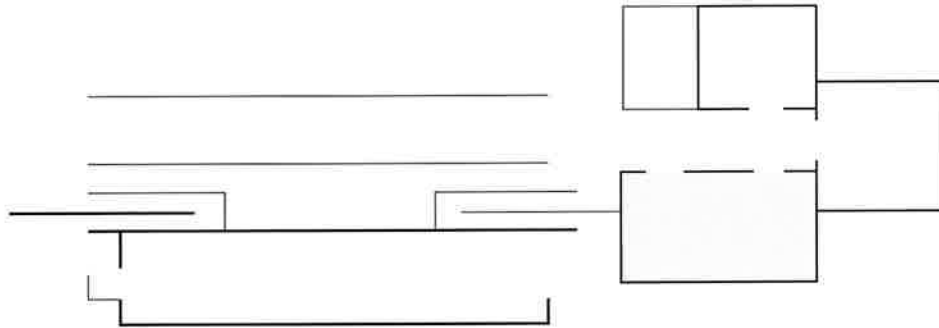
番号	作品	作者	制作年	素材
1	ダモイ	香月泰男	1959	油彩・カンヴァス
2	伐	香月泰男	1964	油彩・カンヴァス
3	鋸	香月泰男	1964	油彩・カンヴァス
4	私〈マホルカ〉	香月泰男	1966	油彩・カンヴァス
5	復具〈タラップ〉	香月泰男	1967	油彩・カンヴァス
6	別	香月泰男	1967	油彩・カンヴァス
7	奉天（右）	香月泰男	1970	油彩・カンヴァス
8	奉天（左）	香月泰男	1970	油彩・カンヴァス
9	点呼（右）	香月泰男	1971	油彩・カンヴァス
10	点呼（左）	香月泰男	1971	油彩・カンヴァス

香月泰男とシベリアシリーズⅢ シリーズのその先 平成27年（2015）2月3日～4月12日

還暦を迎えてなお新しい表現を模索し続けた香月泰男。その突然の死によって57点で幕を閉じたシベリア・シリーズ、そして香月の芸術はどこへ向かおうとしていたのか、最晩年の作品をとおして"シリーズ"のその先を探った。

番号	作品	作者	制作年	素材
1	1945	香月泰男	1959	油彩・カンヴァス
2	黒い太陽	香月泰男	1961	油彩・カンヴァス
3	凍土	香月泰男	1965	油彩・カンヴァス
4	青の太陽	香月泰男	1969	油彩・カンヴァス
5	業火	香月泰男	1970	油彩・カンヴァス
6	-35°	香月泰男	1971	油彩・カンヴァス
7	雪山	香月泰男	1972	油彩・カンヴァス
8	日本海	香月泰男	1972	油彩・カンヴァス
9	渚〈ナホトカ〉	香月泰男	1974	油彩・カンヴァス

展示室C



花くらべ 平成26年（2014）4月17日～5月11日

左右の組に分かれ、季節の花を持ち寄ってくらべ楽しむ「花くらべ」。平安時代に貴族たちの間で流行すると、やがとそこに歌も詠み添えて味わう遊びとなった。本展示でもそれにならい、春から初夏にかけて咲き誇る美しく可憐な花たちをくらべて紹介した。

番号	作品	作者	制作年	素材	備考
1	牡丹図	雲谷等恕	江戸時代17～18世紀	紙本金地着色	寄託品
4	牡丹図	樋崎鉄香	明治後期～昭和前期	絹本着色	
2	牡丹図	雲谷等璠	江戸時代17～18世紀	絹本着色	寄託品
3	雨後牡丹	西野新川	大正～昭和時代	紙本着色	寄託品
5	桜図（草紙洗小町・桜・楓図のうち）	狩野美信	江戸時代18世紀初	絹本着色	寄託品
6	岩鷲	福田翠光	昭和19年（1944）	絹本着色	
7	藤花遊禽図	玉村方久斗	大正～昭和初期	絹本着色金泥	
8	花水木二小禽図	玉村方久斗	大正～昭和初期	絹本着色金泥	
9	花卉図	高島北海	大正15年（1926）	絹本着色	
10	花卉図巻	小田海僊	天保12年（1841）	絹本着色	

雪舟と雲谷派1 戦国のダンディズム・江戸のエレガンス 平成26年（2014）5月16日～6月15日

桃山時代、雲谷派の祖となった雲谷等顔の画風が雄々しく洗い一方で、瀟洒な美を特徴として江戸初期に活躍した雲谷等益とその息子たち。桃山と江戸の絵画の違いを、ダンディズムとエレガンスをキーワードに比べた。

番号	作品	作者	制作年	素材	備考
1	山水図屏風	雲谷等顔	桃山時代16～17世紀	紙本墨画淡彩	
2	瀟湘八景図屏風	雲谷等益	江戸時代17世紀初頭	紙本墨画淡彩金泥	
3	瀟湘山水図	雲谷等顔	桃山時代16～17世紀	紙本墨画	
4	雪景山水図	雲谷等爾	江戸時代17世紀	紙本墨画	
5	遠瞻図 天祐紹果貴	雲谷等顔	桃山時代16～17世紀	紙本墨画	寄託品
6	陸博図	雲谷等爾	江戸時代17世紀	絹本墨画淡彩	
7	五位鸞図 松詞貴	雲谷等顔	桃山時代16～17世紀	紙本墨画	
8	月に木菟図	雲谷等璠	江戸時代17～18世紀	紙本墨画	寄託品

雪舟と雲谷派2 浮世のたのしみ－食・遊・学－ 平成26年（2014）6月17日～7月22日

特別展「大浮世絵展」の開催にあわせ、当館の江戸時代の雲谷派コレクションの中から「食べる」・「遊ぶ」・「学ぶ」にちなんだ絵画を集めて展示した。

番号	作品	作者	制作年	素材	備考
1	琴棋書画図屏風	雲谷等益	江戸時代17世紀初頭	紙本着色	
2	唐子遊図屏風	雲谷派	江戸時代	紙本金地着色	寄託品
3	瀟湘八景図	雲谷等璠	江戸時代17～18世紀	紙本墨画	寄託品
4	陶淵明愛菊図	雲谷等爾	江戸時代17世紀	紙本墨画淡彩	
5	醉李白図	雲谷等璠	江戸時代17～18世紀	紙本墨画淡彩	寄託品
6	人物花鳥図屏風	雲谷派	江戸時代17～18世紀	絹本着色	
7	瓜図	雲谷等益	江戸時代17世紀初頭	絹本着色	
8	茄子図	雲谷等益	江戸時代17世紀初頭	紙本墨画	寄託品
9	碓上釣魚図	雲谷等村	江戸時代19世紀	紙本墨画	

モノクロームな日本画 平成26年（2014）7月26日～8月24日

“水墨画”は墨一色だけで描いた絵というイメージが強いが、実は何らかの色が使われている絵の方が多い。本展示では完全に墨のみで描かれた作品を選んで紹介した。

番号	作品	作者	制作年	素材	備考
1	潑墨山水図	雲谷等益	江戸時代17世紀	紙本墨画	
2	山水図	雲谷等哲	江戸時代17世紀	紙本墨画	
3	遠瞻図	室町時代16世紀	室町時代16世紀	紙本墨画	
4	出山釈迦図	雲谷等益	江戸時代17世紀	紙本墨画	寄託品
5	布袋図	雲谷等作	江戸時代17世紀	紙本墨画	
6	布袋図	雲谷等與	江戸時代17世紀	紙本墨画	
7	六祖図	雲谷等の	江戸時代17世紀	紙本墨画	寄託品
8	葡萄図	元賀	室町時代16世紀	紙本墨画	
9	鸞図	伝相阿弥	江戸時代	紙本墨画	

10	白鷺図	雲谷等興	江戸時代17世紀	紙本墨画	寄託品
11	梅に叭々鳥図	雲谷等爾	江戸時代17世紀	紙本墨画	
12	竹雀図	雲谷等約	江戸時代17世紀	紙本墨画	

人間国宝認定記念 収蔵品による山本展 平成26年（2014）7月26日～9月28日

「切嵌象嵌」「接合」と呼ばれる技術を独自に編み出し、詩情あふれる作風によって知られる、日本の金属工芸の第一人者・山本晃氏（山口県光市在住）が重要無形文化財の保持者に認定されたことを記念して、当館の収蔵品による作品展を開催した。

番号	作品	作者	制作年	素材
1	切嵌象嵌接合せ長皿「翔雅」	山本晃	1993	金・銀・銅およびその合金
2	接合せ二段箱「草叢」	山本晃	1997	金・銀・銅およびその合金
3	接合せ箱「紡」	山本晃	1997	金・銀・銅およびその合金
4	切嵌象嵌接合せ鉢「殿」	山本晃	1998	金・銀・銅およびその合金
5	接合せ短冊箱「紡」	山本晃	1999	金・銀・銅およびその合金
6	接合せ箱「麦秋」	山本晃	1999	金・銀・銅およびその合金
7	銀四分一赤銅接合せ箱「青響」	山本晃	2000	金・銀・銅およびその合金
8	接合せ箱「山背」	山本晃	2004	金・銀・銅およびその合金

雪舟と雲谷派3〈雲谷派〉を予習します！ 平成26年（2014）8月26日～9月28日

コレクション展特別企画「雪舟と雲谷派」展の開催前に、〈雪舟を継ぐ者たち〉である長州藩お抱え絵師集団〈雲谷派〉について紹介した。

番号	作品	作者	制作年	素材	備考
1	雪舟像 天祐紹景景	雲谷等興	寛永16年（1639）	絹本着色	寄託品
2	毛利重就像	雲谷等起	江戸時代19世紀	絹本着色	
3	桐環蝦芋図	雲谷等顔	江戸時代16～17世紀	紙本墨画	
4	山水図	雲谷等爾	江戸時代17世紀	絹本墨画淡彩	
5	芦雁図	雲谷等環	江戸時代17～18世紀	紙本墨画淡彩	寄託品
6	文殊菩薩図	朝倉等取	江戸時代17～18世紀	紙本墨画淡彩	寄託品
7	大徳寺碧玉庵樹那之間四季掛作図襖縮図	雲谷派	江戸時代後期	紙本墨画	
8	西湖・金山寺図屏風	雲谷等益	江戸時代17世紀初頭	紙本墨画	寄託品

栄西ゆかりの寺・狗留孫山修禪寺の絵画 平成26年（2014）9月30日～10月26日

日本に禅宗を伝えた栄西禅師の800年遠忌にあわせ、栄西禅師を中興の祖とする狗留孫山修禪寺（下関市豊田町）所蔵の仏教絵画を展示した。

番号	作品	制作年	素材	所蔵
1	阿弥陀三尊来迎図	鎌倉時代	絹本着色	修禪寺蔵
2	太元帥明王像	安永9年（1780）	絹本着色	修禪寺蔵
3	胎藏界曼荼羅図	江戸時代	絹本着色	修禪寺蔵
4	金剛界曼荼羅図	江戸時代	絹本着色	修禪寺蔵
5	理趣会曼荼羅図	江戸時代	絹本着色	修禪寺蔵
6	五大虚空菩薩像	江戸時代	絹本着色	修禪寺蔵
7	光明真言曼荼羅図	江戸時代	紙本着色	修禪寺蔵
8	大随求曼荼羅図	江戸時代	絹本着色	修禪寺蔵
9	弁才天女坐像	室町時代	絹本着色	修禪寺蔵
10	釈迦如来坐像	江戸時代	紙本着色	修禪寺蔵
11	釈迦三尊十六善神像	江戸時代	絹本着色	修禪寺蔵
12	弥勒菩薩坐像	江戸時代	紙本着色	修禪寺蔵
13	五大尊像	江戸時代	紙本着色	修禪寺蔵

みやこの日本画 平成26年（2014）12月2日～12月21日

幕府が江戸に移って以後も、文化の上での「みやこ」は京都。江戸時代以降の日本画の世界においても、京都は特別な場所でありつづけた。この展示では、京都画壇で活躍した画家たちの「都ぶり」の日本画を紹介した。

番号	作品	作者	制作年	素材	備考
1	龍虎図屏風	森寛斎	弘化5年（1848）	紙本墨画淡彩	
2	山水図屏風	岐島虹石	明治時代	紙本墨画淡彩	
3	性堂慧果像	円山応挙	江戸時代後期	絹本着色	寄託品
4	手長茶図	森狙仙	江戸時代後期	絹本着色	
5	水呑み虎図	斎藤山	江戸時代後期	絹本着色	
6	紅葉に牧童図	森一鳳	江戸時代後期	紙本墨画淡彩	
7	京人形図	森寛斎	明治18年（1885）	絹本着色	

新春の寿ぎ 平成27年（2015）1月2日～2月1日

新春をお祝いするにふさわしいおめでたい意味を持つ絵画や、少し早い春の訪れを感じさせる日本の絵画を展示した。

番号	作品	作者	制作年	素材
1	群鶴図屏風	雲谷等興	江戸時代初期	紙本金地着色
2	松鶴図屏風	森寛斎	明治6年（1873）	紙本着色金砂子
3	大鷹	福田翠光	昭和12年（1937）	絹本着色
4	梅にかささぎ	兼重晴香	昭和15年（1930）	絹本着色
5	萩羊の図	森寛斎	明治時代初期	絹本着色
6	黄初平	樋口富麻呂	大正13年（1924）	絹本着色

白くてふわふわ 平成27年（2015）2月3日～3月8日

思わず類を寄せ、うずもれなくなる“白くてふわふわ”な絵画たち。動物の毛並み、雪、雲など、いかにその質感が描き出されているかに注目する展示を行った。

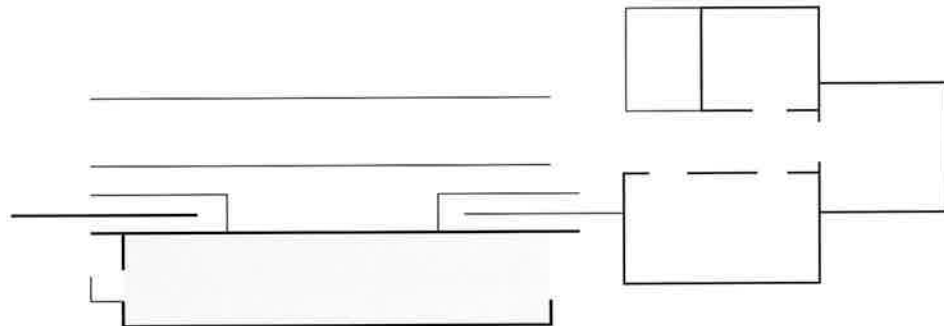
番号	作品	作者	制作年	素材	備考
1	山水図	雲谷等益	江戸時代17世紀前半	紙本墨画淡彩	寄託品
2	羽觸	福田翠光	昭和8年（1933）	絹本着色	
3	松に白鷹図	永富等運	江戸時代19世紀	紙本着色	寄託品
4	雪舟落款福祿寿図模写	山岡山泉	昭和初期	紙本墨画	
5	夜桜図	松林柱月	昭和時代	絹本墨画淡彩	寄託品
6	葡萄と栗鼠	森寛齋	明治15年（1882）	絹本墨画	
7	寿老図	雲谷等徹	江戸時代18～19世紀	絹本墨画淡彩	寄託品
8	熊図	森一鳳	江戸時代19世紀	絹本墨画淡彩	
8	猫（下絵・ドローイング）	藤田隆治	昭和時代	紙・水彩	

近代の日本画 平成27年（2015）3月10日～4月12日

幕末から明治初期、時代の変換期に美術界でも新しい日本画が誕生。下関出身で近代日本画の父といわれる狩野芳崖、萩出身で京都画壇の重鎮として活躍した森寛齋など、激動の時代を生き抜いた画家たちの作品を紹介した。

番号	作品	作者	制作年	素材
1	山水図屏風	森寛齋	明治元年（1868）	紙本墨画淡彩
2	春秋山水図屏風	高島北海	昭和3年（1928）	紙本金地墨画淡彩
3	八臂弁才天図	狩野芳崖	江戸時代末期	絹本着色
4	源義家像	森寛齋	明治18年（1885）	絹本着色
5	松林瀑布山水図	森寛齋	明治元年（1868）	絹本墨画淡彩
6	月夜山水図	狩野芳崖	明治時代	紙本墨画淡彩
7	懸崖飛沫図	狩野芳崖	明治18年（1885）頃	絹本墨画

展示室D



コレクション展特別企画 吉村芳生 平成26年（2014）12月6日～平成27年（2015）2月15日

吉村芳生が2013年12月6日に63歳で亡くなってから1年。初期の作品から近年の作品まで、当館のコレクションを中心に紹介した。

番号	作品	作者	制作年	素材	備考
1	タンポポ	吉村芳生	2003	色鉛筆・紙	
2	バンダ	吉村芳生	2003	色鉛筆・紙	寄託品
3	コスモス	吉村芳生	2001	色鉛筆・紙	寄託品
4	コスモス	吉村芳生	2003	色鉛筆・紙	
5	FISH-84-8	吉村芳生	1984	鉛筆・紙	
6	A STREET SCENE No.21	吉村芳生	1979	インク・紙	
7	A STREET SCENE No.8	吉村芳生	1978	コンテ・紙	
8	A STREET SCENE No.7	吉村芳生	1978	コンテ・紙	
9	A PARKING SCENE No.3	吉村芳生	1979	インク・紙	寄託品
10	ドローイング 新聞 毎日新聞 1976年11月6日	吉村芳生	1976-78	鉛筆・紙	8点を展示
11	新聞と自画像 2010.6.14	吉村芳生	2010	鉛筆・色鉛筆、墨・紙	寄託品
12	365日の自画像 1981.7.24-1982.7.23	吉村芳生	1981-1990	鉛筆・紙	

講座等

コレクションにより深く親んでもらうことをねらいとし、各展示内容に付随したギャラリートークおよび、学芸員による講座「コレクション入門講座」を開催。

■学芸員によるギャラリートーク

コレクション展開催中の毎週土曜日 14:00より30分程度

■コレクション入門講座

平成25年度

- ・「雲谷等顔－水墨画の見どころ」
【日時】4月27日(土) 14:00～15:00
【会場】展示室C
【講師】荏開津通彦

- ・「色のおはなし」
【日時】5月18日(土) 14:00～15:00
【会場】展示室C
【講師】前田淳子

- ・「雲谷等益－墨の色に親しみ、筆の動きを楽しむ」
【日時】6月8日(土) 14:00～15:00
【会場】展示室C
【講師】福田善子

- ・「油彩画の修復－シベリア・シリーズを例に－」
【日時】7月13日(土) 14:00～15:00
【会場】講座室
【講師】萬屋健司

- ・「南画と文人画」
【日時】9月7日(土) 14:00～15:00
【会場】展示室C
【講師】荏開津通彦

- ・「福田勝治のモダニズム」
【日時】12月7日(土) 14:00～15:00
【会場】講座室
【講師】河野通孝

- ・「めでたづくし 福を招く絵画を味わおう」
【日時】1月11日(土) 14:00～15:00
【会場】展示室C
【講師】岡本麻美

- ・「澄川喜一と植木茂」
【日時】2月1日(土) 14:00～15:00
【会場】展示室D
【講師】斎藤郁夫

- ・「日本美術のことば」
【日時】3月1日(土) 14:00～15:00
【会場】展示室C
【講師】岡本麻美

平成26年度

- ・「雪舟と雲谷派1 戦国のダンディズム・江戸のエレガンス」
【日時】5月17日(土) 14:00~15:00
【会場】展示室C
【講師】福田善子

- ・「雪舟と雲谷派2 浮世のたのしみ－食・遊・学－」
【日時】6月21日(土) 14:00~15:00
【会場】展示室C
【講師】福田善子

- ・「小林和作の世界」
【日時】8月2日(土) 14:00~15:00
【会場】講座室
【講師】斎藤郁夫

- ・「雪舟と雲谷派3 〈雲谷派〉を予習する！」
【日時】9月6日(土) 14:00~15:00
【会場】展示室C
【講師】福田善子

- ・「狗留孫山修禅寺にある仏画」
【日時】10月4日(土) 14:00~15:00
【会場】展示室C
【講師】荏開津通彦

- ・「昭和の情景」
【日時】12月6日(土) 14:00~15:00
【会場】講座室
【講師】河野通孝

事業

II. 教育普及事業

(1) やまぐちこども美術館事業

こどもたちが、美術作品に接する機会を増やすことを通して、《地域の文化財・伝統》や《ものづくり》《すぐれた美術作品》への関心を高め、《地域の歴史を継承する意識》《文化財を保存し大切にすることを意識》《ものづくりをふまえた想像力や生活力》を育成する。同時に、こうした活動をサポートする人材を育成し、世代間の交流を深める。有識者によりやまぐちこども美術館実行委員会を組織し、事業を実施（平成25年度まで）。

平成25年度

【ワークショップ】

■「色をつくって視るシリーズ イメージと力ー松田正平のあお・みどり」

松田正平展等鑑賞後、実際に絵具を調合し、青と緑のもののイメージから色見本を制作。

日 時：5月11日(土)・12日(日) 10:00～15:00 全2日間

講 師：榎本寿紀（美術家）

対 象：小学4年生以上一般

会 場：山口県立美術館講座室

参加者：12名

■「山口の土2013 茶色を視る、から始めよう」

〈土で染める〉

持ち寄った土をすり潰し、水に溶いて布を染色する。

日 時：6月15日(土) 10:00～16:00

講 師：榎本寿紀（美術家）

対 象：小学4年生以上一般

会 場：山口県立美術館講座室

参加者：20名

〈土から絵具〉

持ち寄った土で絵具をつくり、展色剤による色の違いを試す。

日 時：6月16日(日) 10:00～16:00

講 師：榎本寿紀（美術家）

対 象：小学4年生以上一般

会 場：山口県立美術館講座室

参加者：17名

■「山口の土2013 夏休み・子供も大人もいっしょスペシャル 泥んこから生まれる宇宙の樹」

土から絵具をつくり、その絵具で大画面の絵を制作する。

日 時：8月17日(土)・18日(日) 10:00～16:00 全2日間

講 師：榎本寿紀（美術家）

対 象：小学1年生以上一般

会 場：山口県立美術館講座室

参加者：22名

■「かんたん！あんしん！おやつをつくろう！」

展覧会鑑賞後、おやつ作りとプチ・ランチを楽しむ。託児サービス付

日 時：8月22日(木)・29日(木)、9月5日(木)・12日(木) 10:00～13:00

講 師：松田智子（料理研究家）

対 象：親子

会 場：山口県立美術館カフェ

参加者：35名

■「羅漢さんとネイルのお手入れ」

展覧会鑑賞後、講師の指導のもとネイルの手入れについて学ぶ。託児サービス付

日 時：10月29日(火)・11月19日(火) 10:00～12:00

講 師：宮川芳恵（ネイル講師）・伊勢本亜耶（ネイリスト）

対 象：一般

会 場：山口県立美術館カフェ

参加者：20名

■「羅漢スーツをつくろう」

展覧会鑑賞後、五百羅漢図に登場するキャラクターをモチーフに、スーツを制作。

日 時：11月9日(土)・10日(日) 10：00～16：00 全2日間

講 師：榎本寿紀（美術家）

対 象：小学4年生以上一般

会 場：山口県立美術館講座室

参加者：8名

■「かんたん！あんしん！おやつをつくろう！」

展覧会鑑賞後、おやつ作りとプチ・ランチを楽しむ。託児サービス付

日 時：11月12日(火)・26日(火) 10：00～12：00

講 師：松田智子（料理研究家）

対 象：親子

会 場：山口県立美術館カフェ

参加者：20名

■「積み木オブジェをつくろう！」

展覧会鑑賞後、積み木を制作し遊び方を学ぶ。

日 時：1月18日(土)・19日(日) 10：00～16：00 全2日間

講 師：榎本寿紀（美術家）

対 象：小学4年生以上一般

会 場：山口県立美術館講座室

参加者：19名

【ガイドブックの制作】

■こどもガイド「水墨画入門ガイドブック 山水画を旅しよう」

A5変形 全15頁

コレクション展「日本美術のこぼれ（後編）」会場にて小中学生を対象に配布
以降、教員の希望に応じて、小中学校に希望部数を配布



山水画を旅しよう

(2) 学校連携

児童生徒、教員が芸術文化にふれあい、ともに学ぶ場としての美術館の普及のため、学校との連携事業を実施。

1：児童向けプログラム

【学校見学】

学校単位での来館に対し解説、一般の来館者との調整などをおこなう。

(1) 平成25年度

累計：児童生徒・教員 2,568名

(2) 平成26年度

累計：児童生徒・教員 2,794名

【教員との共同授業】

多彩な授業を目指す学校や、学校単位での来館が困難な遠隔地の学校へ学芸員を派遣し、担当教員とともに共同で授業を行う。

(1) 平成25年度

■日時 平成25年5月13日(月)

対象 岩国市立藤河小学校1年生 (15名)

担当 萬屋健司 (美術家の榎本寿紀氏と協同で実施)

内容 松田正平展の紹介

■日時 平成25年5月22日(水)

対象 周南市立桜田中学校3年生 (61名)

担当 岡本麻美

内容 修学旅行事前学習「仏像入門」

■日時 平成25年7月5日(金)

対象 宇部市立厚東中学校2、3年生 (33名)

担当 福田善子、萬屋健司

内容 国語科：鑑賞文を書く

■日時 平成25年11月25日(月)

対象 周防大島町立城山小学校3、4年生 (21名)

担当 萬屋健司

内容 春・夏・秋・冬を見つけようー雪舟の「山水長巻」の鑑賞を通してー

■日時 平成25年12月12日(水)

対象 宇部市立厚東中学校1年生 (21名)

担当 福田善子、萬屋健司

内容 国語科：鑑賞文を書く

■日時 平成25年12月17日(火)

対象 県立光丘高等学校3年生 (7名)

担当 萬屋健司

内容 シベリア・シリーズを「みる」こと・「あらわす」こと

■日時 平成26年3月11日(火)

対象 山陽小野田市立埴生中学校2年生 (45名)

担当 岡本麻美

内容 奈良・京都の文化的魅力 (日本美術) にふれる鑑賞教育

(2) 平成26年度

■日時 平成26年5月21日(水)

対象 周南市立桜田中学校3年生 (49名)

担当 福田善子

内容 修学旅行事前学習「仏像入門」

- 日時 平成26年6月11日(水)
対象 山口市立上郷小学校6年生 (85名)
担当 岡本麻美
内容 大浮世絵展鑑賞事前学習
- 日時 平成26年11月13日(水)
対象 美祢市立大嶺中学校1年生 (28名)
担当 福田善子
内容 対話型鑑賞による雪舟筆「牧牛図」の鑑賞
- 日時 平成26年11月28日(金)
対象 美祢市立大嶺中学校1年生 (52名)
担当 福田善子
内容 対話型鑑賞による雪舟筆「牧牛図」の鑑賞
- 日時 平成27年1月9日(金)
対象 私立済美高等学校1-3年生 (120名)
担当 斎藤郁夫
内容 収蔵品紹介、学芸員の仕事紹介
- 日時 平成27年3月6日(金)
対象 山陽小野田市立殖生中学校2年生 (40名)
担当 岡本麻美
内容 奈良・京都の楽しみ方～はじめての仏像入門

【職場体験学習】

(1) 平成25年度

- 日 時 平成25年5月8日(水)～10日(金)
対 象 山口市立宮野中学校2年生
参加者 4名
- 日 時 平成25年9月18日(水)、19日(木)
対 象 山口市立鴻南中学校2年生
参加者 4名
- 日 時 平成25年11月13日(水)
対 象 山口大学教育学部附属山口小学校6年生
参加者 1名

(2) 平成26年度

- 日 時 平成26年5月23日(金)
対 象 長門市立三隅中学校2年生
参加者 5名
- 日 時 平成26年8月20日(水)、21日(木)
対 象 県立防府西高等学校2年生
参加者 3名
- 日 時 平成26年9月11日(水)、12日(金)
対 象 野田学園中学・高等学校 中学2年生
参加者 3名
- 日 時 平成26年9月25日(水)、26日(金)
対 象 山口市立鴻南中学校2年生
参加者 4名

2：教員向けプログラム

【教員向け講座】

教員を対象に意欲知識指導力の向上を目指し、美術館と美術教育の普及を行う。

(1) 平成25年度

累計：参加教員 のべ221名

■日時 平成25年4月14日(日)

〈午前の部〉

主 題 生誕100年 松田正平展－悠久の周防灘－

講 師 萬屋健司

参加者 27名

〈午後の部〉

主 題 「けんびツアー」山口県立美術館へようこそ

講 師 萬屋健司

参加者 6名

■日時 平成25年6月9日(日)

〈午前の部〉

主 題 水墨画を見る、楽しむ、味わう

講 師 福田善子

参加者 30名

〈午後の部〉

主 題 ナント美術館名品展－フランス近代美術の輝き－

講 師 前田淳子

参加者 43名

■日時 平成25年8月31日(土)

〈午前の部〉

主 題 没後五〇年 松林桂月展

講 師 荏開津通彦

参加者 27名

〈午後の部〉

主 題 松林桂月展記念講演会「松林桂月の生涯と芸術－長州人として、南画人として－」

講 師 村田隆志（大阪国際大学専任講師）

参加者 15名

■日時 平成25年10月19日(土)

〈午前の部〉

主 題 大本山増上寺秘蔵 五百羅漢図－幕末の鬼才 狩野一信

講 師 岡本麻美

参加者 46名

〈午後の部〉

主 題 コレクション展 山口の幕末絵師 狩野芳崖

講 師 関根佳織（下関市立美術館学芸員）

参加者 20名

■日時 平成26年3月15日(土)

主 題 美術館のワークショップに参加しよう

「素材を楽しむ－手作り絵の具で版画を刷る」 ペタペタ連続 凸版で表す命の足跡

講 師 榎本寿紀（美術家）

参加者 7名

(2) 平成26年度

累計：参加教員 のべ347名

■日時 平成26年4月19日(土)

〈午前の部〉

主 題 「けんびツアー」山口県立美術館へようこそ

講 師 萬屋健司

参加者 18名

〈午後の部〉

主 題 没後40年 香月泰男展－シベリア・シリーズと原画－

講 師 萬屋健司

参加者 13名

■日時 平成26年5月18日(日)

〈午前の部〉

主 題 国際浮世絵学会創立50周年記念 大浮世絵展

講 師 岡本麻美

参加者 78名

〈午後の部〉

主 題 コレクション展 雪舟と雲谷派1 戦国のダンディズム・江戸のエレガンス

講 師 福田善子

参加者 18名

■日時 平成26年7月27日(日)

〈午前の部〉

主 題 放浪の天才画家 山下清展

講 師 斎藤郁夫

参加者 83名

〈午後の部〉

主 題 修復家が見た天才・山下清の魅力

講 師 岩井希久子（修復家）

参加者 42名

■日時 平成26年10月4日(土)

主 題 美術館のワークショップに参加しよう

ピクチャー・カメレオンズ 作品にとけ込むカラフルスーツ

講 師 榎本寿紀（大分県立美術館エデュケーター）

参加者 2名

■日時 平成26年11月2日(日)

〈午前の部〉

主 題 コレクション特別企画 テーマでくらべる雪舟と雲谷派

講 師 福田善子

参加者 12名

〈午後の部〉

主 題 学芸員の仕事をご紹介 「展覧会が出来るまで」編

講 師 萬屋健司

参加者 9名

■日時 平成27年3月1日(日)

〈午前の部〉

主 題 超絶技巧！明治工芸の粋 これぞ明治のクールジャパン！！

講 師 岡本麻美

参加者 49名

〈午後の部〉

主 題 クールジャパンの原型 ヨーロッパを魅了した日本の美術

講 師 萬屋健司

参加者 23名

【教材・資料活用】

多彩な授業を目指す学校に山口県立美術館で制作した教材や各種資料を貸出、提供する。

(1) 平成25年度

平成25年7月20日(土)～27日(土)	松崎天神祿起絵巻レプリカ3巻、子どもパンフレット、 松崎天神祿起絵巻画像CD、防府天満宮展図録1冊	萩市立三見中学校	貸出
平成25年9月11日(木)	シベリア・シリーズ子どもガイド (180部)	周南市立周陽中学校	提供
平成25年11月3日(日)～23日(土)	松崎天神祿起絵巻レプリカ3巻、 美術館ボランティアスタッフ制作松崎天神祿起絵巻レプリカ本3巻、 図録1冊	萩市立三見中学校	貸出
平成25年11月23日(土)	『雪舟』 畫業聚成]	山口市立阿知須中学校	閲覧
平成26年1月10日(金)～31日(金)	顔料セット、乳鉢5、鉱物標本、篩5、土で作った絵の具	宇部市立厚東中学校	貸出
平成26年3月13日(木)	シベリア・シリーズ子どもガイド20部、 花鳥画子どもガイド20部、山水画子どもガイド20部	下関市立王江小学校	提供

(2) 平成26年度

平成26年6月23日(月)～25日(水)	「大浮世絵展」会場用映像BD	山口大学教育学部附属山口中学校	貸出
平成26年12月18日(木)～平成27年1月29日(木)	森寛京《京人形図》デジタル・データ	山口市立嘉年小学校	貸出

【各種研究会への講師派遣】

平成25年度

- 日 時 平成25年6月14日(金)
対 象 山口県造形教育研究会 支部長研修会 (50名)
講 師 萬屋健司
内 容 山口県立美術館の展覧会と学校連携授業について
- 日 時 平成25年7月22日(月)
対 象 美祢市中学校教育研究会 美術科研修会 (5名)
講 師 萬屋健司
内 容 油彩画の修復についてーシベリア・シリーズを例にー
- 日 時 平成25年7月31日(水)
対 象 岩国市・和木町小学校教育研究会 図画工作部会 (19名)
講 師 岡本麻美、萬屋健司
内 容 対話型鑑賞の実演・指導
- 日 時 平成25年8月6日(水)
対 象 第45回山口県造形教育研究ゼミナール大会 第6講座「鑑賞」(20名)
場 所 山口大学教育学部附属光小学校
講 師 岡本麻美、萬屋健司
内 容 対話型鑑賞の実演・指導

【10年経験者研修】

平成26年度

- 日 時 平成26年7月24日(木)～26日(土)
対 象 県立高森高等学校、県立山口総合支援学校みほり分校
場 所 山口県立美術館
参加者 2名

【情報発信・共有】

県内の教員・学芸員の日常的な連携（情報交換）をサポートするため、メーリングリストを運営する。

(1) 平成25年度

累計：教員・学芸員 14名

(2) 平成26年度

累計：教員・学芸員 38名

(3) HEART (ミュージアムタウン・ヤマグチ)

「ものづくりとコミュニケーション」をキー・コンセプトに、美術館や芸術家が地域の人々と一緒になって、街の歴史や日常の営みと関わりながら街づくりを行うことを目的として実施。山口県美術展覧会を軸に、アートマーケットやワークショップなど美術館（芸術）とまち（日常生活）をつなぐさまざまなアートプロジェクトを展開する。

第7回山口県総合芸術文化祭 HEART2013

主 催：ミュージアム・タウン・ヤマグチ2013実行委員会
 (山口県立美術館／山口市商店街連合会／山口商工会議所／山口市／山口県総合芸術文化祭実行委員会)
 会 期：平成26年3月13日(木)～30日(日) 16日間
 会 場：山口県立美術館・一の坂川エリア・山口市中心商店街



ポスター



チラシ表



チラシ裏

1：第67回山口県美術展覧会 (主催：山口県)

- (1) 開催期間 3月13日(木)～30日(日) (16日間)
- (2) 総入場者数 3,378名
- (3) ワークショップ
「自作を語る」入選・入賞者による作品解説 13回実施
- (4) 特別展示 昨年度大賞受賞者(逢坂日出夫・河野文彦・田中径)による新作展
- (5) 関連企画 東日本大震災復興支援HEART特別企画 文化財レスキュー・チャリティ・カレンダー2014
【内 容】 2011年・12年に引き続き、県美展に関わりの深い美術家12人の作品によるカレンダーを10月下旬より販売。収益金は、全国美術館会議が実施する「東日本大震災救援・支援活動募金」に寄付。また関連企画として「やまぐち煌きアーティスト展」(シンフォニア岩国主催)にて協力作家7名による作品展を開催(2013年11月23日～12月1日)。
【販売期間】 2013年10月～2014年3月末
【参加作家】 下瀬信雄、一瀬章雄、岡野幸絵、高林キヨ、牛尾篤、臼杵万理実、森下嘉昭、岡村邦彦、山科君代、井上雪人、金子司、河村純一郎
【販売実績】 1,025冊(美術館、山口市商店街連合会協力店舗、県内文化施設等計35ヶ所)
【収 益 金】 カレンダー制作費を除く238,385円を寄付

2：アート・マート

山口県立美術展覧会出身作家を紹介するミニ・ギャラリー、ミュージアム・グッズ、美術図書や絵本の店を開設し、美術館をアートづくしのマート（市場）を開催。

(1) アート・マート・ギャラリー

【日 時】3月13日(木)～30日(日)

【会 場】山口県立美術館ミュージアムショップ（入場無料）

【内 容】第50～67回山口県美術展覧会において優秀賞以上を受賞した作家のうち、希望者の作品を紹介、販売するほか、ミュージアム・グッズ、美術図書、絵本を販売。

(2) HEART関連企画

・N3ART Lab企画展 「嶋田日出夫展 HIDEO SHIMADA WORKS」

【日 時】3月2日(日)～23日(日)の金・土・日曜日 14：00～18：00

【会 場】N3ART Lab（山口県山口市駅通り1-7-7）

【内 容】山口を拠点に活動する美術家・中野良寿が中心となり運営するアートスペース「N3アートラボ」による企画をHEART関連企画として開催。

・ギャラリーナカノ HEART2013関連企画展（全2回）

【会 場】ギャラリーナカノ（一の坂川沿い千歳橋そば）

【内 容】長年に渡って県美展を見続けてきたギャラリーナカノの中野聡氏によるHEART関連企画。山口県美術展覧会ゆかりの作家を中心に紹介。

①「小田善郎展」

【会 期】3月13日(木)～23日(日) 11：00～19：00

②「秋貞勇・末永史尚2人展」

【会 期】3月26日(木)～30日(日) 11：00～19：00

3：アート・ルートーの坂

(1) 人形劇俳優“たいらじょう”によるワークショップ「新聞紙で劇遊び」

【日 時】3月21日(金・祝) 13：00～14：30

【会 場】山口県立美術館 講座室

【対 象】小学校1～3年生とその親（小学生低学年向け）

【出 演】たいらじょう（人形劇俳優）

【参 加 料】子ども1人 500円

【参加人員】49名

(2) 県美展ワークショップ 素材を楽しむ 手づくり絵の具で版画を刷る

・A みんなでワイワイ・美術体験のコース 「ペタペタ連続 凸版で表す命の足跡」

【日 時】3月15日(土) 10：00～16：00

【会 場】山口県立美術館 講座室ほか 参加料無料

【対 象】小学校4年生以上

【講 師】榎本寿紀（美術家）

【参加人員】20名

・B ひとりでじっくり・制作集中のコース 「いただきます！命のコラージュ版画」

【日 時】3月16日(日) 10：00～16：00

【会 場】山口県立美術館 講座室ほか 参加料無料

【対 象】小学校4年生以上

【講 師】榎本寿紀（美術家）

【参加人員】20名

(3) 美術館ボランティア企画 あなたもアーティスト

・「パステルであそぼう」

【日 時】3月22日(土) 14：00～15：30

【会 場】山口県立美術館 ロビー 参加料無料

【参加人員】53名

・「墨絵を描こう」

【日 時】3月29日(土) 14：00～15：30

【会 場】山口県立美術館 ロビー 参加料無料

【参加人員】25名

(4) かみの工作所コーナー

・「ペーパー・ゲーム・センター」

【日 時】 3月15日(土)・16日(日)・22日(土)・23日(日)・29日(土)・30日(日)

【会 場】 山口県立美術館 ロビー 参加料無料

【参加人員】 642名

・「オリジナルの空気の器をつくろう！」

【日 時】 3月11日(火)～3月30日(日)

【会 場】 山口県立美術館ミュージアムショップ

【材 料 費】 500円

【参加人員】 78名

4：アート・フォレスト県美の森

「県美の森」エリアを会場に、親子で楽しめる防災工作やレスキュー体験教室を開催
県美の森で遊ぼう！～親子で学ぶ防災教室 第2弾～

【日 時】 3月23日(日)

・親子で学ぼう！「楽しい防災教室」 10：00～12：00

・仲間を助けよう！「キッズ・レスキュー体験」 13：00～15：00

【会 場】 山口県立美術館 中庭《県美の森》参加料無料

【講 師】 西村亘（NPO法人ほうべん子供冒険・防災学校代表）

【参加人員】 24名

第8回山口県総合芸術文化祭 HEART2014

- 主 催：ミュージアム・タウン・ヤマグチ2014実行委員会
 (山口県立美術館／山口市商店街連合会／山口商工会議所／山口市／山口県総合芸術文化祭実行委員会)
- 会 期：平成26年10月2日(木)～19日(日) 17日間
- 会 場：山口県立美術館・一の坂川エリア・山口市中心商店街



ポスター



チラシ表



チラシ裏

1：第68回山口県美術展覧会 (主催：山口県)

- (1) 開催期間 開催期間 10月2日(木)～19日(日) (17日間)
- (2) 総入場者数 4,339名
- (3) ワークショップ
「自作を語る」入選・入賞者による作品解説 7回実施
「私のイチオシ」来館者イチオシ作品の投票コメントを館内に掲示
- (4) 特別展示 昨年度大賞受賞者(山本新治・TAO)による新作展

2：アート・マーケット

山口県立美術展覧会出身作家を紹介するミニ・ギャラリー、ミュージアム・グッズ、美術図書や絵本の店を開設し、美術館をアートづくりのマーケット(市場)を開催。

- (1) アート・マーケット・ギャラリー
【日 時】10月2日(木)～19日(日)
【会 場】山口県立美術館ミュージアムショップ(入場無料)
【内 容】第50～68回山口県美術展覧会において優秀賞以上を受賞した作家のうち、希望者の作品を紹介、販売するほか、ミュージアム・グッズ、美術図書、絵本を販売。
- (3) HEART関連企画
 - ・ギャラリーナカノ HEART2014関連企画展(全2回)
 - 【会 場】ギャラリーナカノ(一の坂川沿い千歳橋そば)
 - 【内 容】長年に渡って県美展を見続けてきたギャラリーナカノの中野聡氏によるHEART関連企画。山口県美術展覧会ゆかりの作家を中心に紹介。
 - ①「小さな光 佐々木範子 個展」
【会 期】10月1日(水)～6日(月) 11:00～19:00
 - ②「県美界限展2014」
【会 期】10月10日(金)～19日(日) 11:00～19:00
【出展作家】池田千鶴、木原千春、河野如華、手島大輔、広沢仁、三浦朋子

・まちなかアートイベント ハンドメイド市「第2回teteマルシェ」

【日 時】10月4日(土)・5日(日) 11:00~17:00

【会 場】どうもん広場 (山口市中心商店街)

【主 催】teteyoto

【来 場 者】250名

【内 容】県内各地で活躍する作家によるアートフリーマーケットを開催

3:アート・ルートーの坂

(1)「わくわくさん」でおなじみ! くぼたまさと工作ショー in 山口県美

【日 時】10月12日(日) ①11:00~12:00 ②13:30~14:30 (全2回)

【会 場】山口県立美術館 講座室

【対 象】4歳~小学生低学年とその保護者 参加料無料

【出 演】くぼたまさと

【参加人員】232名

(2) 県美展ワークショップ 展覧会+ワタシ

・A みんなでワイワイ・美術体験のコース 「ピクチャーカメレオンズ 作品にとけ込むカラフルスーツ」

【日 時】10月4日(土) 10:00~16:00

【会 場】山口県立美術館 講座室ほか 参加料無料

【対 象】小学校4年生以上

【講 師】榎本寿紀(美術家/大分県立美術館エデュケーター)

【参加人員】6名

・B ひとりでじっくり・制作集中のコース 「ザ・インスタント・インスタレーション~いま、ここで」

【日 時】10月5日(日) 10:00~16:00

【会 場】山口県立美術館 講座室ほか 参加料無料

【対 象】小学校4年生以上

【講 師】榎本寿紀(美術家/大分県立美術館エデュケーター)

【参加人員】13名

(3) ちびっこ工作コーナー ダンボール工作を楽しもう!

【日 時】10月4日(土)~19日(日)までの土・日・祝日 10:00~15:30

【会 場】山口県立美術館 ロビー

【参加人員】244名

【材 料 費】100円

(4) 県美展アーティスト交流企画 末長史尚ワークショップ 「組み替え絵画をつくる」

【日 時】10月11日(土) 13:30~16:00

【会 場】中市コミュニティーホール(Nac) 参加料無料

【対 象】高校生以上

【参加人員】22名

4:アート・フォレスト県美の森

(1) 県美の森づくり

【日 時】10月19日(日) 8:00~9:30

【会 場】山口県立美術館中庭《県美の森》 参加料無料

【主 催】美術館に彩り豊かな森をつくる実行委員会

【参加人員】61名

(2) 県美の森で遊ぼう!~親子で学ぶ防災教室 第3弾~

【日 時】10月19日(日)

【会 場】山口県立美術館中庭《県美の森》 参加料無料

【講 師】西村亘(NPO法人ほうべん子供冒険・防災学校代表)

・親子で学ぼう! 「楽しいエコ・防災教室」 10:30~12:00 参加料無料

【参加人員】39名

・仲間を助けよう! 「キッズ・レスキュー体験」 13:00~15:00 参加料無料

【参加人員】41名

(4) 雪舟ウィーク

山口県に2つある県立美術館（山口県立美術館と山口県立萩美術館・浦上記念館）のコレクションの魅力をしっかり和味わっていただき、美術館に親しんでいただくきっかけとすることを目的として、平成25年度から、両館において、「美術館ウィーク」と題した事業を開催することとなった。

山口県立美術館においては、そのコレクションのなかでも最重要作品である雪舟の重要文化財3点を、山口とその歴史を象徴する文化資源として確立するとともに、地域を知り郷土愛を育む教育資源として、また観光交流を促進する観光資源として活用し、山口市および山口県の地域力を高めることを目的として、毎年11月の第1週（文化週間）を「雪舟ウィーク」と題し、その前後の時期に、地域と連携をとりながら、事業展開することとした。

平成25年度

毎年11月に開催されている(1)山口県立美術館主催事業、(2)山口商工会議所主催事業、(3)毛利博物館主催事業を、「雪舟ウィーク」というタイトルのもとに集約し、それぞれの事業を一つのチラシにまとめて広報展開を図った。



チラシ表



チラシ裏

(1)山口県立美術館主催事業（会場：山口県立美術館）

- ・コレクション展「雪舟と雲谷派5 雪舟」 10月29日(火)～12月1日(日)

＊詳細はコレクション展の項を参照

雪舟の重要文化財3点を同時公開、雪舟筆「全岩東純像」（瑠璃光寺蔵）を特別出品、雲谷等益筆「山水図屏風」（寄託作品）を初公開

- ・伝雪舟筆「山水図屏風」を一日（11月2日）だけ、展示室畳上において露出展示
- ・雪舟研究会公開講座「雪舟と『富士山図』」 11月23日(土・祝)

＊詳細は雪舟研究会の項を参照

(2)山口商工会議所主催事業（会場：山口市中市コミュニティホール）

- ・第4回水墨画模写競技大会 11月16日(土)
- ・第13回「あなたも雪舟」絵手紙展展示（応募全作品） 11月16日(土)、17日(日)
（11月19日(火)から12月1日(日)までは、入賞作品のみ、美術館ロビーにて展示）

(3)毛利博物館主催事業（会場：毛利博物館）

- ・特別展「国宝」 10月31日(木)～12月8日(日)まで

平成26年度

前年に引き続いて(1)山口県立美術館主催事業、(2)山口商工会議所主催事業、(3)毛利博物館主催事業を、一つのチラシにまとめて広報展開を図った。ただし、山口県立美術館の開催事業「コレクション特別企画 雪舟と雲谷派」が前年に比してかなり拡大したため、この事業のチラシに全事業の情報を集約して、広報展開を図った。

また、本年においては、(1)と(3)の事業の連携を深めるため、毛利博物館主催「国宝」展の主要出品作品である国宝・雪舟筆「四季山水図巻（山水長巻）」の高精細映像を、山口県立美術館展示室において上映した。

(1)山口県立美術館主催事業（会場：山口県立美術館）

- ・コレクション特別企画「テーマでくらべる 雪舟と雲谷派」10月30日(木)～11月30日(日)

＊詳細は特別展の項を参照

雪舟の重要文化財3点を同時公開、雪舟筆「四季山水図巻」の高精細映像展示、雪舟筆「四季山水図巻」論争史コーナー設営

- ・雲谷等與「耕作図屏風」を1日（11月3日）だけ、展示室畳上において露出展示
- ・雪舟研究会公開講座 「雪舟と雲谷庵」 11月29日（土・祝）

*詳細は雪舟研究会の項を参照

(2)山口商工会議所主催事業「雪舟を学ぶ」（会場：山口市中市コミュニティホール）

- ・第5回水墨画模写競技大会 10月26日(日)
- ・第14回「あなたも雪舟」絵手紙展展示（応募全作品） 10月25日(土)、26日(日)
（10月30日(木)から11月30日(日)までは、入賞作品のみ、美術館ロビーにて展示）

(3)毛利博物館主催事業（会場：毛利博物館）

- ・特別展「国宝」 10月30日(木)～12月7日(日)まで

(5) 美術館ボランティア

美術館活動をサポートする組織としてボランティア制度を設け、ボランティアの知識や経験を活かした活動を通じて、県民の美術館活動への理解を広めるとともに、その活動が県民にとって美術により深く接する場となることをねらいとする。

平成25年度

1・2・3・4期生による活動を行った。それぞれグループに分かれて、展覧会などにあわせた企画をたてて実施した。

グループ別活動内容

【教育普及班】

松田正平展 - 悠久の周防灘 -

- ・こどものためのギャラリー・トーク「みんなでみよう」

会期中毎週土曜日 11:00～ 4回実施 参加者子ども14人、他

ナント美術館名品展

- ・こどものためのギャラリー・トーク「みんなでみよう」

会期中毎週土曜日 11:00～ 5回実施 参加者子ども45人

松林桂月展

- ・こどものためのギャラリー・トーク「みんなでみよう」

会期中毎週土曜日 11:00～ 4回実施 参加者子ども4人、他

五百羅漢図展

- ・こどものためのギャラリー・トーク「みんなでみよう」

会期中毎週土曜日 11:00～ 5回実施 参加者子ども約40人、他

【展覧会サポート班】

松田正平展 - 悠久の周防灘 -

- ・「色で遊ぼう」(数色のソフトパステルを削った粉末をティッシュペーパーになじませ、はがき大の紙に絵を描く。色の重なり具合を楽しむ)

ナント美術館名品展

- ・「ナントDEクイズ」(ナントにまつわるクイズを作成し、パネルにして展示)

松林桂月展

- ・「墨絵を描こう！」(濃淡2種類の墨を使ってはがき大の紙に自由に絵を描く。色の重なり具合を楽しむ)

五百羅漢図展

- ・「勝手にランキング!!」(ボランティアのセレクションによる、五百羅漢のキャラクターに注目したパネル展示)

山口県美術展覧会

- ・「あなたもアーティスト - パステルで遊ぼう！」(松田正平展と同内容)

- ・「あなたもアーティスト - 墨絵を描こう！」(松林桂月展と同内容)

平成26年度

1・2・3・4期生による活動を行った。それぞれグループに分かれて、展覧会などにあわせた企画をたてて実施した。

グループ別活動内容

【教育普及班】

大浮世絵展

- ・こどものためのギャラリー・トーク「みんなでみよう」
会期中土曜日6回実施 11:00～ 参加者こども27人、他

放浪の天才 山下清展

- ・こどものためのギャラリー・トーク「みんなでみよう」
会期中土曜日5回実施 11:00～ 参加者こども約70人、他

雪舟と雲谷派展

- ・こどものためのギャラリー・トーク「みんなでみよう」
会期中土曜日4回実施 11:00～ 参加者こども4人、他

超絶技巧！明治工芸の粹展

- ・こどものためのギャラリー・トーク「みんなでみよう」
会期中土曜日2回実施 11:00～ 参加者こども14名、他

【展覧会サポート班】

香月泰男展

- ・以前作成した、県立美術館から香月泰男美術館までのロードマップを一部修正、配布

大浮世絵展

- ・「飛び出す浮世絵 -3Dアートをつくろう」(切る、折るの作業によって、平面作品を立体作品へ変化させる)

山下清展

- ・「山下清のことば」(山下清の日記等から言葉を抜粋したパネル展示)

超絶技巧！明治工芸の粹展

- ・「これぞ私のクールジャパン！ -山口で会った外国人に聞きました-」(山口に在住・滞在している外国人に対し、日本におけるクールなモノについて質問、個人ごとに回答をパネル掲示する)

山口県美術展覧会

- ・「私のイチオシ！」(来館者によるイチオシ作品についてのコメントを掲示、紹介)

その他

- ・美術館周辺ランチマップの更新(5月、6月)

(6) 県立美術館メンバーズクラブ

山口県の県立美術館2館の展覧会等を通じて、美術に広く親しんでいただき、地域文化の向上に寄与することを目的に、平成26年度より山口県立美術館および、山口県立萩美術館・浦上記念館2館共通の会員組織、「県立美術館メンバーズクラブ」を設立。

[会 費] 一般会員：2,000円、学生会員（19歳以上の学生）：1,700円、シニア会員（70歳以上）：1,400円

[特 典] ①県立美術館2館の企画展が3回まで無料、4回目以降は半額

②開催中の展覧会図録を割引販売

③2館の展覧会、イベント情報などを定期的に郵送

④館内カフェでの割引特典

⑤会員限定イベントの開催

[募集期間] 平成26年4月1日(火)～7月31日(木)

[有効期間] 平成27年3月31日(火)まで

[26年度入会者数] 3,130名

(7) 博物館実習

平成25年度

A日程

■実習生学校別内訳

- | | | |
|----------------|----|-------|
| 1 京都造形大学（芸術学部） | 2名 | |
| 2 佛教大学（歴史学部） | 1名 | 2大学3名 |

■実習内容

6月11日(火)	8:40~9:20	オリエンテーション
	9:30~11:00	【講義】山口県立美術館（歴史、特色等）について
	11:10~12:10	館内見学
	13:00~14:30	【講義】展覧会の企画（コレクション展・企画展）について①
6月12日(水)	14:40~16:10	【講義】展覧会の企画（コレクション展・企画展）について②
	9:00~10:30	【講義】美術館の収集活動について
	10:40~12:10	【講義】美術品の保存修復について
	13:00~15:00	作品の取り扱い実習
6月13日(木)	15:10~16:10	作品解説実演準備
	9:00~10:30	【講義】美術館の普及活動について
	10:40~12:10	【講義】ワークショップについて
	13:00~15:10	作品解説実演準備
6月14日(金)	15:20~16:10	作品解説実演
	9:00~10:30	【講義】地域における美術館の役割について
	10:40~12:10	【講義】資料の保存・活用について
	13:00~16:10	ワークショップ事前説明、準備
6月15日(土)	9:00~16:10	ワークショップ補助
6月16日(日)	9:00~16:10	ワークショップ補助
6月17日(月)	9:00~12:10	ワークショップ後片付け、振り返り
	13:00~14:10	総括
	15:00~16:10	実習ノート等記入

B日程

■実習生学校別内訳

- | | | |
|--------------|----|-------|
| 1 山口大学（人文学部） | 1名 | 1大学1名 |
|--------------|----|-------|

■実習内容

6月11日(火)~13日(木)まではA日程に参加

11月 8日(金)	9:00~9:30	オリエンテーション
	9:40~10:30	【講義】美術館におけるワークショップについて
	10:40~12:10	展示室見学
11月 9日(土)	13:10~16:10	ワークショップ事前説明、準備
	9:00~16:10	ワークショップ補助
	11月10日(日)	9:00~16:10
11月11日(月)	9:00~10:00	ワークショップ後片付け、振り返り
	10:10~12:10	学芸業務補助
	13:10~14:30	学芸業務補助
	14:40~16:10	総括、実習ノート等記入

C日程

■実習生学校別内訳

1 帝京科学大学 (生命環境学部)	1名	
2 山口県立大学 (国際文化学部)	5名	2大学6名

■実習内容

2月19日(水)	8:40~9:00	オリエンテーション
	9:00~10:30	【講義】山口県立美術館、県美展、HEARTについて
	10:40~12:10	館内見学
	13:00~14:30	【講義】美術館の普及活動について
2月20日(木)	14:40~16:10	【講義】展覧会の企画 (コレクション展・企画展) について
	9:00~10:00	【講義】美術品の保存修復について
	10:10~12:10	作品の取り扱い (実習)
2月21日(金)	13:00~13:20	県美展搬入についての説明
	13:20~16:10	搬入準備
	9:00~12:10	実際の作品の取り扱い (県美展 搬入作業)
2月22日(土)	13:00~16:10	実際の作品の取り扱い (県美展 搬入作業)
	9:00~12:10	実際の作品の取り扱い (県美展 搬入作業)
2月23日(日)	13:00~16:10	実際の作品の取り扱い (県美展 搬入作業)
	9:00~12:10	実際の作品の取り扱い (県美展 搬入作業)
2月25日(火)	13:00~16:10	実際の作品の取り扱い (県美展 搬入作業)
	9:00~12:10	実際の作品の取り扱い (県美展 審査会作業)
2月26日(水)	13:00~16:10	実際の作品の取り扱い (県美展 審査会作業)
	9:00~12:10	実際の作品の取り扱い (県美展 審査会見学)
	13:00~15:00	実際の作品の取り扱い (県美展 展示見学・補助)
	15:00~16:10	総括

平成26年度

■実習生学校別内訳

1 東亜大学 (デザイン学部)	2名	
2 山口県立大学 (国際文化学部)	3名	
3 山口大学 (人文社会学部)	4名	3大学9名

■実習内容

9月10日(水)	8:40~9:00	オリエンテーション
	9:00~10:30	【講義】山口県立美術館、県美展、HEARTについて
	10:40~12:10	館内見学
	13:00~14:30	【講義】美術品の保存修復について
9月11日(木)	14:40~16:10	【講義】展覧会の企画 (コレクション展・企画展) について
	9:00~10:00	【講義】美術館の普及活動について
	10:10~12:10	作品の取り扱い (実習)
9月12日(金)	13:00~13:20	県美展搬入についての説明
	13:20~16:10	搬入準備
	9:00~12:10	実際の作品の取り扱い (県美展 搬入作業)
9月13日(土)	13:00~16:10	実際の作品の取り扱い (県美展 搬入作業)
	9:00~12:10	実際の作品の取り扱い (県美展 搬入作業)
9月14日(日)	13:00~16:10	実際の作品の取り扱い (県美展 搬入作業)
	9:00~12:10	実際の作品の取り扱い (県美展 搬入作業)
9月16日(火)	13:00~16:10	実際の作品の取り扱い (県美展 搬入作業)
	9:00~12:10	実際の作品の取り扱い (県美展 審査会作業)
9月17日(水)	13:00~16:10	実際の作品の取り扱い (県美展 審査会作業)
	9:00~12:10	実際の作品の取り扱い (県美展 審査会見学)
	13:00~15:00	実際の作品の取り扱い (県美展 展示見学・補助)
	15:00~16:10	総括

(8) その他の事業

1. 美術館ニュース「天花」

「天花」のタイトルは、大内時代、雪舟が山口市天花（てんげ）に雲谷庵をいとなんだという故事にちなんで命名されたもの。第1-60号まではB5版、61-79号まではA4版であったが、第80号から現行のA5版となっており、年間スケジュール、展覧会や各種活動の紹介、所蔵品紹介を行っている。

第119号（平成25年4月）

- ・コレクション展
- ・生誕100年
松田正平展 悠久の周防灘
- ・ナント美術館名品展
－フランス近代美術の輝き－
- ・没後50年松林桂月展
－水墨を極め、画中に詠う－
- ・ごあいさつ
- ・年間スケジュール



第120号（平成25年10月）

- ・コレクション展
- ・大本山増上寺秘蔵 五百羅漢図
－幕末の鬼才 狩野一信
- ・HEART2013
- ・入館者600万人突破
- ・館内施設紹介
- ・雪舟ウィーク
- ・年間スケジュール



第121号（平成26年3月）

- ・コレクション展
〈雪舟と雲谷派2〉
- ・国際浮世絵学会創立50周年記念
大浮世絵展
- ・放浪の天才画家 山下清
- ・超絶技巧！明治の工芸の粋
－これぞ、明治のクールジャパン！－
- ・没後40年 香月泰男展
シベリア・シリーズと原画
- ・雪舟と雲谷派
- ・イベントリポート
- ・館内インフォメーション
- ・年間スケジュール



第122号（平成26年9月）

- ・コレクション展
- ・超絶技巧！明治の工芸の粋
－これぞ、明治のクールジャパン！－
- ・テーマでくらべる
雪舟と雲谷派
- ・館内リポート
- ・HEART2014
- ・第68回 山口県美術展覧会
- ・年間スケジュール



2. 指定管理者自主企画事業

平成25年度

■夏休み親子企画 こま撮りアニメーション「こまねこ」上映会

日 時：8月10日(土)・11日(日)・13日(火)・14日(水) 計4日間
各日3回上映 (①11:00～、②13:00～、③15:00～、各45分間)

会 場：山口県立美術館講座室

料 金：一般：500円、中・高校生：300円、小学生以下：無料

内 容：こま撮り映画「こまねこ」シリーズ3作品に加え、なまいきヴォルグ「えほんムービー」の4作品を上映

参 加 者：計 963名

■田中雅弘チェロコンサート

日 時：11月9日(土) 15:00～

会 場：山口県立美術館 前庭ウッドデッキ

料 金：無料

出 演：チェロ：田中 雅弘、ピアノ：喜多村 裕美

内 容：東京都交響楽団首席チェロ奏者である田中雅弘によるチェロの演奏会を屋外スペースで開催。

山口県立萩美術館・浦上記念館と共同開催。同日午前中は萩美術館・浦上記念館で開催。

参 加 者：250名

企画協力：シンフォニア岩国指定管理者サントリーパブリシティサービスグループ



田中雅弘チェロコンサート

■お正月開館イベント

期 間：1月2日(木)～5日(日) 計4日間

内 容：

①コレクション展 ギャラリートーク

・日 時：1月2日(木)～5日(日)の計4日間、5回開催

・参 加 者：計265名

②特別展示 雲谷等益「雪景山水図屏風」の露出展示

・日 時：1月2日(木) 9:00～17:00

③新春ミュージアムコンサート「琴の調べ」

・日 時：1月2日(木)、3日(金) 各日11:30～、13:00～ 計4回演奏

・会 場：山口県立美術館ロビー

・料 金：無料

・出 演：玉重 智基

・参 加 者：計330名

④呈茶

・日 時：1月2日(木)、3日(金) 各日11:00～15:00

・会 場：山口県立美術館ロビー

・料 金：200円

・協 力：表千家同門会山口県支部 (1月2日(木))

裏千家淡交会山口支部 (1月3日(金))

・参 加 者：計304名

⑤お正月伝統遊びコーナー

・日 時：1月2日(木)～5日(日) 9:00～17:00

・会 場：山口県立美術館ロビー

・料 金：無料

・参 加 者：339名

⑥美術館お年玉プレゼント

・日 時：1月2日(木)～5日(日) 9:00～17:00

・内 容：各日コレクション展観覧者先着50名に雪舟グッズ、ポストカードなど記念品をプレゼント。

・参 加 者：200名



呈茶

平成26年度

■クイズで知る山口県立美術館

日 時：11月1日(土)～7日(金)、計7日間

内 容：山口県立美術館および収蔵作品にちなんだクイズラリーを開催。全問正解者に記念品を贈呈

参 加 者：713名（全問正解者）

■秋のミュージアム・コンサート

日 時：11月9日(日) 11：00～

会 場：山口県立美術館 ロビー

料 金：無料

出 演：BEANS〈甲斐尚美（サクソフォン）、山根一彦（パーカッション）、原田礼子（ピアノ）〉

内 容：山口・宇部市を中心に活動し山口芸術短期大学卒業生で構成されるユニット、「BEANS」の3名によるロビーコンサート。山口県立萩美術館・浦上記念館と共同開催。同日午後には萩美術館・浦上記念館で開催。

参 加 者：90名

企画協力：シンフォニア岩国指定管理者サントリーパブリシティサービスグループ



秋のミュージアム・コンサート

■いい夫婦の日イベント

日 時：11月22日(土)

内 容：「いい夫婦の日」にちなんでご夫婦で来館された展覧会入場のお客様に、記念品をプレゼント

参 加 者：44組88名

■お正月開館イベント

期 間：1月2日(金)～4日(日) 計3日間

内 容：

①コレクション展 ギャラリートーク

・日 時：1月2日(金)～4日(日)の計3日間、3回開催

・参 加 者：計105名

②新春ミュージアムコンサート「琴の調べ」

・日 時：1月2日(金)、3日(土) 各日11：30～、13：00～ 計4回演奏

・会 場：山口県立美術館ロビー

・料 金：無料

・出 演：箏玲会

・参 加 者：計250名

③お正月伝統遊びコーナー

・日 時：1月2日(金)～4日(日) 9：00～17：00

・会 場：山口県立美術館ロビー

・料 金：無料

・参 加 者：228名

④アート年賀状 作品展示

・日 時：1月2日(金)～12日(月・祝) 9：00～17：00

・内 容：事前に募集した年賀状（オリジナル部門、ぬりえ部門）を館内ロビーに展示。応募作品の中から抽選で10名に作品画像をオリジナル切手にしてプレゼント。

・応募点数 259点

⑤館内カフェ「ラ・プリエムブルーのお正月」

・日 時：1月2日(金)～4日(日) 9：00～17：00

・内 容：福袋、フランスの新年のお菓子「ガレット・デ・ロワ」を数量限定販売、お正月限定ランチなど

・実 績：客数192名

3. シンフォニア岩国との連携事業

山口県民文化ホールいわくに シンフォニア岩国主催の展覧会事業に企画協力として参画。

平成25年度

やまぐち煌きアーティスト展

日 時：平成25年11月23日(土・祝)～12月1日(日)

場 所：シンフォニア岩国企画展示ホール

料 金：無料

■学芸員によるギャラリートーク

日 時：11月30日(土) 11：00～、14：00～

平成26年度

やまぐち煌きアーティスト展

日 時：平成26年11月22日(土)～11月30日(日)

場 所：シンフォニア岩国企画展示ホール

料 金：無料

■学芸員によるギャラリートーク

日 時：11月24日(月・祝) 11：00～、14：00～

事業

Ⅲ. 調査研究事業

雪舟研究会

平成25年度

■研究委員会

第1回

日時 平成25年7月9日(火) 15:00～16:30

出席	影山純夫 (神戸大学名誉教授)	研究委員長
	井土誠 (元下関市立美術館館長)	研究委員
	尾崎千佳 (山口大学人文学部准教授)	研究委員
	菊屋吉生 (山口大学教育学部教授)	研究委員
	古賀信幸 (山口市総合政策部文化政策課市史編さん室長)	研究委員
	真木隆行 (山口大学人文学部准教授)	研究委員
	吉積久年 (山口県文書館副館長)	研究委員
	和田秀作 (山口県文書館専門研究員)	研究委員
	綿田稔 (東京文化財研究所文化財アーカイブズ研究室長)	研究委員
	荏開津通彦 (山口県立美術館学芸課主査)	研究委員

第2回

日時 平成25年11月23日(土) 16:45～17:15

出席	影山純夫 (神戸大学名誉教授)	研究委員長
	井土誠 (元下関市立美術館館長)	研究委員
	尾崎千佳 (山口大学人文学部准教授)	研究委員
	菊屋吉生 (山口大学教育学部教授)	研究委員
	古賀信幸 (山口市総合政策部文化政策課市史編さん室長)	研究委員
	真木隆行 (山口大学人文学部准教授)	研究委員
	吉積久年 (山口県文書館副館長)	研究委員
	和田秀作 (山口県文書館専門研究員)	研究委員
	綿田稔 (東京文化財研究所文化財アーカイブズ研究室長)	研究委員
	荏開津通彦 (山口県立美術館学芸課主査)	研究委員

■研究報告

日時 平成25年7月9日(火) 15:00～15:50

場所 山口県立美術館会議室

報告者 福田善子 (山口県立美術館専門学芸員)

題目 近世初期画壇における雪舟画受容をめぐる一伝雪舟筆「富士三保清見寺図」を中心に

■公開講座

日時 平成25年11月23日(土) 14:00～16:30

場所 山口県立美術館講座室

題目 雪舟と富士山図

基調講演

演題:「富士三保清見寺図」の変貌

講師: 山下善也 (東京国立博物館主任研究員)

シンポジウム

パネリスト: 吉積久年 (山口県文書館)

荏開津通彦 (山口県立美術館学芸課主査)

福田善子 (山口県立美術館専門学芸員)

ゲスト: 山下善也 (東京国立博物館主任研究員)

コーディネーター: 菊屋吉生 (山口大学教育学部教授)

■研究誌『天開圖畫』の刊行 (平成26年3月27日)

茶の湯と雪舟作品 影山純夫

茶掛としての日本絵画 依田徹

永青文庫所蔵の伝雪舟筆 山水図について 三宅秀和

平成26年度

■研究委員会

第1回

日時 平成26年7月8日(火) 16:00～17:15

場所 山口県立美術館会議室

出席	影山純夫 (神戸大学名誉教授)	研究委員長
	井土誠 (元下関市立美術館館長)	研究委員
	尾崎千佳 (山口大学人文学部准教授)	研究委員
	菊屋吉生 (山口大学教育学部教授)	研究委員
	古賀信幸 (山口市総合政策部文化政策課市史編さん室長)	研究委員
	真木隆行 (山口大学人文学部准教授)	研究委員
	吉積久年 (山口県文書館副館長)	研究委員
	和田秀作 (山口県文書館専門研究員)	研究委員
	荏開津通彦 (山口県立美術館学芸課主査)	研究委員

第2回

日時 平成26年11月29日(土) 16:45～17:15

場所 山口県立美術館会議室

出席	影山純夫 (神戸大学名誉教授)	研究委員長
	井土誠 (元下関市立美術館館長)	研究委員
	尾崎千佳 (山口大学人文学部准教授)	研究委員
	菊屋吉生 (山口大学教育学部教授)	研究委員
	古賀信幸 (山口市総合政策部文化政策課市史編さん室長)	研究委員
	真木隆行 (山口大学人文学部准教授)	研究委員
	吉積久年 (山口県文書館副館長)	研究委員
	和田秀作 (山口県文書館専門研究員)	研究委員
	荏開津通彦 (山口県立美術館学芸課主査)	研究委員

■研究報告

日時 平成26年7月8日(火) 16:00～17:00

場所 山口県立美術館会議室

報告者 井土誠 (元下関市立美術館館長)

題目 「雲谷庵」が示唆する雪舟の諸問題

■公開講座

日時 平成26年11月29日(土) 13:00～16:30

場所 菜香亭・雲谷庵跡

題目 雪舟と雲谷庵

基調講演

演題：雲谷庵が示唆する雪舟の諸問題

講師：井土誠 (元下関市立美術館館長)

シンポジウム

パネリスト：影山純夫 (神戸大学名誉教授)

綿田稔 (文化庁文化財部美術学芸課文化財調査官)

荏開津通彦 (山口県立美術館学芸課主査)

ゲスト：井土誠 (元下関市立美術館館長)

コーディネーター：菊屋吉生 (山口大学教育学部教授)

雲谷庵跡見学会

解説：古賀信幸 (山口市総合政策部文化政策課市史編さん室長)

事業

IV. 収集管理保存事業

(1) 館蔵品寄託品貸出利用状況

作品	作者	貸出期間	貸出先	展覧会名等
定家詠十二ヶ月花鳥人物図屏風	月岡雪鼎	2013.4.3-2013.6.18	島根県立石見美術館	和歌と美術
釋寛量僧士(シヤツ)	殿敷侃	2013.7.22-2013.9.3	はつかいち美術ギャラリー	第17回平和美術展 殿敷侃展
釋妙昭信女A(じゅばん)	〃	〃	〃	〃
花水木ニ小禽図	玉村方久斗	2013.8.26-2013.11.13	島根県立石見美術館	一木一草に神をみる 自然と美術
萌芽	福田翠光	〃	〃	〃
毛利隆元画像	〃	2013.10.18-2013.12.12	安芸高田市歴史民俗博物館	毛利隆元
秋水群雁図	松林桂月	2013.11.26-2014.06.13	田原市博物館・練馬区立美術館	没後50年 松林桂月展
長門峡図	〃	〃	〃	〃
仙峡聴泉図	〃	〃	〃	〃
愛吾廬	〃	〃	〃	〃
魚貝類写生(1冊)	〃	〃	〃	〃
雁来紅朝顔図	松林雪貞	〃	〃	〃
初夏	藤田隆治	2013.12.13-2014.3.11	海の見える社美術館	内なる美から外なる美へー大正から昭和初期の日本画
山嶺	岩崎譯	〃	〃	〃
夜	岩崎譯	〃	〃	〃
喫茶室	田口壮	〃	〃	〃
梅妃	中村貞以	〃	〃	〃
六地藏(大正8年8月31日)	伊藤柏台	〃	〃	〃
叢(大正9年6月12日)	伊藤柏台	〃	〃	〃
樹(大正9年5月10日)	伊藤柏台	〃	〃	〃
化粧	梶本武雄	〃	〃	〃
梳る女	梶本武雄	〃	〃	〃
黄初平	樋口富麻呂	〃	〃	〃
春宵頁之図	樋口富麻呂	〃	〃	〃
「榑崎鉄香関連資料 スケッチ等96点」より3点	榑崎鉄香	〃	〃	〃
雪姫	梶本武雄	〃	〃	〃
阿国	梶本武雄	〃	〃	〃
北へ西へ	香月泰男	2014.3.6-2014.6.6	香月泰男美術館	香月泰男没後40年 香月泰男《シベリヤ・シリーズ》より
アムール	〃	〃	〃	〃
涅槃	〃	〃	〃	〃
黒い太陽	〃	〃	〃	〃
日本海	〃	〃	〃	〃
星(有刺鉄線)夏	〃	〃	〃	〃
海(ペーチカ)冬	〃	〃	〃	〃
ナホトカ	〃	〃	〃	〃
月夜山水図	狩野芳崖	2014.3.12-2014.5.15	府中市美術館	江戸絵画の19世紀
雪中松鳩・雪中竹雀図	小田海徳	〃	〃	〃
四季花鳥図屏風	狩野松栄	2014.6.19-2014.8.26	九州国立博物館	海を越えた再会ークリーブランド美術館の仲間たちー
トルソ	植木茂	2014.8.25-2014.11.20	島根県立美術館	生誕100年 植木茂
仏頭〔仏陀〕	〃	〃	〃	〃
トルソ	〃	〃	〃	〃
トルソ	〃	〃	〃	〃
子供／トルソ〔子供〕	〃	〃	〃	〃
トルソ	〃	〃	〃	〃
男／人〔男／トルソ〕	〃	〃	〃	〃
連	〃	〃	〃	〃
作品	〃	〃	〃	〃
トルソ	〃	〃	〃	〃
漂船	〃	〃	〃	〃
トルソ	〃	〃	〃	〃
椅子	〃	〃	〃	〃
体	〃	〃	〃	〃
トルソ	〃	〃	〃	〃
トルソ	〃	〃	〃	〃
兔小屋の住人	〃	〃	〃	〃
トルソ	〃	〃	〃	〃
トルソ	〃	〃	〃	〃
傲高克恭山水図巻	雪舟	2014.8.26-2014.10.15	根津美術館	名画を切り、名器を継ぐー美術にみる愛蔵のかたちー
朕	香月泰男	2015.1.14-2015.3.30	宮城県美術館	針生一郎と戦後美術
左官	香月泰男	〃	〃	〃
バイカル	香月泰男	〃	〃	〃
洪水	中本達也	〃	〃	〃
憩える海人	中本達也	〃	〃	〃
働く人	朝倉摂	〃	〃	〃
ドローイング 新聞 毎日新聞 1976年11月6日	吉村芳生	2015.3.12-2015.5.13	ウッドワン美術館	吉村芳生展ー色鉛筆で刻む生命のキセキ
365日の自画像 1981.7.24-1982.7.23	〃	〃	〃	〃
FISH-848	〃	〃	〃	〃

(2) コレクション

※凡例

以下の目録は2013（平成25）年4月から2015（平成27）年3月までに収蔵された館蔵品を網羅したものである。作品の整理方針及び個々のデータの記録法は『山口県立美術館蔵品目録1979』にほぼ準拠している。すなわち、作品は日本画（J）・洋画（O）・水彩画（W）・素描（D）・版画（P）・写真（Ph）・彫刻（S）・工芸（C）・書（Ca）・資料（R）の順で編集し、また個々のデータについては、整理番号・作者・生没年・タイトル・制作年・材質技法・寸法・収集年度とその経緯の順で記した。整理番号は『山口県立美術館年報 平成23～24年』に続く通し番号である。



J-306

雲谷等爾

UNKOKU, Toji

1615～1671

龍虎図

Dragon and Tiger

江戸時代17世紀

紙本墨画

150.8×356.0

平成25年度 購入



J-307

雲谷等竺

UNKOKU, Tojiku

1741～1803

山水図

Landscape

江戸時代18世紀

絹本墨画淡彩

99.9×36.7

平成25年度 西村壽氏 寄贈



J-308

如寄

Joki

達磨図

Bodhidharma

c.1496

紙本墨画淡彩

51.3×63.0

平成26年度 購入



J-309

高島北海

TAKASHIMA, Hokkai

1850～1931

花卉図

Flowers

1926

絹本着色

153.2×51.1

平成26年度 東條昭子氏 寄贈



J-310
 雲谷等達
 UNKOKU, Totatsu
 1667~1725
 雲龍図
 Dragon
 18世紀後半
 絹本墨画
 33.8×53.9
 平成26年度 田尻和彦氏 寄贈



J-311
 雲谷等知
 UNKOKU, Tochi
 1730~1770
 瀧に鷹図
 Hawk
 18世紀初
 紙本着色
 119.8×48.0
 平成26年度 田尻和彦氏 寄贈



O-236
 松田正平
 MATSUDA, Shohei
 1913~2004
 M夫人の肖像
 Portrait of Mme. M
 1953年
 油彩・カンヴァス
 53.0×40.9
 平成25年度 購入



O-237
 松田正平
 MATSUDA, Shohei
 1913~2004
 婦人像
 Portrait of a Young Woman
 1935年
 油彩・カンヴァス
 162.0×112.0
 平成25年度 購入



O-238
 松田正平
 MATSUDA, Shohei
 1913~2004
 孫次郎像
 Portrait of Magojiro
 1958年
 油彩・カンヴァス
 17.9×13.9
 平成25年度 購入



O-239
 松田正平
 MATSUDA, Shohei
 1913~2004
 二人の裸婦
 Two Nudes
 1939年
 油彩・カンヴァス
 53.3×72.8
 平成25年度 購入



O-240
松田正平
MATSUDA, Shohei
1913~2004
綾取り
Cat's Cradle
1958年
油彩・板
61.0×91.0
平成25年度 購入



O-241
松田正平
MATSUDA, Shohei
1913~2004
自画像
Self-portrait
1937年
油彩・カンヴァス
45.5×33.3
平成25年度 購入



O-242
松田正平
MATSUDA, Shohei
1913~2004
裸婦習作
Nude, Study
1935年
油彩・カンヴァス
53.5×72.8
平成25年度 松田まり子氏 寄贈



O-243
松田正平
MATSUDA, Shohei
1913~2004
N氏の肖像
Portrait of Mr. N
1935年
油彩・カンヴァス
60.3×50.0
平成25年度 新田昌史氏 寄贈



O-244
松田正平
MATSUDA, Shohei
1913~2004
光海岸
The Coast of Hikari
1950年頃
油彩・カンヴァス
45.6×37.4
平成25年度 新田昌史氏 寄贈



O-245
桑重儀一
KUWASHIGE, Giichi
1883~1943
風景
Landscape
不詳
油彩・カンヴァス
31.3×40.5
平成25年度 新田昌史氏 寄贈



O-246
末松正樹
SUEMATSU, Masaki
1908~1997
作品
Work
不詳
油彩・カンヴァス
130.0×97.0
平成25年度 寄贈



O-247
末松正樹
SUEMATSU, Masaki
1908~1997
曜
Shine
1960年
油彩・カンヴァス
95.5×99.5
平成25年度 寄贈



O-248
末松正樹
SUEMATSU, Masaki
1908~1997
偶
Fortuity
1962年
油彩・カンヴァス
116.0×91.0
平成25年度 寄贈



O-249
末松正樹
SUEMATSU, Masaki
1908~1997
回帰
Recurrence
1985年
油彩・カンヴァス
130.0×130.0
平成25年度 寄贈



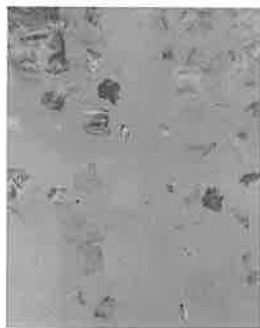
O-250
岩本拓郎
IWAMOTO, Takuro
1951~
SOU-09-K (R・G) 春
SOU-09-K (R・G) Spring
2009年
油彩・カンヴァス
130.3×162.1
平成25年度 望月義也氏 寄贈



O-251
岩本拓郎
IWAMOTO, Takuro
1951~
SOU-09-K (B) 夏
SOU-09-K (B) Summer
2009年
油彩・カンヴァス
130.3×162.1
平成25年度 望月義也氏 寄贈



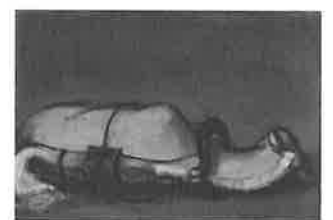
O-252
岩本拓郎
IWAMOTO, Takuro
1951~
SOU-09-K (Y・O) 秋
SOU-09-K (Y・O) Autumn
2009年
油彩・カンヴァス
130.3×162.1
平成25年度 望月義也氏 寄贈



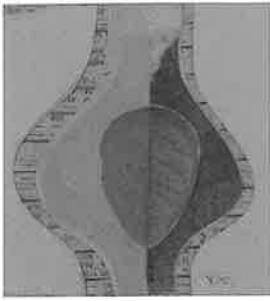
O-253
岩本拓郎
IWAMOTO, Takuro
1951~
SOU-09-K (T・U) 冬
SOU-09-K (T・U) Winter
2009年
油彩・カンヴァス
130.3×162.1
平成25年度 望月義也氏 寄贈



O-254
宮崎進
MIYAZAKI, Shin
1922~
うつろう
Wandering
1990年
油彩・カンヴァス
194.0×162.5
平成26年度 末永汎本氏 寄贈



O-255
香月泰男
KAZUKI, Yasuo
1911~1974
休憩
Rest
1947年
油彩・カンヴァス
47.0×68.0
平成26年度 購入



O-256
桂ゆき
KATSURA, Yuki
1913~1991
作品 (木の葉)
Work (Leaf)
1935年
コラージュ
(紙、葉、布・紙)
7.7×6.8
平成26年度 桂彰成氏 寄贈



O-257
桂ゆき
KATSURA, Yuki
1913~1991
作品 (コルク)
Work (Cork)
1935年
コルク・板
53.0×45.0
平成26年度 桂彰成氏 寄贈



O-258
桂ゆき
KATSURA, Yuki
1913~1991
ラストスパート
Last Spurt
1964年
油彩、紙、糸・板
102.9×72.5
平成26年度 桂彰成氏 寄贈



O-259
桂ゆき
KATSURA, Yuki
1913~1991
帰り道
Way Back
1934年頃
油彩・カンヴァス
54.7×91.0
平成26年度 桂彰成氏 寄贈



C-230
山本晃
YAMAMOTO, Akira
1944~
輝翔
Soaring
2014年
金・銀・銅及びその合金
14.5×11.0×31.7
平成26年度 購入



C-231
山本晃
YAMAMOTO, Akira
1944~
静唱
Chant
2008年
金・銀・銅及びその合金
21.0×19.5×16.0
平成26年度 購入



C-232
山本晃
YAMAMOTO, Akira
1944~
白椿
White camellia
2009年
金・銀・銅及びその合金
15.5×25.3×13.3
平成26年度 購入



C-233
山本晃
YAMAMOTO, Akira
1944~
夕茜
Sunset glow
2010年
金・銀・銅及びその合金
19.3×23.8×11.4
平成26年度 購入

*C-230~C-233は、以後移管を行い、現在山口県立萩美術館・浦上記念館所蔵

(3) 作品修理・修復

平成25年度

- (1) 作 品：O-148《銭湯》松田正平（1955年 油彩・カンヴァス）
修復家：大原秀之
処 置 ・写真撮影
・剥落部分の充填、補彩
・ニスの塗布
・報告書作成
- (2) 作 品：J-301《耕作図屏風》雲谷等與（17世紀 六曲一双屏風 紙本墨画淡彩）
修復家：馬場秀雄 棚橋映水
処 置 ・調査記録、写真撮影
・解体
・淡彩墨剥落止め
・埃、汚れ除去
・本紙下地、裏打ち紙除去
・不調和な補彩が施された補紙の除去
・欠損箇所への補紙
・肌裏打ち
・補紙への補彩
・表装裂を新調、新糊による肌裏打ち
・骨下地を新調し下地処理をした六曲屏風下地へ張り込み（本紙、表装裂、新調裏張り紙）
・縁木と金具を新調し取り付け
・記録、報告書作成

平成26年度

- (1) 作 品：O-236《M夫人の肖像》松田正平（1953年 油彩・カンヴァス）
修復家：大原秀之
処 置 ・写真撮影
・画面のクリーニング
・作品裏面のクリーニング
・剥落部分の充填、成形
・剥落部分の補彩
・ニスの塗布
・額装、バックパネル設置
・報告書作成
- (2) 作 品：O-237《婦人像》松田正平（1935年 油彩・カンヴァス）
修復家：大原秀之
処 置 ・写真撮影
・画面のクリーニング
・ワックスの除去
・合成接着剤を剥落部分に塗布
・作品裏面のクリーニング
・剥落部分の周縁部の接着、固定
・余分な接着剤の除去
・剥落部分の充填、成形
・剥落部分の補彩
・ニスの塗布
・額装、バックパネル設置
・報告書作成

- (3) 作 品：O-240《綾取り》松田正平（1958年 油彩・板）
修復家：大原秀之
処 置 ・写真撮影
・画面のクリーニング
・付着物の除去
・作品裏面のクリーニング
・裏面のベニヤ板の接着
・額装、バックパネル設置
・報告書作成
- (4) 作 品：O-241《自画像》松田正平（1937年 油彩・カンヴァス）
修復家：大原秀之
処 置 ・写真撮影
・合成接着剤を剥落部分に塗布
・作品裏面のクリーニング
・剥落部分の周縁部の接着、固定
・新しい木枠への張り込み
・余分な接着剤の除去
・画面のクリーニング
・剥落部分の充填、成形
・剥落部分の補彩
・ニスの塗布
・額装、バックパネル設置
・報告書作成
- (5) 作 品：O-243《N氏の肖像》松田正平（1935年 油彩・カンヴァス）
修復家：大原秀之
処 置 ・写真撮影
・画面のクリーニング
・黄変したニスの除去
・合成接着剤を剥落部分に塗布
・作品裏面のクリーニング
・剥落部分の周縁部の接着、固定
・余分な接着剤の除去
・剥落部分の充填、成形
・剥落部分の補彩
・額のクリーニング
・ニスの塗布
・額装、バックパネル設置
・報告書作成
- (6) 作 品：O-244《光海岸》松田正平（1950年頃 油彩・カンヴァス）
修復家：大原秀之
処 置 ・写真撮影
・画面のクリーニング
・合成接着剤を剥落部分に塗布
・作品裏面のクリーニング
・剥落部分の周縁部の接着、固定
・余分な接着剤の除去
・剥落部分の充填、成形
・剥落部分の補彩
・ニスの塗布
・額のクリーニング
・額の欠損部分の充填、成形

- ・額の補彩
- ・額装、バックパネル設置
- ・報告書作成

(7) 作品：S-105《MASK-UN》澄川喜一（1968年 木 [桂、チーク、樟、ナツツ]）

修復家：大原秀之

処置 ・写真撮影

- ・剥落木片にPVA（ポリビニルアルコール）接着剤を塗布
- ・クランプで締めて圧着
- ・微細な欠損部を、膠と炭酸カルシウムによるパテで充填
- ・アクリル絵の具で補彩
- ・作品裏面のクリーニング
- ・表面に薄くワックスをかける

（4）美術図書

	平成25年度	平成26年度
図書	203	197
カタログ	336	374
逐次刊行物	574	597

入館者数一覧

平成25年度 (2013)

展覧会名	開催期間	有 料															小計
		個 人							団 体 ・ 前 売								
		一般		シニア		学生		計	一般		シニア		学生		計		
		料金	人数	料金	人数	料金	人数	人数	料金	人数	料金	人数	料金	人数	人数		
コレクション展	25.4.2~ 26.3.31(293)	300	2,832			200	230	3,062	240	86	0	61	160	61	147	3,209	
コレクション展(特別展とのセット等)	25.4.2~ 26.3.31(293)	100	11,849			100	273	12,122	100				100		0	12,122	
松田正平展	25.4.11~ 5.26(41)	900	4,718	700	1,681	700	87	6,486	700	2,102	500	591	500	25	2,718	9,204	
ナント美術館名品展	25. 6.4~ 7.7(30)	900	7,650	700	1,951	700	202	9,803	700	3,286	500	681	500	80	4,047	13,850	
松林桂月展	25.8.8~ 9.16(35)	900	5,227	700	2,032	700	115	7,374	700	1,513	500	496	500	80	2,089	9,463	
五百羅漢図展	25.10.10~ 12.8(52)	1,200	18,237	1,000	5,024	1,000	317	23,578	1,000	7,106	800	1,600	800	226	8,932	32,510	
第67回山口県美術展覧会	26.3.13~ 3.30(16)	500	1,467	400		400	38	1,505	400				300		0	1,505	
県立大学ジャパン・フィンランド展	25.12.13~ 12.15(3)														0	0	
山口県学校美術展覧会	26.1.2~ 1.26(6)														0	0	
山口県立大学卒業制作展	26.1.29~ 2.2(5)														0	0	
山口芸術短期大学卒業制作展	26.2.6~ 2.9(4)														0	0	
山口大学教育学部美術教育卒業・終了制作展	26.2.13~ 2.16(4)														0	0	
展覧会合計			51,980		10,688		1,262	63,930		14,093		3,429		472	17,933	81,863	
イベント（特別展イベント、指定管理者自主企画 等）合計																	
年間総入館者数																	

無 料										合 計
小・中生	高校生	18才以下のその他	招待券 ポスター 掲示	案内状	シニア (70才以上)	障がい者 手帳等	教育・ 文化週間 及び 無料展覧会	その他	小計	
1,827	369	346			6,403	1,979	2,710	1,021	14,655	17,864
									0	12,122
720	71	218	3,429	129		566		250	5,383	14,587
770	172	400	4,072	128		801		307	6,650	20,500
421	127	162	3,748	341		564		111	5,474	14,937
2,706	519	1,217	6,655	193		1,749		568	13,607	46,117
125	18	58	559		821	133		159	1,873	3,378
16		118					628		762	762
1,547	144	533			222	25	3,061	5	5,537	5,537
1		7			47		557	8	620	620
2	4	4			21		303	6	340	340
5		7			12		398		122	422
8,140	1,424	3,070	18,463	791	7,526	5,817	7,357	2,435	55,023	137,186
										4,215
										141,401

平成26年度 (2014)

展覧会名	開催期間	有 料													
		個 人							団 体 ・ 前 売						
		一般		シニア		学生		計	一般		シニア		学生		計
		料金	人数	料金	人数	料金	人数	人数	料金	人数	料金	人数	料金	人数	人数
コレクション展	26.4.1～ 26.3.31(292)	300	2,403	0		200	157	2,560	240	29	0		160	31	60
コレクション展(特別展とのセット等)	26.4.1～ 26.3.31(293)	100	12,775			100	218	12,993	100				100		0
香月泰男展	26.4.16～ 5.6(19)	500	988	400	231	400	37	1,256							0
大浮世絵展	26.5.16 ～7.13(51)	1,200	41,772	1,000	10,339	1,000	800	52,911	1,000	16,215	800	3,601	800	335	20,151
山下清展	26.7.26～ 9.7(38)	1,000	29,196	800	6,369	800	473	36,038	800	12,223	600	2,159	600	189	14,571
雪舟と雲谷派	26.10.30～ 11.30(30)	500	1,408	400	590	400	111	2,109							0
明治工芸の粋*	27.2.21～ 3.31(33)	1,200	6,407	1,000	2,365	1,000	163	8,935	1,000	2,476	800	553	800	51	3,080
第68回山口県美術展覧会	26.10.2～ 10.19(17)	500	2,041			400	41	2,082	400				300	34	34
山口県立大学地域の宝物	26.12.10～ 12.14(5)		272				26	298							0
山口県立学校美術展覧会	27.1.14～ 18(5)							0							0
山口県立大学卒業制作展	27.1.28～ 2.1(5)							0							0
山口芸術短期大学卒業制作展	27.2.4～ 2.8(5)							0							0
山口大学教育学部美術教育卒業・終了制作展	27.2.12～ 2.15(4)							0							0
展覧会合計			97,262		19,894		2,026	119,182		30,943		6,313		640	37,896
イベント(特別展イベント、指定管理者自主企画等)合計															
年間総入館者数															

*明治工芸の粋展は、年度をまたいで開催(平成27年2月21日～4月12日、46日間)
全会期を通じての入場者数は以下のとおり

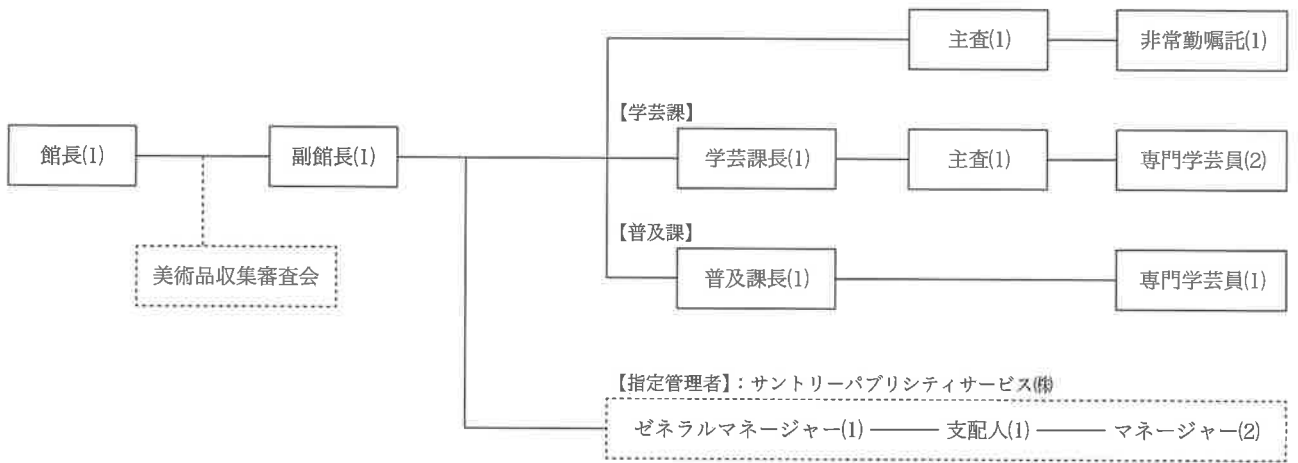
展覧会名	開催期間	有 料													
		個 人							団 体 ・ 前 売						
		一般		シニア		学生		計	一般		シニア		学生		計
		料金	人数	料金	人数	料金	人数	人数	料金	人数	料金	人数	料金	人数	人数
明治工芸の粋	27.2.21～ 4.12(46)	1,200	13,498	1,000	4,132	1,000	249	17,879	1,000	2,480	800	573	800	51	3,104

メンバーズ クラブ	小計	無 料									小計	合 計
		小・中生	高校生	18才以下 のその他	招待券 ポスター 掲示	案内状	シニア (70才以上)	障がい者 手帳等	教育・ 文化週間 及び 無料展覧会	その他		
	2,620	1,978	457	432			6,277	2,812	1,143	1,060	14,159	16,779
	12,993										0	12,993
45	1,301	151	18	32	865	76		94		197	1,433	2,734
2,930	75,992	5,650	1,196	1,827	10,330	251		4,001		808	24,063	100,055
1,781	52,390	7,283	928	2,618	7,764	467		3,412		489	22,961	75,351
100	2,209	95	8	39	1,231	178		203	2,028	219	4,001	6,210
1,632	13,647	505	116	229	2,226	115		849		378	4,418	18,065
	2,116	126	12	57	569		1,075	210		174	2,223	4,339
	298	25						1		11	37	335
	0	835	62	386			233	12	2,950	9	4,487	4,487
	0	6	14	10			6	2	615	2	655	655
	0	2	4	3			15	3	341	23	391	391
	0	3	2	8			9	1	387		410	410
6,488	163,566	16,659	2,817	5,641	22,985	1,087	7,615	11,600	7,464	3,370	79,238	242,804
											2,209	
											245,013	

メンバーズ クラブ	小計	無 料									小計	合 計
		小・中生	高校生	18才以下 のその他	招待券 ポスター 掲示	案内状	シニア (70才以上)	障がい者 手帳等	教育・ 文化週間 及び 無料展覧会	その他		
2,060	23,043	1,260	353	653	4,991	188		1,416		387	9,178	32,221

組織等

組織図



* ()は人数

美術品収集審査委員

浦上 敏朗	山口県立萩美術館・浦上記念館名誉館長
奥平 俊六	大阪大学文学部教授
奥津 聖	山口大学名誉教授
菊屋 吉生	山口大学教育学部教授
森川 紘一郎	元周南市美術博物館館長
	(以上25・26年度)

美術館職員構成

館長	二井 関成
副館長	斎藤 郁夫
主査	湯原 忠昭
嘱託	山本 一夫

学芸課

課長	河野 通孝
主査	荏開津通彦
専門学芸員	福田 善子
専門学芸員	岡本 麻美

普及課

課長	前田 淳子
専門学芸員	萬屋 健司

(以上25年度)

館長	二井 関成
副館長	斎藤 郁夫
主査	清水 孝二
嘱託	山本 一夫

学芸課

課長	河野 通孝
主査	荏開津通彦
専門学芸員	福田 善子
専門学芸員	岡本 麻美

普及課

課長	前田 淳子
専門学芸員	萬屋 健司

(以上26年度)

職員の動静

25.4

館長 二井関成、任用

学芸課専門学芸員 福田善子、新規採用（久留米市市民文化部文化財保護課）

学芸課専門学芸員 萬屋健司、普及課に内部異動

普及課学芸員 岡本麻美、専門学芸員に昇任、学芸課に内部異動

26.3

美術館主査 湯原忠昭、消防学校総務課長に転出

26.4

柳井農林事務所主査 清水孝二、美術館主査に転入

27.3

普及課長 前田淳子、山口県を退職

発行 山口県立美術館
山口市亀山町3-1
tel 083-925-7788 (代表)
fax 083-925-7790 (総務課)
083-925-7784 (学芸・普及課)

発行日 平成28年2月22日

印刷 山口印刷工業株式会社
tel 083-922-5055



